

---

敦賀発電所2号炉  
ボーリング柱状図の記事欄に係るご指摘への回答  
補足説明資料1

平成30年調査会社報告書のうち  
申請書に反映した10孔のボーリング柱状図記事欄の比較

令和2年9月24日  
日本原子力発電株式会社

余白

■本資料は、平成30年に受領した調査会社報告書(委託期間:平成24年～30年)に含まれていて、平成27年11月の申請書の柱状図に反映した10孔について、柱状図記事欄の記載内容について比較を行ったものである。

■当該10孔のうち、5孔は平成24年に、5孔は平成27年にボーリング掘削を実施した。

- ・平成24年掘削の5孔については、平成27年の申請準備の時点では、調査会社において報告書を作成するための柱状図(報告書作成用柱状図)が作成されていた。
- ・平成27年掘削の5孔については、調査会社においてコア観察カードの作成が進められていた(報告書作成用柱状図は作成されていなかった)。

■今回、調査会社に保管されていた上記の報告書作成用柱状図とコア観察カードの記事欄を、申請書用柱状図の記事欄と比較を行い、変更内容・理由を整理した。

(注)

- ・平成27年掘削の5孔については、コア観察カードは文字が薄いことから、参考用に原文をワープロ変換したものを原文と合わせて掲載している。
- ・比較において確認された誤記等については、以下の注釈を付して示している。

※1: 誤記(今回の比較により新たに確認)

※2: 誤記(第865回審査会合資料2-2-2で確認済みの誤記)

※3: 申請書用柱状図で誤記が修正されているもの

※4: 第865回審査会合資料2-2-2の記載内容に修正が必要なもの。本資料の末尾に修正前と修正後の資料を添付した。

## 目次

掘削時期	No.	ボーリング孔名	頁
平成24年	1	H24-B8-21	補足1-1-1
	2	H24-B8-22	補足1-2-1
	3	H24-B11-1	補足1-3-1
	4	H24-B11-2	補足1-4-1
	5	H24-B14-2	補足1-5-1
平成27年	6	H27-B-1	補足1-6-1
	7	H27-B-2	補足1-7-1
	8	H27-B-3	補足1-8-1
	9	H27-B-4	補足1-9-1
	10	H27-D5-1	補足1-10-1

第865回審査会合資料2-2-2の修正箇所

補足1-11-1

■ 報告書作成用柱状図およびコア観察カードで用いている記号の凡例を以下に示す。

・硬軟

A <sub>g</sub>	極めて硬質。ハンマーで澄んだ金属音がする。
B <sub>g</sub>	硬質。ハンマーで金属音がする。
C <sub>g</sub>	中硬質。ハンマーで多少濁った音がする。
D <sub>g</sub>	軟質。ハンマーで濁音がする。
E <sub>g</sub>	極めて軟質。ハンマーで著しく濁った音がする。

・コア形状

I <sub>g</sub>	50cm以上の長柱状
II <sub>g</sub>	20cm以上50cm未満の長柱状
III <sub>g</sub>	10cm以上20cm未満の柱状
IV <sub>g</sub>	3cm以上10cm未満の岩片状～短柱状
V <sub>g</sub>	1cm以上3cm未満の岩片状
VI <sub>g</sub>	1cm未満の土砂状

・割れ目の状態

a <sub>g</sub>	密着, 新鮮
b <sub>g</sub>	酸化鉄付着
c <sub>g</sub>	細粒物質を挟む。
d <sub>g</sub>	割れ目として認識できない。

・風化

α	非常に新鮮である。造岩鉱物の変質はまったくない。
β	新鮮である。有色鉱物の周辺に赤褐色化がある。長石の変質はない。
γ	弱風化している。有色鉱物の酸化汚染がある。長石の部分的な変質(白色化)がある。
δ	風化している。有色鉱物が黄金色あるいは周辺が褐色粘土化している。長石の大部分が変質している。
ε	強風化している。石英および一部の長石を除きほとんど変質し原岩組織は失われている。

・変質

1	非変質	肉眼的に変質鉱物の存在が認められないもの。
2	弱変質	原岩組織を完全に残し、変質程度(脱色)が低いもの。あるいは非変質部の割合が高いもの(肉眼で50%以上)。
3	中変質	肉眼で変質が進んでいると判定できるが、原岩組織を明らかに残し、原岩判定が容易なもの。又は、非変質部を残すもの及び網状変質部。
4	強変質	構成鉱物、岩片等が変質鉱物で完全置換され、原岩組織を全く～殆ど残さないもの。

・岩級区分

割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ				
		A <sub>g</sub>	B <sub>g</sub>	C <sub>g</sub>	D <sub>g</sub>	E <sub>g</sub>
a <sub>g</sub>	I <sub>g</sub>	B'	-	-	-	-
	II <sub>g</sub>	B'	C <sub>H</sub> '	-	-	-
	III <sub>g</sub>	-	C <sub>H</sub> '	-	-	-
	IV <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
	V <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
	VI <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
b <sub>g</sub>	I <sub>g</sub>	B'	B'	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	-
	II <sub>g</sub>	C <sub>H</sub> '	C <sub>H</sub> '	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	-
	III <sub>g</sub>	C <sub>H</sub> '	C <sub>H</sub> '	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	-
	IV <sub>g</sub>	-	C <sub>M</sub> '	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	-
	V <sub>g</sub>	-	C <sub>L</sub> '	C <sub>L</sub> '	C <sub>L</sub> '	-
	VI <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
c <sub>g</sub>	I <sub>g</sub>	-	C <sub>H</sub> '	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	D'
	II <sub>g</sub>	-	C <sub>M</sub> '	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	D'
	III <sub>g</sub>	-	C <sub>M</sub> '	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	D'
	IV <sub>g</sub>	-	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	C <sub>L</sub> '	D'
	V <sub>g</sub>	-	C <sub>L</sub> '	C <sub>L</sub> '	C <sub>L</sub> '	D'
	VI <sub>g</sub>	-	-	-	D'	D'
d <sub>g</sub>	I <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
	II <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
	III <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
	IV <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
	V <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
	VI <sub>g</sub>	-	-	-	D'	D'

・破碎度区分

Hc-1	粘土及びシルトを主体とし、少量の砂及び礫を伴う。粘土化が進み全体に軟質化している。
Hc-2	粘土及びシルトの基質中に礫状ないしレンズ状の岩片を含む。基質及び礫は粘土化が進み軟質化している。
Hb	礫を多く含み、基質は粘土、シルト及び砂からなる。基質は粘土化が進み軟質化しているが、礫は比較的新鮮で硬い。
Hj	粘土及びシルトを挟む割れ目が発達し、全体に脆い。岩片は比較的新鮮で硬いものから、やや粘土化が進み指圧で砂状化するものまである。網目状の粘土細脈が発達することがある。

## ■柱状図の記載について

申請書柱状図については以下の方針で記載している。

### (全体)

- ◆ 層相名, 岩相名と分布深度を記載。
- ◆ 岩石の構成鉱物, 石基, 斑晶, 粒径等については, 一般的な岩相の特徴であることから基本的に記載しないこととし, 特に目立つ区間(敦賀サイトに広く分布する岩相と異なる岩相の箇所等)について記載。
- ◆ マンガン汚染, 割れ目沿いの変色等の破碎帯評価に直接関係しない補足的な情報については記載しない。
- ◆ 割れ目の発達程度, コアの硬軟, 岩盤の劣化の程度等については, RQD, 最大コア長, 岩級区分等に含めて表現する。
- ◆ 岩盤中の挟在物のうち, その連続性・直線性や周囲の岩盤の劣化, 明瞭なせん断構造・変形構造等の破碎構造に関連するような特徴が見られないものについては, 風化・変質によるものや細粒物質が割れ目へ流入したもの等であると判断し記載しない。

### (破碎部)

- ◆ せん断構造・変形構造等の破碎構造が認められるものについては, 破碎部として漏れなく記載。
- ◆ 破碎部については, 破碎帯評価に重要と考えた以下の情報を記載。
  - ✓ 破碎部の破碎部内物質の粒度と色調を範囲で記載(例: 灰白色～黄橙色の粘土状～粘土混じり礫状)。
  - ✓ 破碎部のうち, 粘土・シルト幅を記載。
  - ✓ 連続性評価等で用いるBHTVで得られた走向・傾斜, 薄片観察で得られた変位センスを記載。
  - ✓ 断層岩区分は申請書時点では, カタクレーサイト主体であると判断した一部の破碎部について記載。
- ◆ 平成24年掘削の5孔( H24-B8-21,22 , H24-B11-1,2, H24-B14-2 )については, 申請書提出前に地盤安定性解析用の物性値設定を目的とした破碎部の詳細観察を実施しており, この詳細観察で得られた性状, 色調, 粘土の累計幅を記載。

余白

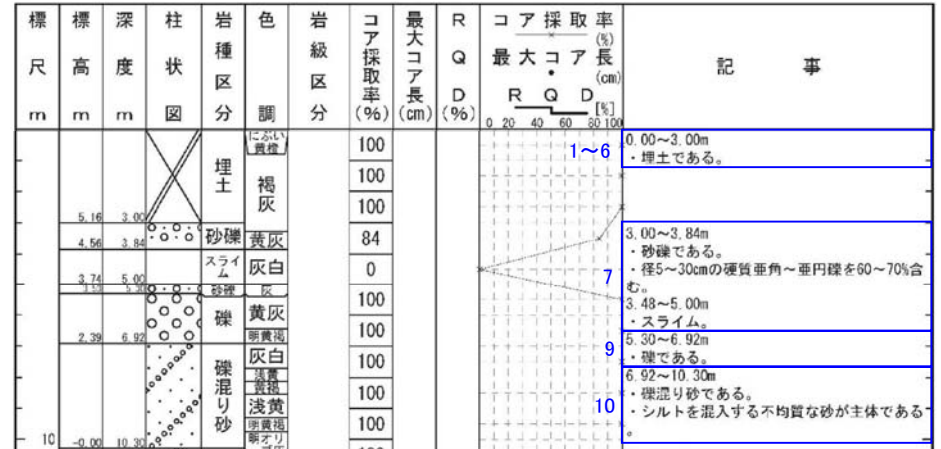
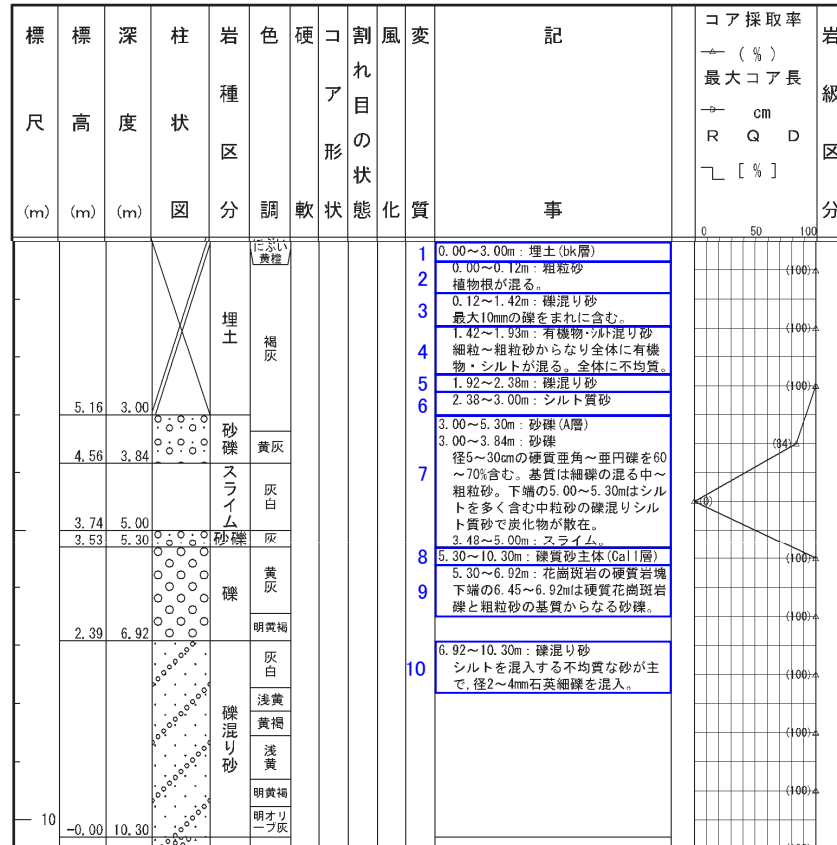
**H24-B8-21**

余白



報告書作成用柱状図  
(H26年9月)

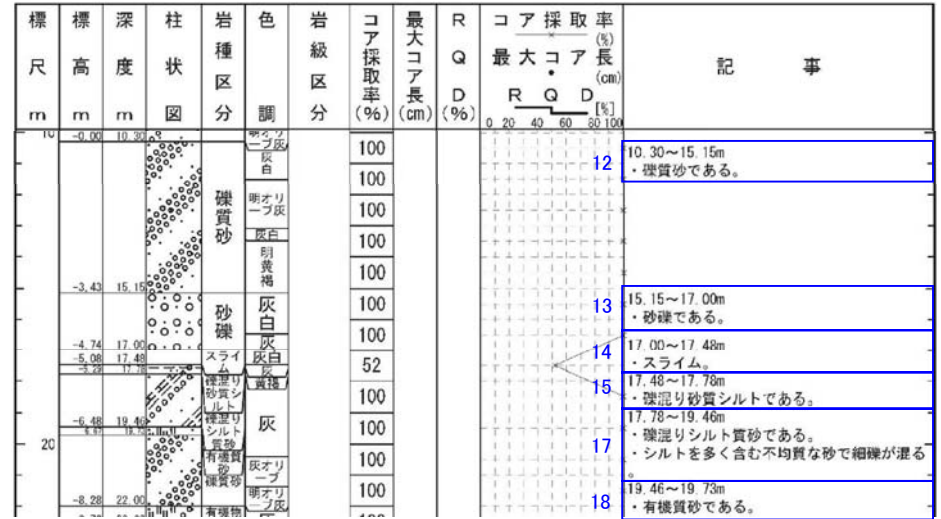
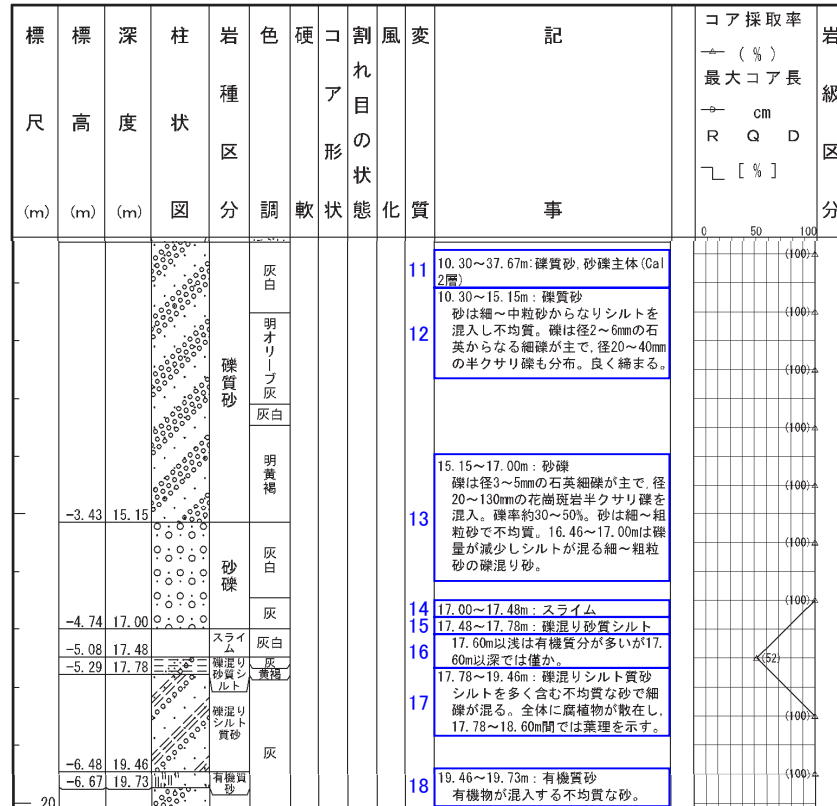
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図 (H26年9月) ⇒ 申請書用柱状図
1~6	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
7	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・周囲に比べ含まれる礫が大きく、目立つことから、礫の特徴として、礫径、円磨度、礫率を記載。
8	・区間毎の性状を個別に記載しているため、礫質砂主体とのまとめ書きについては削除。
9	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
10	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・下位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、下位層と区別できる特徴として、シルトの混入について記載。

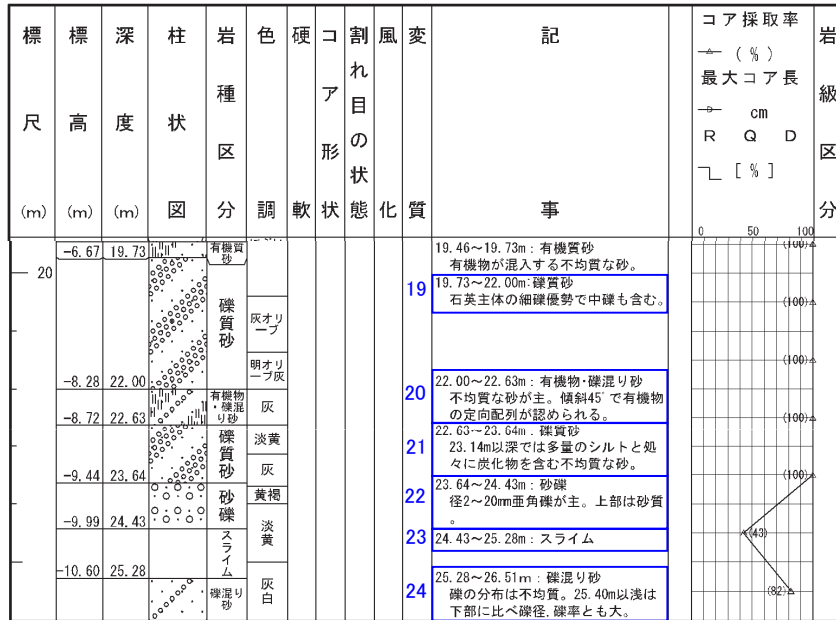
報告書作成用柱状図  
(H26年9月)

申請書用柱状図

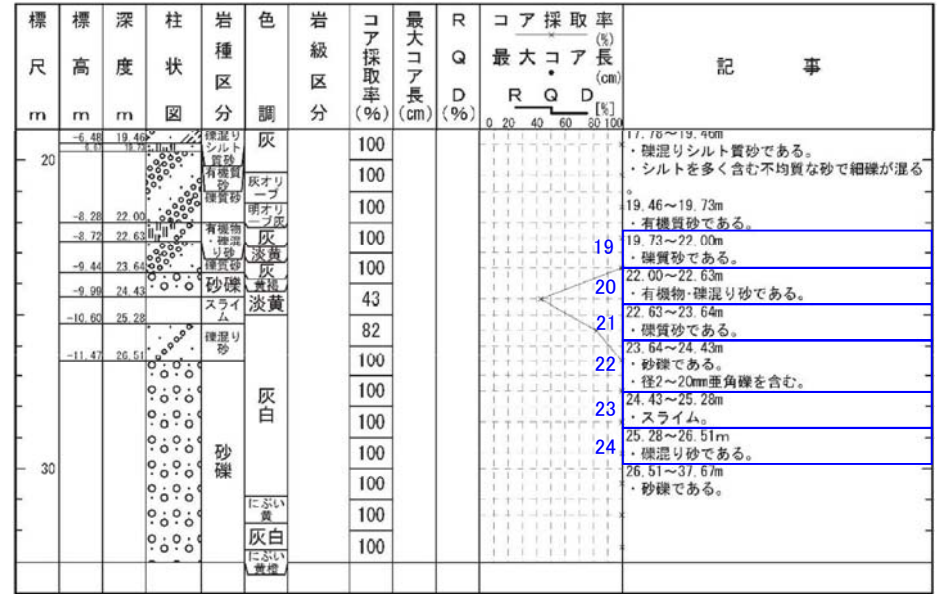


記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
11	・区間毎の性状を個別に記載しているため、礫質砂、砂礫主体とのまとめ書きは削除。
12	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
13	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
14	・変更なし
15, 16	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
17	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・下位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、下位層と区別できる特徴として、シルトと礫の含有について記載。 ・葉理については、不均質に含まれる有機物が帯状を呈したものであり、明瞭ではないため削除。
18	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。

報告書作成用柱状図  
(H26年9月)



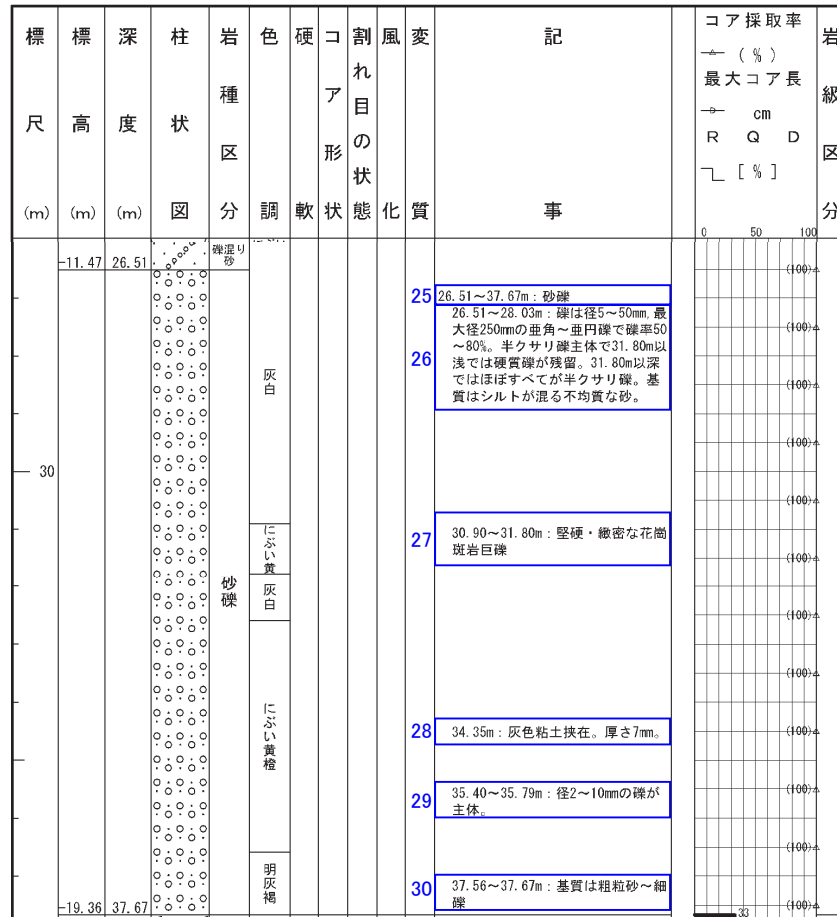
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
19	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
20	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・有機物の定向配列については、周囲の層相境界と同様の方向に記列していることから削除。
21	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
22	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・周囲に比べ含まれる礫が大きく、目立つことから、礫の特徴として、礫径、円磨度を記載。
23	・変更なし
24	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。

報告書作成用柱状図  
(H26年9月)

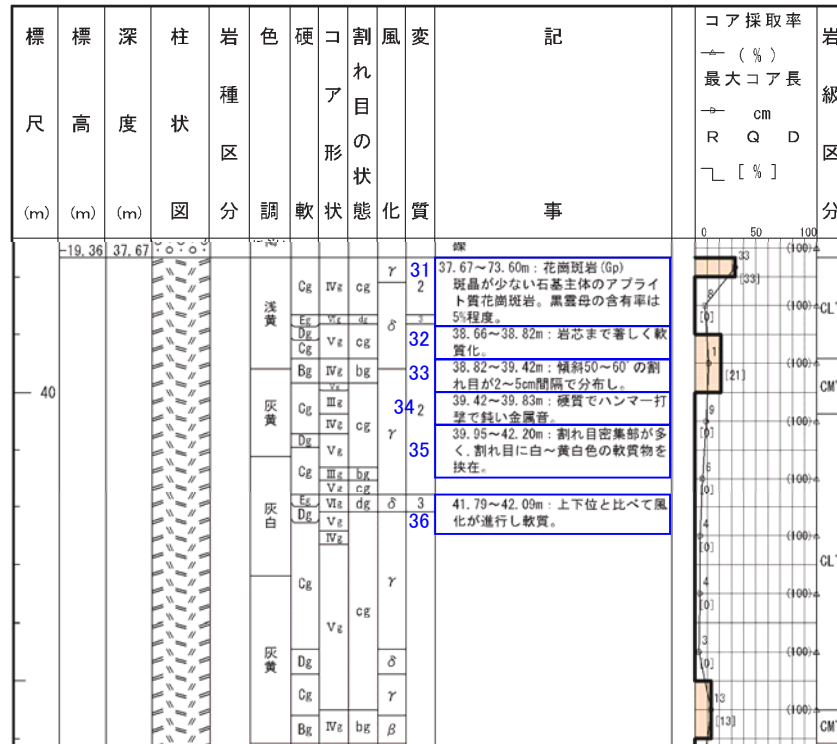
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
25~30	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。

報告書作成用柱状図  
(H26年9月)

申請書用柱状図

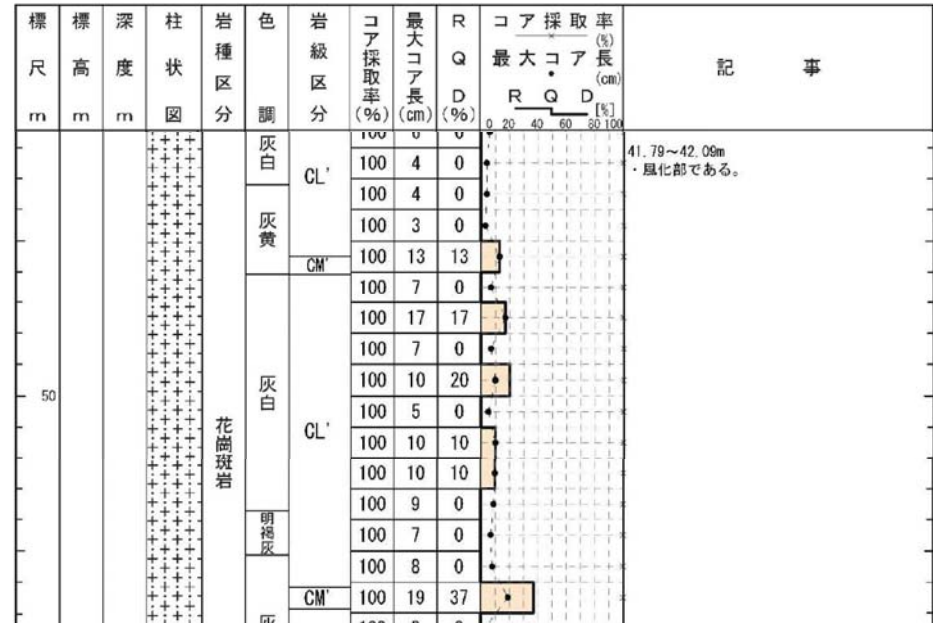
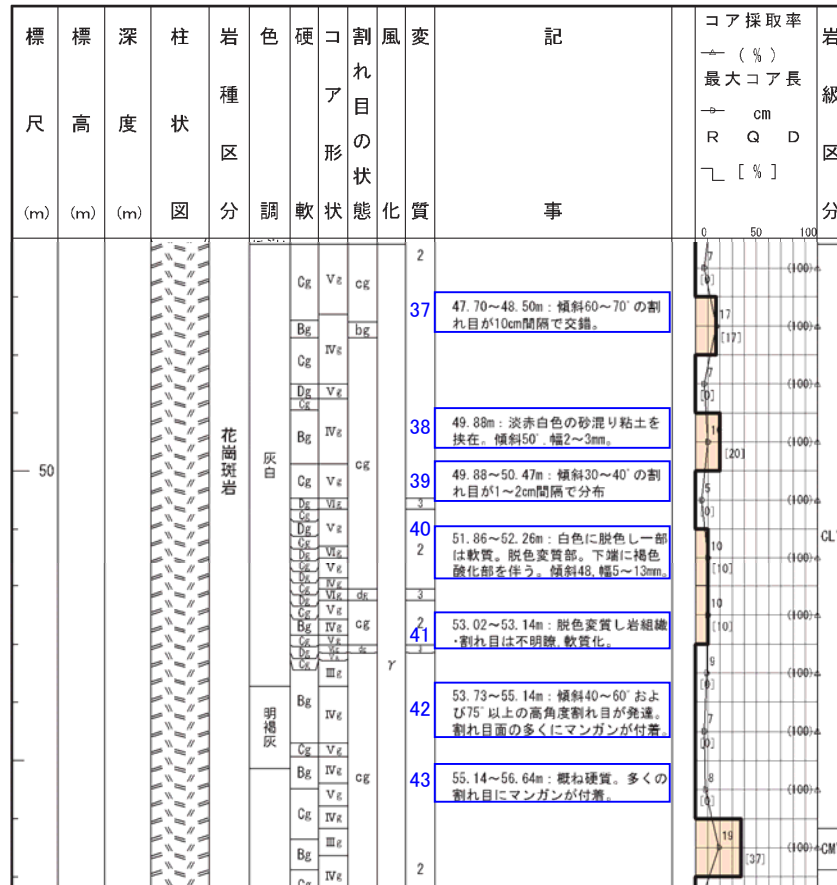


標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事
	-19.36	37.67			明灰場		100							
				浅黄	CL'		100	8	0			31	37.67~73.60m ・花崗斑岩である。	
				灰黄	CM'		100	11	21					
				灰白			100	9	0					
				灰黄	CL'		100	6	0					
				灰白			100	4	0			36	41.79~42.09m ・風化部である。	

記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
31	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。
32	・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。
33	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
34	・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。
35	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目に軟質物を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
36	・“風化”欄に基づき風化部と記載。

報告書作成用柱状図  
(H26年9月)

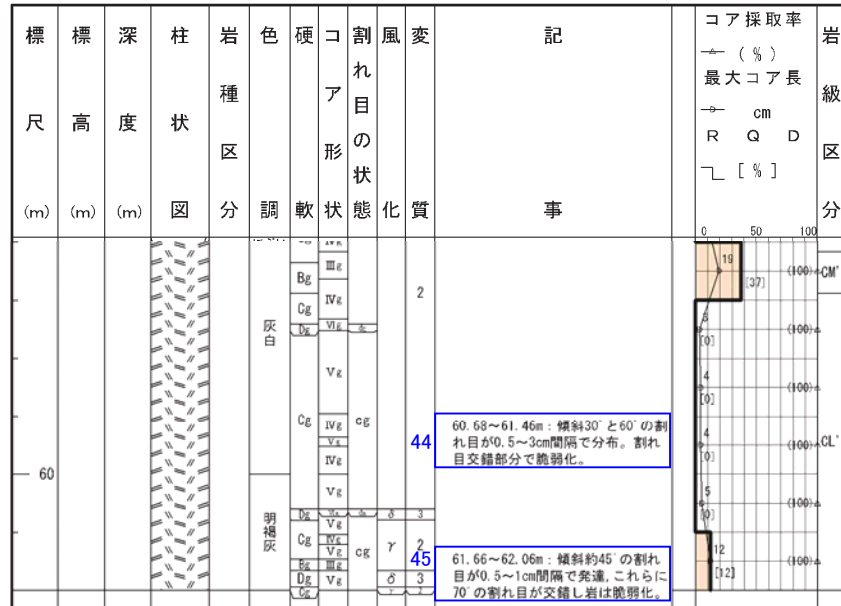
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
37	・割れ目の発達については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
38	・粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
39	・割れ目の発達については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
40, 41	・軟質化しているが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
42	・割れ目の発達については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。 ・マンガン汚染については、補足的なものであるため削除。
43	・硬軟については、良好な岩盤からなる区間内における相対的なものであるため削除。 ・マンガン汚染については、補足的なものであるため削除。

報告書作成用柱状図  
(H26年9月)

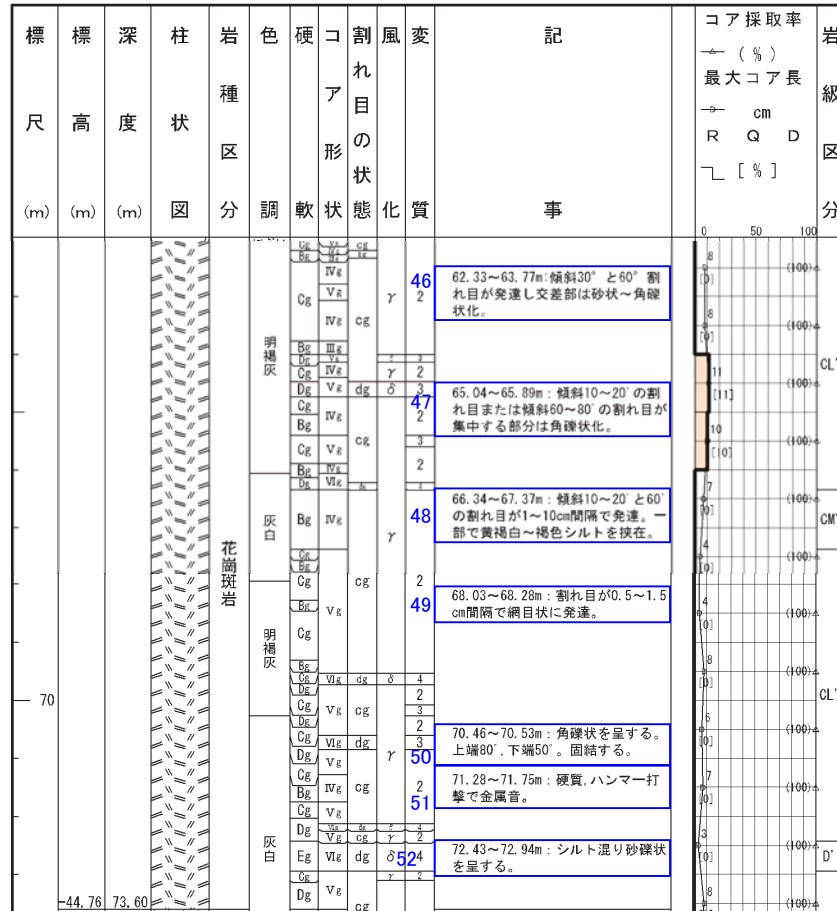
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
44, 45	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目の発達や脆弱性の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。</li> <li>・一部で砂状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> </ul>

報告書作成用柱状図  
(H26年9月)

申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
46, 47	・割れ目の発達や脆弱性の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・一部で砂状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
48	・割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。 ・割れ目にシルトを挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
49	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
50	・境界の傾斜については、ばらつきがあるため削除。 ・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。
51	・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。
52	・シルト混じり砂礫状を呈するが、シルトに明瞭かつ系統的な配列が認められないため削除。



報告書作成用柱状図  
(H26年9月)

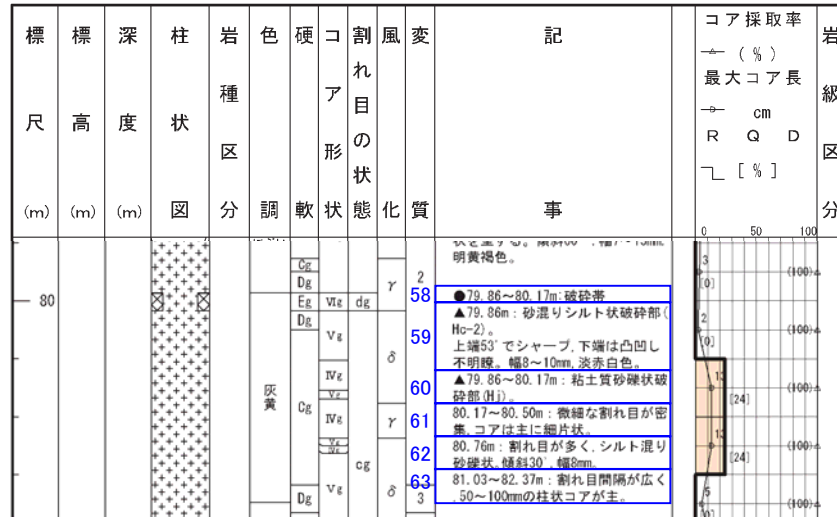


申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
53	・境界の明瞭さについては、漸移的であるため削除。
54	・砂礫状については、“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
55	・割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。 ・部分的な土砂化～細粒化については、直線性に乏しく、同系統の劣化が認められないことから削除。
56	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
57	・砂・礫混じりシルト状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

報告書作成用柱状図  
(H26年9月)



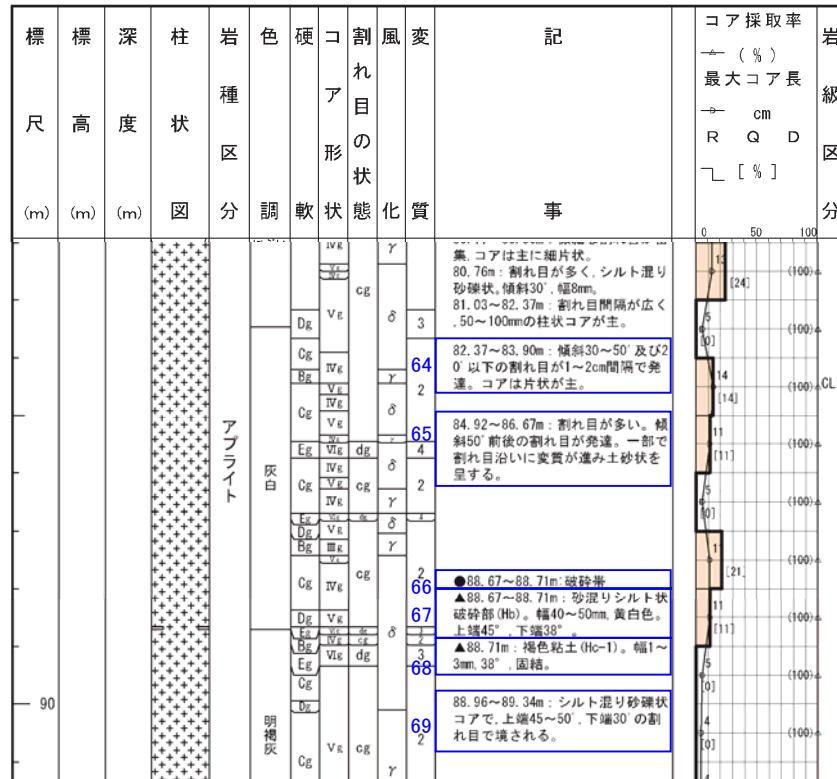
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
58~60	<ul style="list-style-type: none"> <li>色調、粒度、累計幅について、申請前までに別途行っていた、地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき記載。</li> <li>ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。</li> <li>破砕部の見かけの傾斜については補足的なものであるため、端部で取得したものを除き削除。</li> <li>下端傾斜 記載無し→30° ※1</li> <li>境界の直線性については、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> </ul>
61	<ul style="list-style-type: none"> <li>割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。</li> </ul>
62	<ul style="list-style-type: none"> <li>部分的にシルト混じり砂礫状を呈し、割れ目が発達する区間の下端深度を“コア形状”欄から読み取り、角礫状を呈すると記載。</li> </ul>
63	<ul style="list-style-type: none"> <li>50~100mmとの記載については、割れ目間隔をRQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。</li> </ul>

報告書作成用柱状図  
(H26年9月)

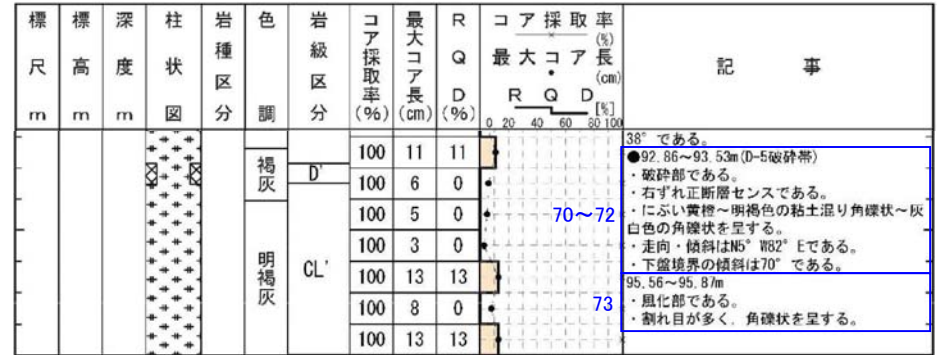
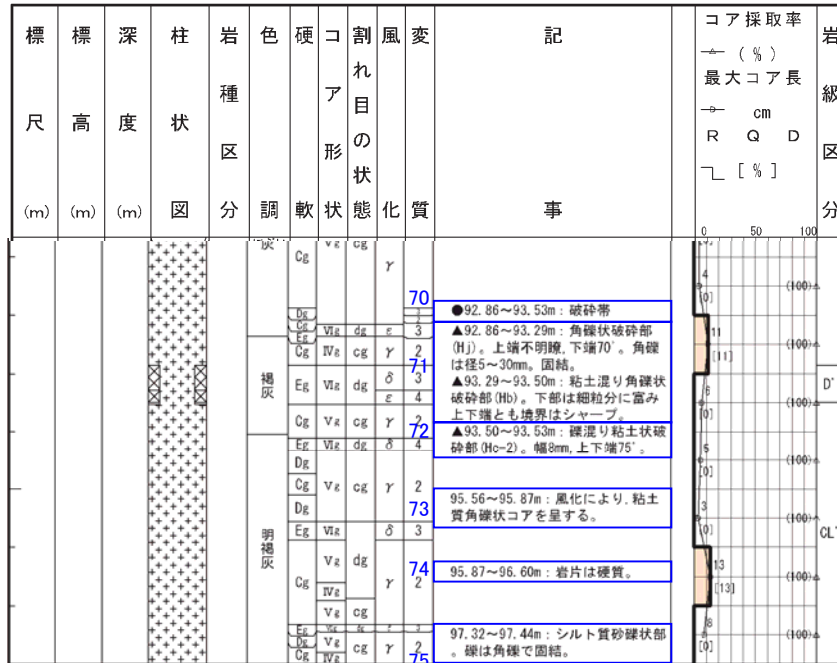
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
64	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
65	・割れ目が一部で土砂状を呈するが、いずれも掘削時の機械割れと判断し削除。
66~68	<ul style="list-style-type: none"> <li>・累計幅について、申請前までに別途行っていた、地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき記載。</li> <li>・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。</li> <li>・境界の傾斜について、報告書作成用柱状図に基づき記載。</li> <li>・硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> </ul>
69	・砂礫状については、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

報告書作成用柱状図  
(H26年9月)

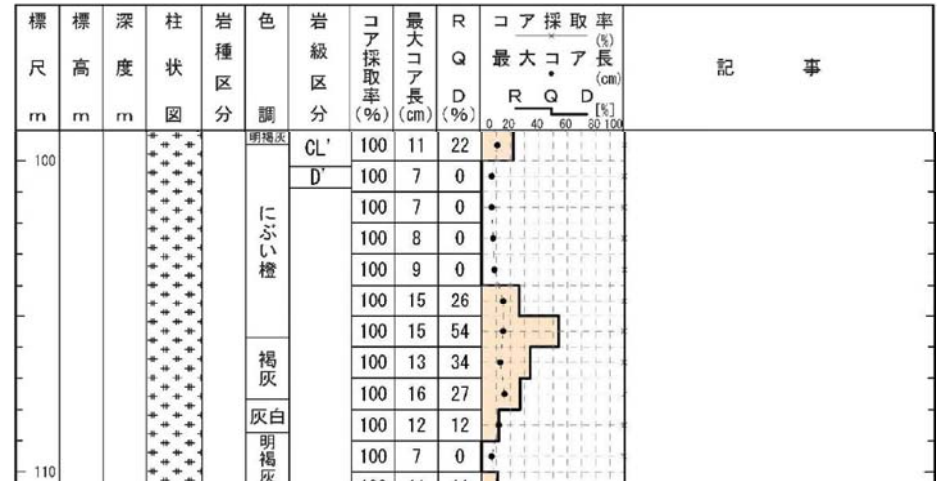
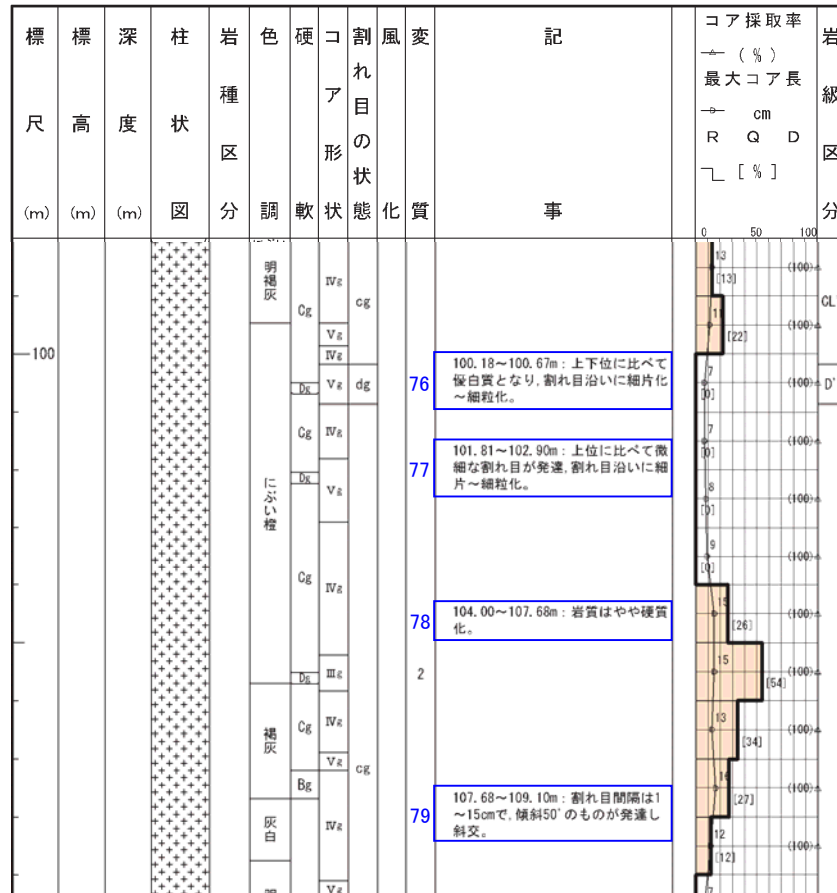
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
70~72	<ul style="list-style-type: none"> <li>薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。</li> <li>申請前までに別途行っていた、地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破碎部の再観察の結果に基づき、にぶい黄橙～明褐色の粘土混じり角礫状と記載。</li> <li>“色調”欄に基づき記載。</li> <li>灰白色は、褐灰色の誤り。※1</li> <li>ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。</li> <li>破碎部の見かけの傾斜については補足的なものであるため、端部で取得したものを除き削除。</li> <li>下盤境界の傾斜75° → 70° ※1, ※4</li> <li>角礫状部の粒径は補足的なものであるため、径5～30mmについては削除。</li> <li>下部は細粒分に富みとの記載については、上部との境界が不明瞭であるため削除。</li> <li>境界の粗さや硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> </ul>
73	<ul style="list-style-type: none"> <li>粘土質については、当該区間に不均質に含まれるものであるため削除。</li> </ul>
74	<ul style="list-style-type: none"> <li>硬軟については、岩級区分で示しているため削除。</li> </ul>
75	<ul style="list-style-type: none"> <li>砂礫状を呈するが、直線性に乏しく、周囲の岩盤が劣化が認められないことから削除。</li> </ul>

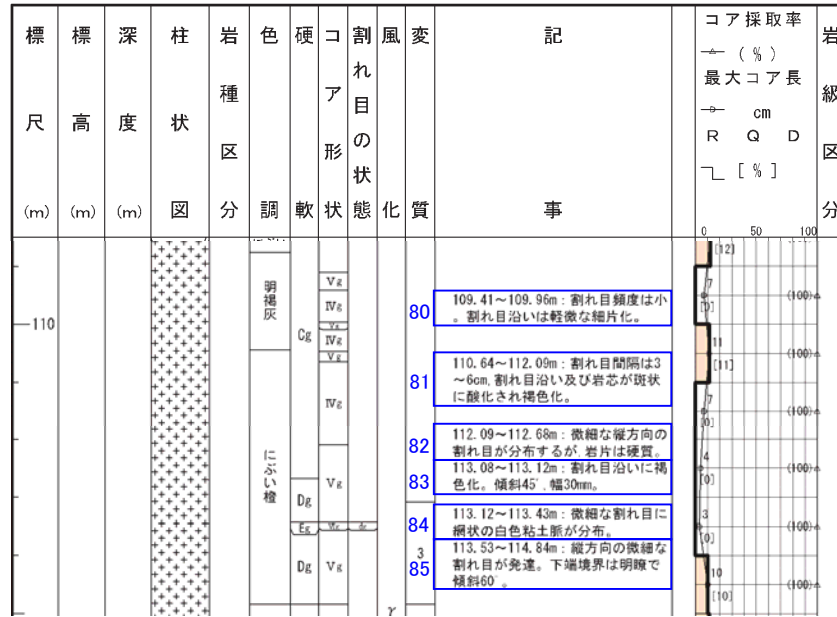
報告書作成用柱状図  
(H26年9月)

申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
76, 77	・細片化～細粒化しているが、連続性や直線性に乏しいことから削除。
78	・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。
79	・割れ目の発達の程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。

報告書作成用柱状図  
(H26年9月)



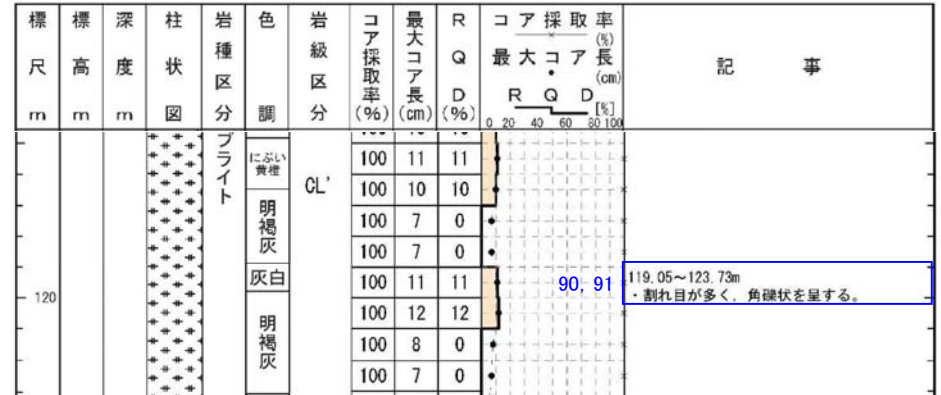
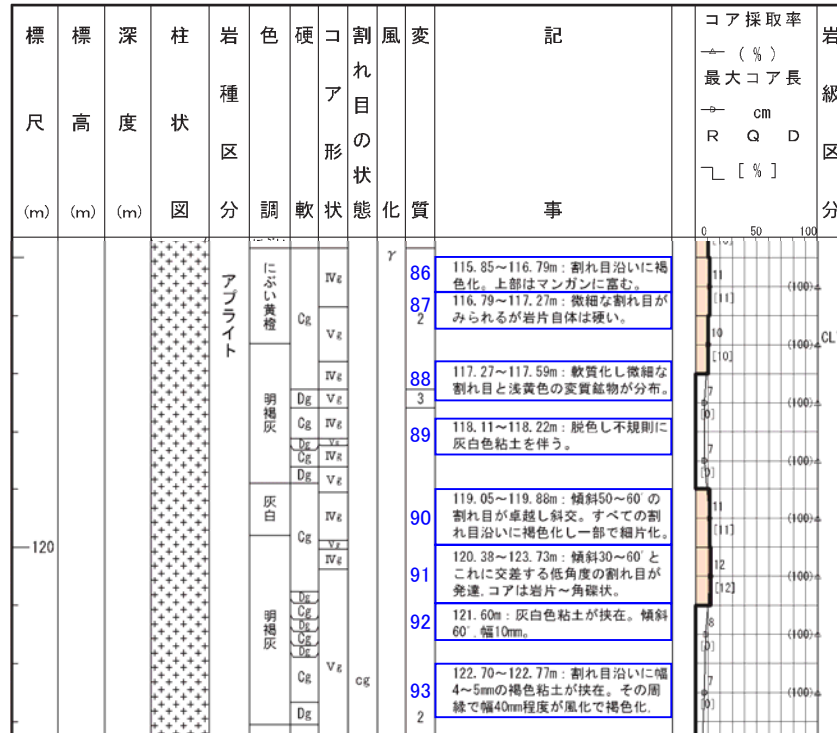
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
80	・割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
81	・割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・色調については、補足的なものであるため削除。
82	・硬軟や割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
83	・割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。
84	・一部に粘土を挟在するが、系統的でなく、連続性や直線性に乏しいことから削除。
85	・割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。

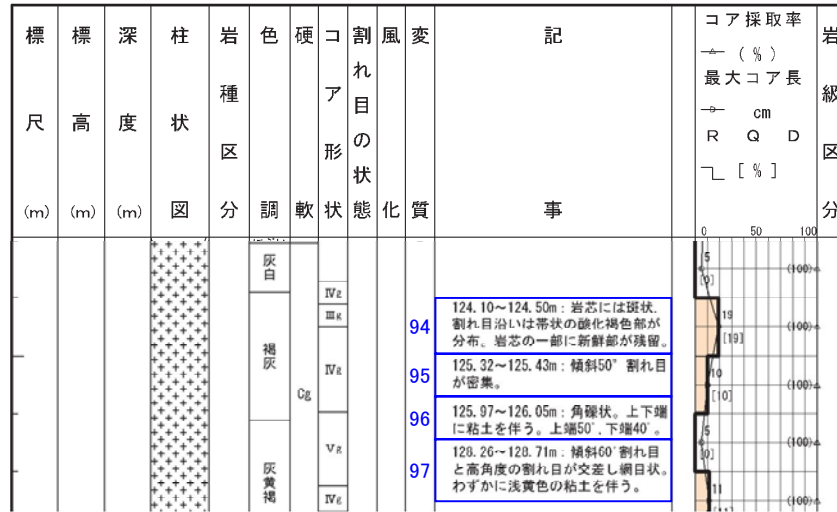
報告書作成用柱状図  
(H26年9月)

申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
86	・割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。
87	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
88	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。 ・鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
89	・一部で粘土を挟在するが、連続性や直線性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
90, 91	・割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。 ・一部割れ目沿いで細片化しているが、挟在物の連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
92	・割れ目に粘土を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
93	・割れ目に粘土を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。

報告書作成用柱状図  
(H26年9月)



申請書用柱状図

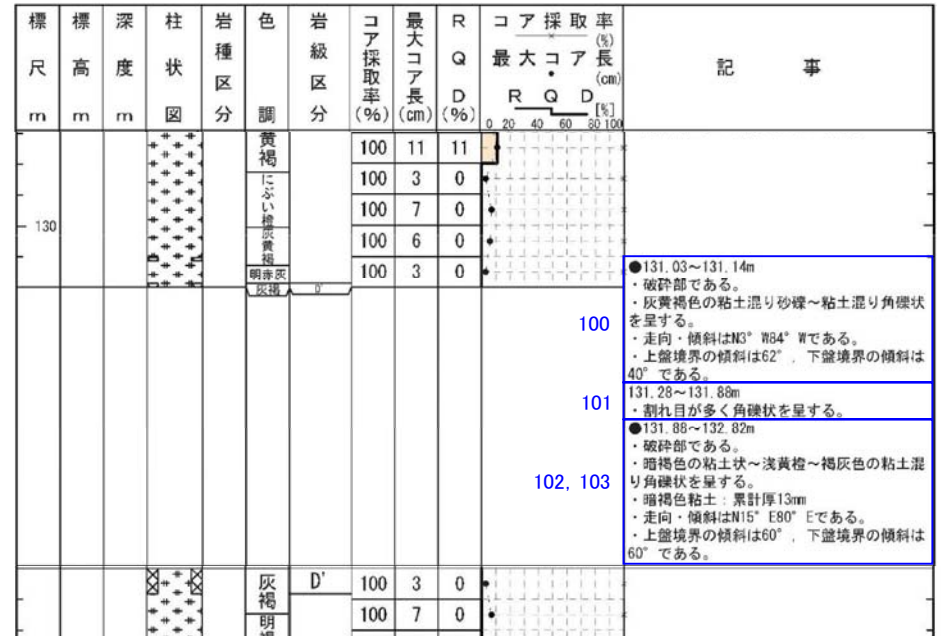


記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
94	・色調については、補足的なものであるため削除。
95	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
96	・割れ目に挟在する粘土については、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
97	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目に粘土を挟在するが、連続性に乏しいことから削除。



報告書作成用柱状図  
(H26年9月)

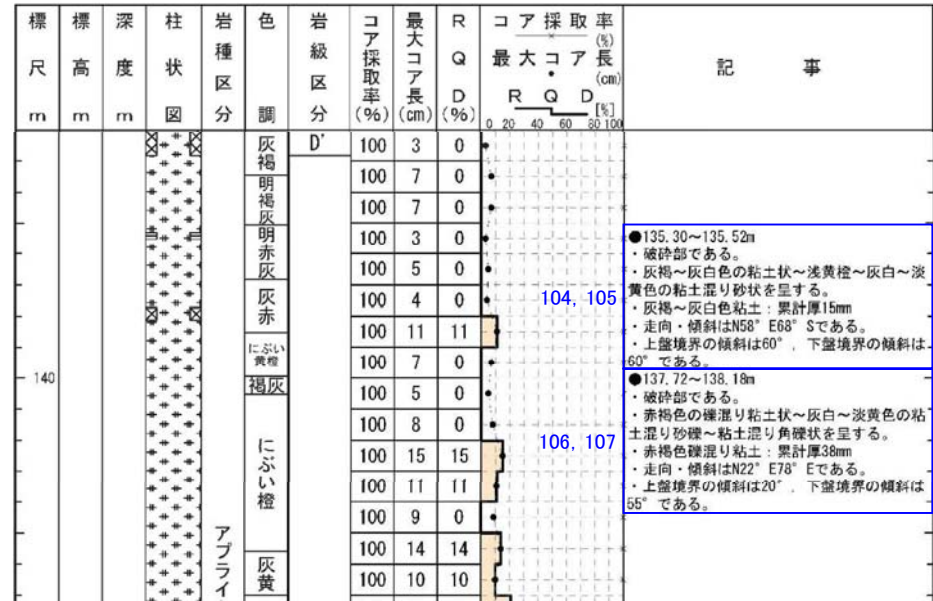
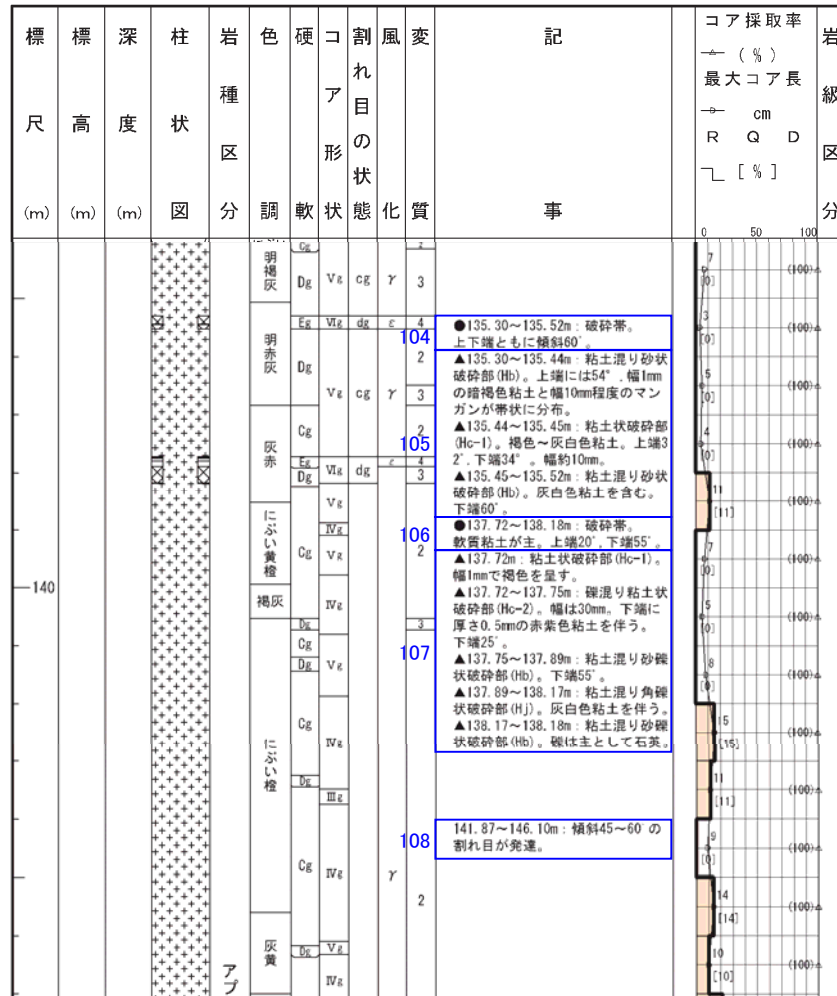
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
98	・硬軟や割れ目の発達については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
99	・割れ目の発達については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
100	・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・礫状部の幅については、記載しないこととしているため、粘土混り砂礫状部の幅については削除。 ・破砕部の見かけの傾斜については補足的なものであるため、端部で取得したものを除き削除。
101	・網目状の破砕については、当該区間に系統的な網目がないことから削除。
102, 103	・色調, 粒度, 累計幅について、申請前までに別途行っていた、地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・マンガンの濃集については、補足的なものであるため削除。

報告書作成用柱状図  
(H26年9月)

申請書用柱状図



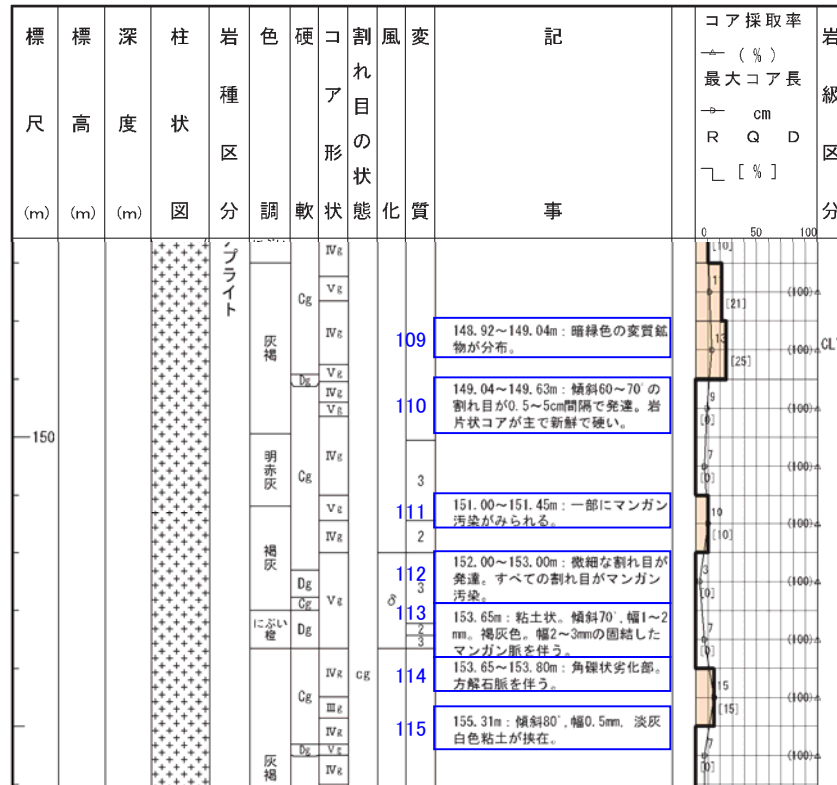
●135.30~135.52m  
・破砕部である。  
・灰褐~灰白色の粘土状~淡黄橙~灰白~淡黄色の粘土混り砂状を呈する。  
・灰褐~灰白色粘土：累計厚15mm  
・走向・傾斜はN58° E68° Sである。  
・上盤境界の傾斜は60°、下盤境界の傾斜は60°である。

●137.72~138.18m  
・破砕部である。  
・赤褐色の礫混り粘土状~灰白~淡黄色の粘土混り砂礫~粘土混り角礫状を呈する。  
・赤褐色礫混り粘土：累計厚38mm  
・走向・傾斜はN22° E78° Eである。  
・上盤境界の傾斜は20°、下盤境界の傾斜は55°である。

記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
104, 105	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色調、粒度、累計幅について、申請前までに別途行っていた、地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき記載。</li> <li>・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。</li> <li>・破砕部の見かけの傾斜については補足的なものであるため、端部で取得したものを除き削除。</li> <li>・マンガンが帯状に分布との記載については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
106, 107	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色調、粒度、累計幅について、申請前までに別途行っていた、地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき記載。</li> <li>・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。</li> <li>・破砕部の見かけの傾斜については補足的なものであるため、端部で取得したものを除き削除。</li> <li>・粘土混り砂礫状部の礫種については補足的なものであるため、礫は主として石英との記載については削除。</li> </ul>
108	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。</li> </ul>

報告書作成用柱状図  
(H26年9月)

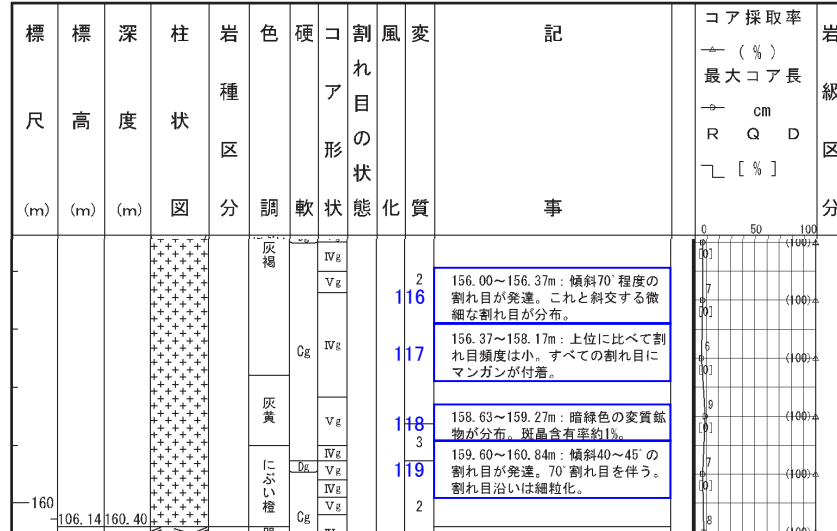
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
109	・鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
110	・硬軟や割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
111	・マンガン汚染については、補足的なものであるため削除。
112	・割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・マンガン汚染については、補足的なものであるため削除。
113, 114	・割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目に粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・マンガン脈や方解石脈については、補足的なものであるため削除。
115	・割れ目に粘土を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

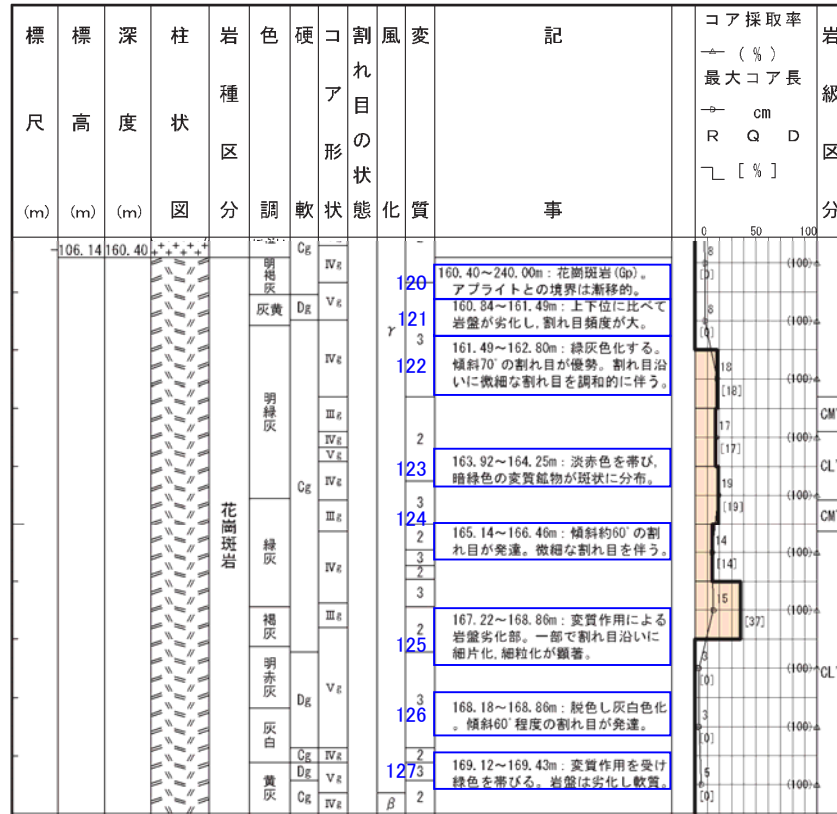
報告書作成用柱状図  
(H26年9月)

申請書用柱状図

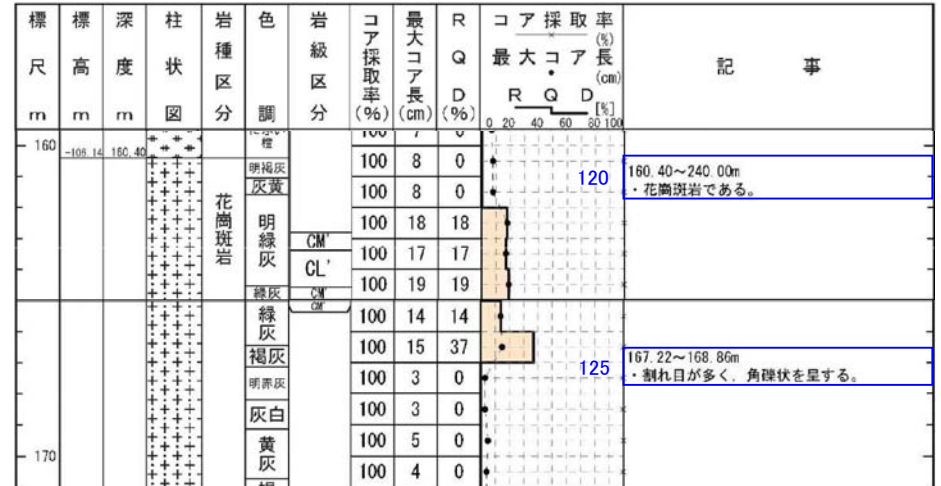


記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
116	・割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
117	・割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・マンガンについては、補足的なものであるため削除。
118	・鉱物の晶出や斑晶の量については、補足的なものであるため削除。
119	・割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いに一部細粒化しているが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

報告書作成用柱状図  
(H26年9月)



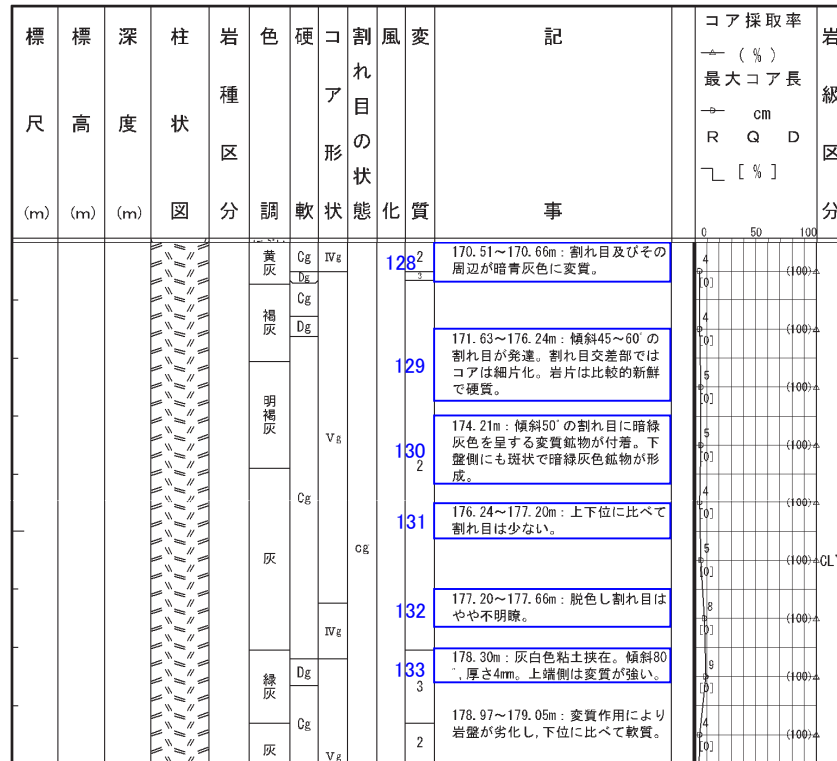
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
120	・境界の明瞭さについては、補足的なものであるため削除。
121	・割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
122	・割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。 ・色調については、補足的なものであるため削除。
123	・色調や鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
124	・割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
125	・一部で細片化、細粒化しているが、連続性に乏しいことから削除。 ・“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
126	・色調については、補足的なものであるため削除。 ・割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
127	・色調については、補足的なものであるため削除。 ・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。

報告書作成用柱状図  
(H26年9月)

申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
128	・割れ目扱いの変色については、補足的なものであるため削除。
129	・硬軟や割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・一部で割れ目扱いに細片化しているが、挟在物の連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
130	・割れ目扱いの鉱物晶出については、補足的なものであるため削除。
131	・割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
132	・割れ目の明瞭さについては、補足的なものであるため削除。
133	・粘土を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

報告書作成用柱状図  
(H26年9月)



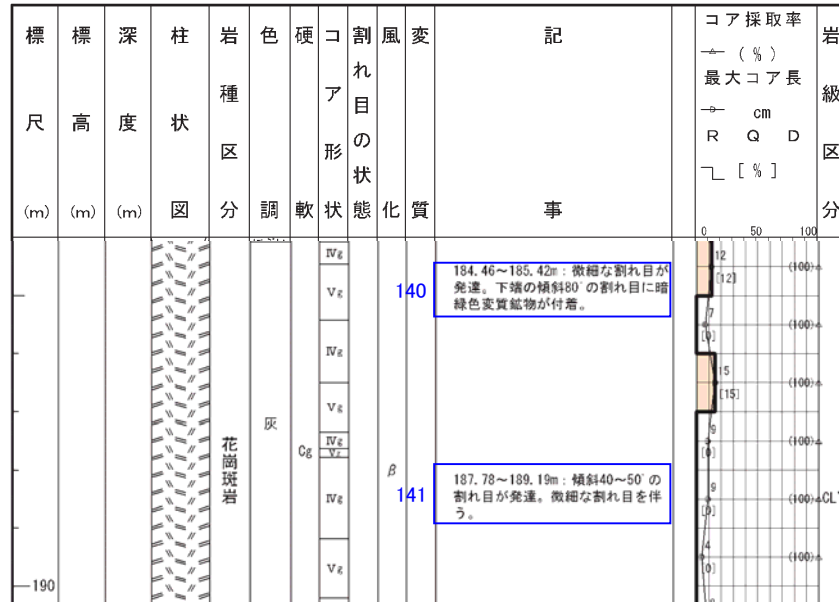
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
134	・軟質化しているが、連続性に乏しく、周囲の割れ目と差異が認められないため削除。
135	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
136	・礫混り砂状を呈するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
137	・礫混り砂状を呈するが、挟在物が幅狭く、直線性に乏しいことから削除。
138	・硬軟や割れ目の発達程度については、岩級区分で示しているため削除。 ・“コア形状”欄に基づき柱状と記載。
139	・割れ目沿いの鉱物の晶出や鉱物脈については、補足的なものであるため削除。

報告書作成用柱状図  
(H26年9月)

申請書用柱状図

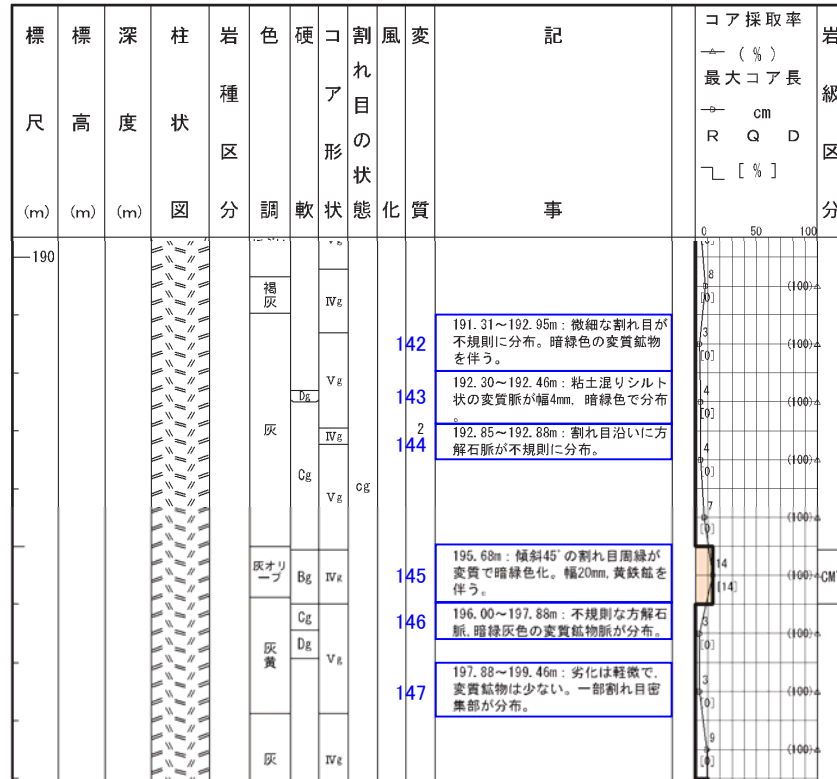


記事	報告書作成用柱状図 (H26年9月) ⇒ 申請書用柱状図
140	<ul style="list-style-type: none"> <li>割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。</li> <li>割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
141	<ul style="list-style-type: none"> <li>割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。</li> </ul>



報告書作成用柱状図  
(H26年9月)

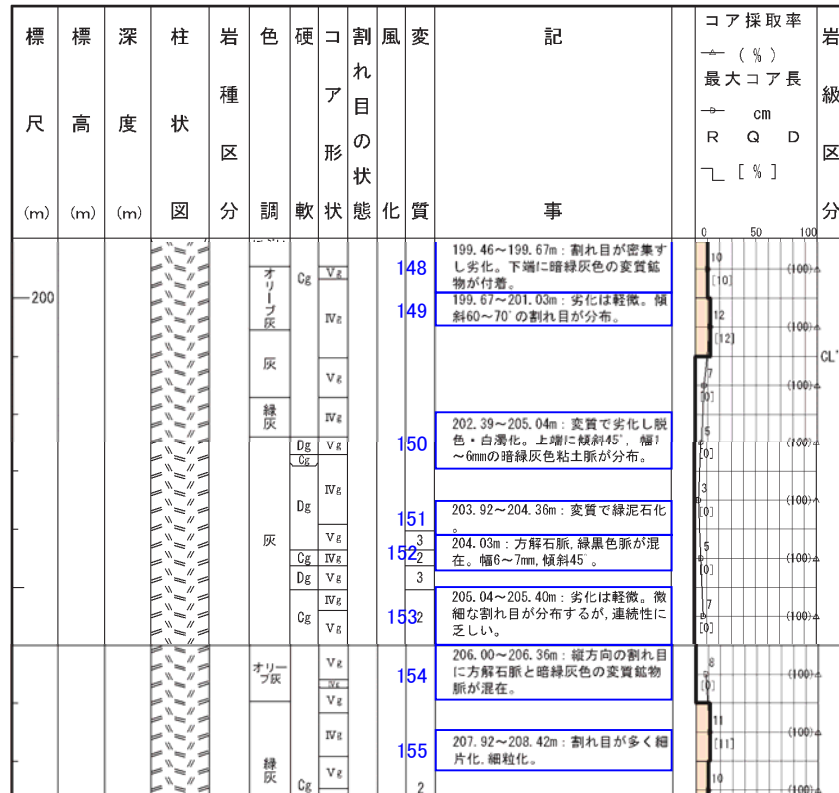
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
142	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。</li> <li>・割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
143	<ul style="list-style-type: none"> <li>・粘土混じりシルト状の変質脈が分布するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> </ul>
144	<ul style="list-style-type: none"> <li>・方解石脈については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
145	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目沿いの変色や鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
146	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
147	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。</li> <li>・鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>

報告書作成用柱状図  
(H26年9月)

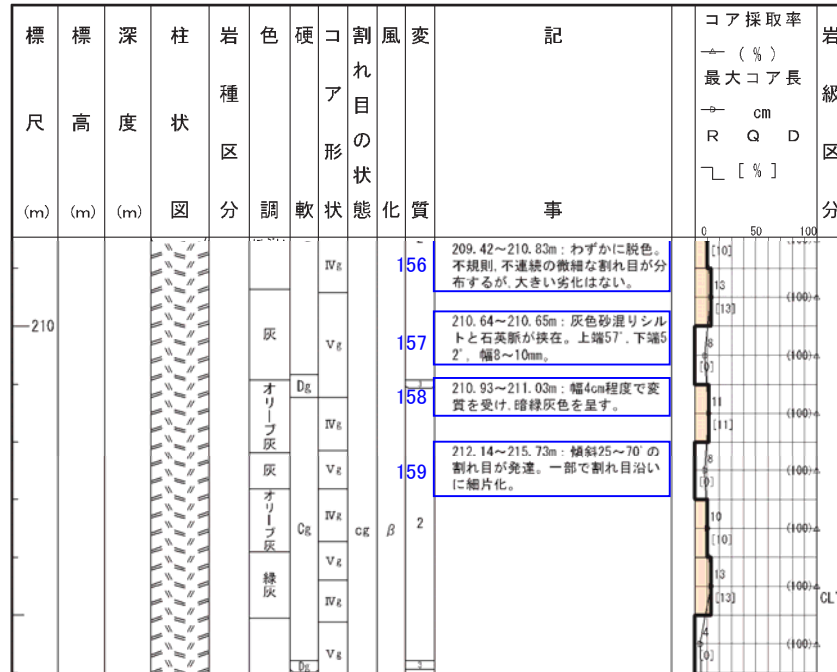
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
148	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
149	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
150	・劣化の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・一部で粘土を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
151	・表現の見直し(緑泥石化→緑色に変色)。
152	・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
153	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
154	・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
155	・細片化、細粒化については、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。

報告書作成用柱状図  
(H26年9月)

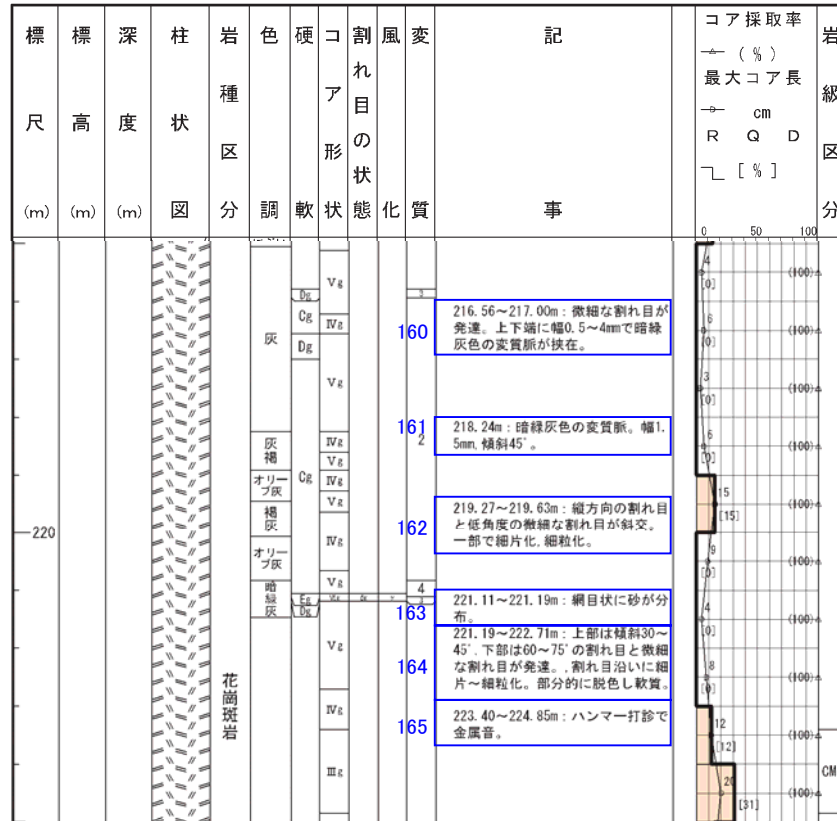
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
156	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
157	・砂混りシルトを挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
158	・色調については、補足的なものであるため削除。
159	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・細片化しているが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

報告書作成用柱状図  
(H26年9月)

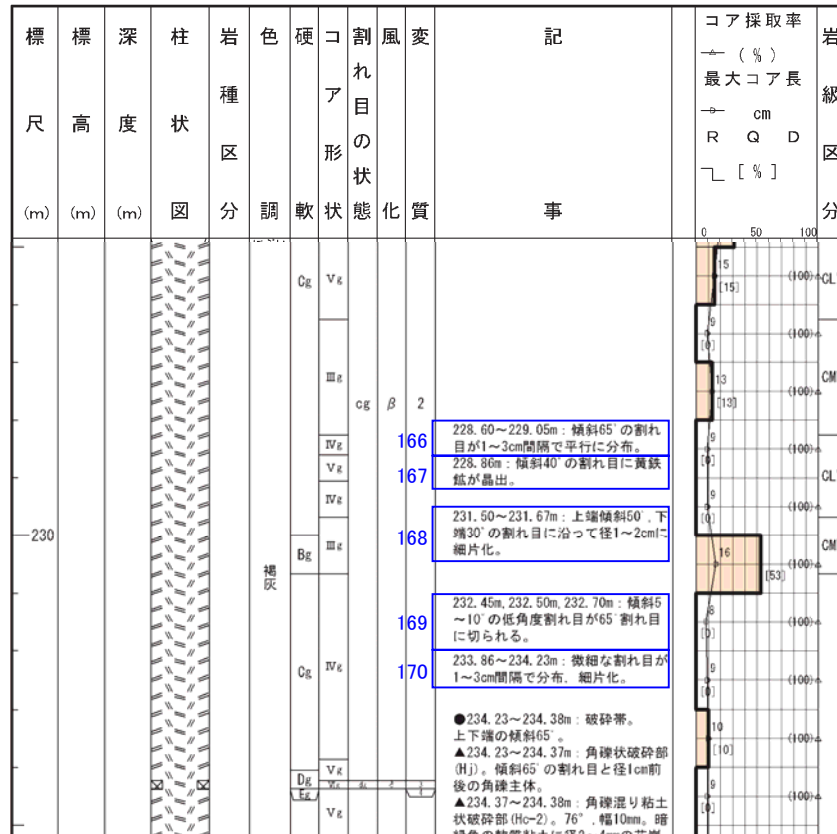
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
160	・割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・変質脈については、補足的なものであるため削除。
161	・変質脈については、補足的なものであるため削除。
162	・割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・一部で細片化、細粒化するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
163	・砂を挟在するが、連続性に乏しいことから削除。
164	・割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・一部で細片～細粒化を伴い軟質化しているが、挟在物の連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
165	・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。

報告書作成用柱状図  
(H26年9月)

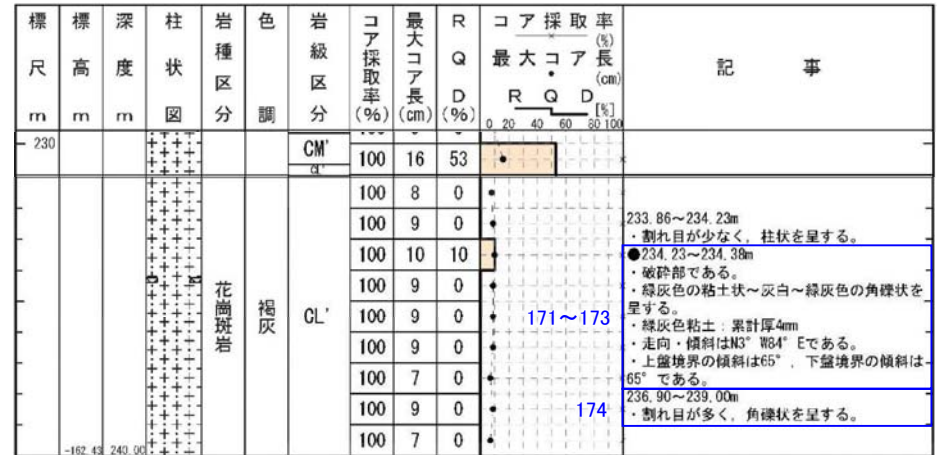
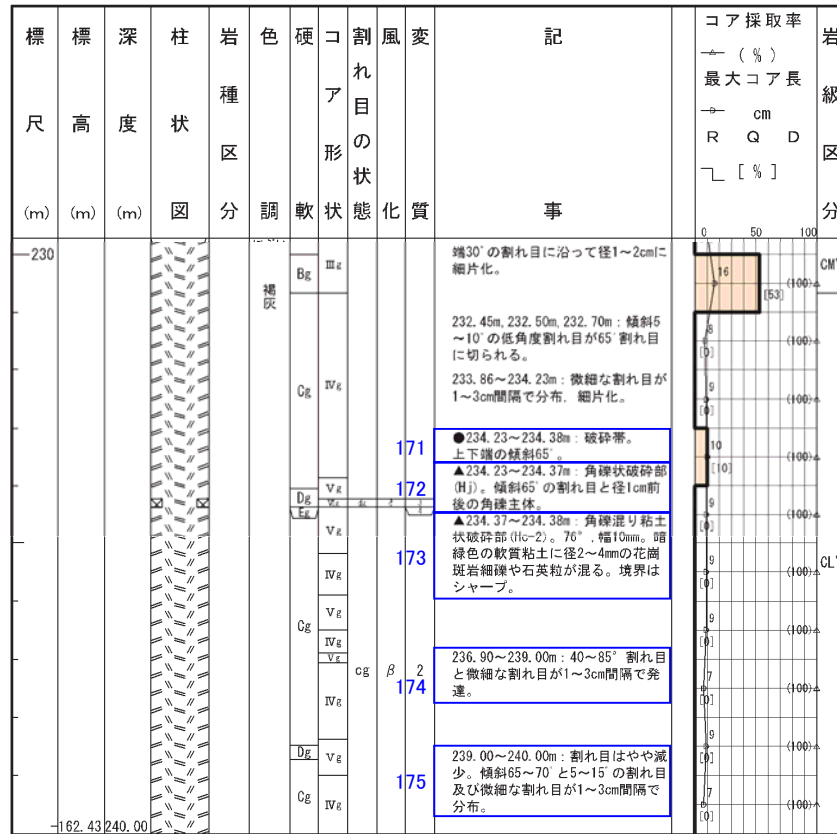
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
166	・割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
167	・鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
168	・細片化しているが、掘削時の機械割れと判断し削除。
169	・低角度割れ目を切る65°の割れ目が見られるが、低角度割れ目の変位がないため削除。
170	・割れ目の発達については、「コア形状」欄に基づき記載。 ・「割れ目が少なく、柱状」は、「割れ目が多く、角礫状」の誤り。 <sup>※1</sup>

報告書作成用柱状図  
(H26年9月)

申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
171~173	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色調、粒度、累計幅について、申請前までに別途行っていた、地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破碎部の再観察の結果に基づき記載。</li> <li>・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。</li> <li>・破碎部の見かけの傾斜については補足的なものであるため、端部で取得したものを除き削除。</li> <li>・径1cm前後の角礫主体、花崗斑岩細礫や石英粒が混じる、境界はシャープとの記載については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
174	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。</li> </ul>
175	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。</li> </ul>

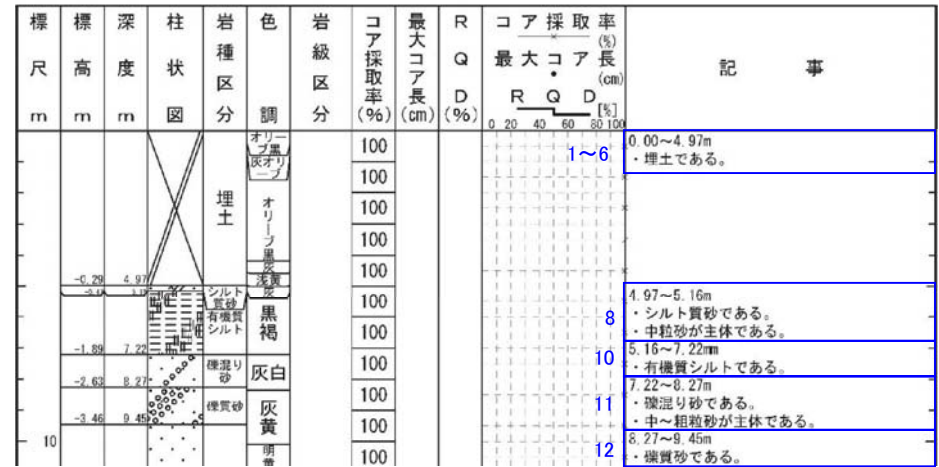
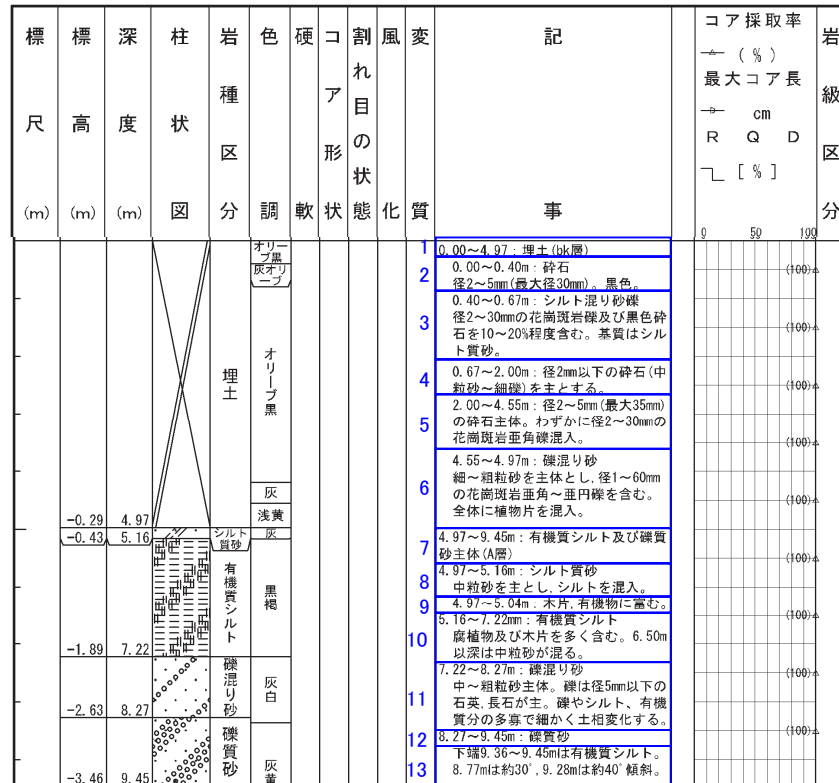
**H24-B8-22**

余白



報告書作成用柱状図  
(H26年10月)

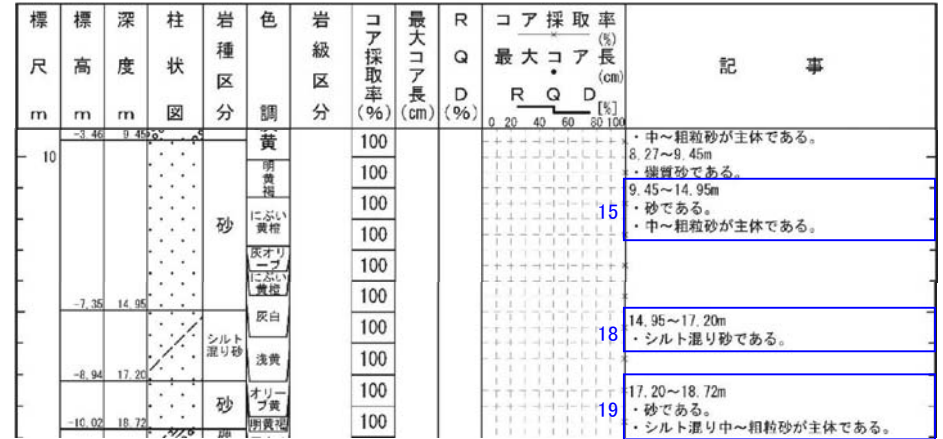
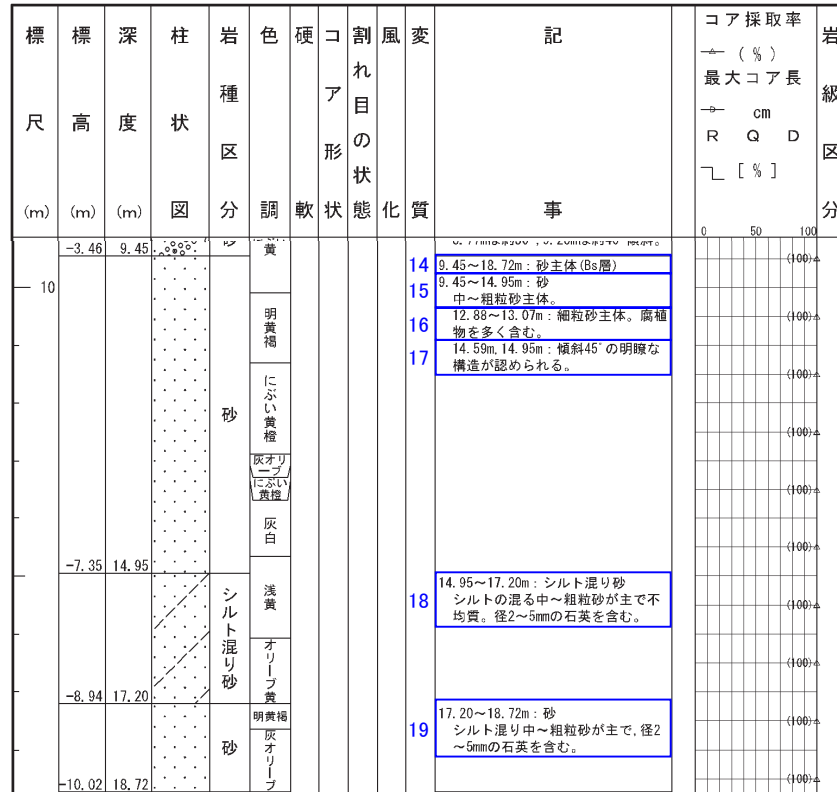
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図 (H26年10月) ⇒ 申請書用柱状図
1~6	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
7	・区間毎の性状を個別に記載しているため、有機質シルト及び礫質砂主体とのまとめ書きについては削除。
8, 9	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・下位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、下位層と区別できる特徴として、中粒砂主体であることを記載。
10	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・5.16~7.22mmは5.16~7.22mの誤り。※2
11	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・下位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、下位層と区別できる特徴として、中~粗粒砂主体であることを記載。
12, 13	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。

報告書作成用柱状図  
(H26年10月)

申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
14	・区間毎の性状を個別に記載しているため、砂主体とのまとめ書きについては削除。
15~17	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・上位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、上位層と区別できる特徴として、中~粗粒砂主体であることを記載。
18	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
19	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・上位層に比べ顕著ではないが、若干のシルトを含むことから、シルト混りと記載し、補足的に砂の粒度として、中~粗粒砂も記載。

報告書作成用柱状図  
(H26年10月)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分
20	-10.02	18.72	[Pattern]	礫混りシルト質砂	浅黄 灰オリーブ灰					20 18.72~30.25m: 礫混りシルト質砂主体 (Bsm層)	100	100	
										21 18.72~22.45m: 礫混りシルト質砂 中~粗粒砂が主で不均質。径2~10mm程度の石英、長石及び花崗斑岩垂直角礫を数~10%程度含む。			
										22 20.20~20.42m: 貝殻片散在。			
		-12.65	22.45	[Pattern]	礫・砂質シルト					23 22.45~24.09m: 礫・砂質シルト 細粒砂が混入するシルトが主で、中粒砂や径2~5mmの石英角礫が全体に混入。微細な貝殻片が多い。	100	100	
										24 24.09~25.51m: 礫混りシルト質砂 シルト質細~中粒砂が主で、径2~5mmの石英がわずかに混入。一部で貝殻片集中。上端28cmは上方細粒化した細粒砂。			
										25 25.51~27.25m: 礫混り砂質シルト シルトを主とし全体に細~中粒砂、径2~5mmの石英、貝殻片が混入し種物片が散在。25.81m以浅では砂質シルト。			
	-13.81	24.09	[Pattern]	暗緑灰					27.25~27.94m: シルト質砂 細粒砂が主で、シルト及び中粒砂が全体に混入。貝殻を多量に含む。	100	100		
	-14.82	25.51	[Pattern]										
	-16.05	27.25	[Pattern]										

申請書用柱状図

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	記事					
20	-10.02	18.72	[Pattern]	礫混りシルト質砂	明黄型 灰オリーブ灰 浅黄 オリーブ灰 暗オリーブ灰		100	100		21 18.72~22.45m ・シルト混り中~粗粒砂が主体である。 ・礫混りシルト質砂である。					
		-12.65	22.45	[Pattern]	礫・砂質シルト		100	100		23 22.45~24.09m ・礫・砂質シルトである。					
	-13.81	24.09	[Pattern]	礫混りシルト質砂	暗緑灰	100	100		24 24.09~25.51m ・礫混りシルト質砂である。						
	-14.82	25.51	[Pattern]	礫混り砂質シルト		100	100		25 25.51~27.25m ・礫混り砂質シルトである。						
	-16.05	27.25	[Pattern]			100	100								

記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
20	・区間毎の性状を個別に記載しているため、礫混りシルト質砂主体とのまとめ書きについては削除。
21, 22	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
23	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
24	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
25	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。

報告書作成用柱状図  
(H26年10月)

申請書用柱状図

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分
	-16.05	27.25		礫混りシルト						26 27.25~27.94m: シルト質砂 細粒砂が主で、シルト及び中粒砂が全体に混入。貝殻を多量に含む。	100		
	-16.54	27.94		シルト質砂	暗緑					27 27.94~29.29m: 礫・シルト質砂 植物片が点在。下部は礫・シルト分が少なくなる。 28.42m付近にのみ貝殻片が混入。	100		
	-17.49	29.29		礫質砂						28 29.29~30.25m: 礫質砂 中~粗粒砂が主で、径2~5mm程度の石英を30%程度含む。	100		
30	-18.17	30.25		有機質砂	黒褐					29 30.25~35.58m: 砂質土主体(Ga11層)	100		
	-18.73	31.04		礫混り砂	灰					30 31.04~32.00m: 有機質砂 細粒砂~中粒砂が主で径2~5mmの石英が混入。下部は径50mmの礫が分布。31.08mに有機物が濃集。	100		
	-19.41	32.00		砂	灰白					31 31.04~32.00m: 礫混り砂 細~中粒砂が主で径2~4mmの細礫が混る。下部は礫質で径50mmの垂円礫を含む。 31.08m付近: 有機物が混る。	100		
	-20.79	33.95		礫質砂	灰					32 32.00~33.95m: 砂 細~中粒砂が主で部分的にシルト、粗粒砂が混る。 32.05~32.27m: 有機物が混入する	100		
	-21.94	35.58		明礫						33 33.95~35.58mm: 礫質砂 細~粗粒砂が主で径2~10mmの垂角礫を含む。礫率20~30%。 33.95~34.16m: 礫が多い。 34.16~34.35m: 細粒砂主体。	100		

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	記事
	-16.05	27.25		シルト質砂	灰		100					26 27.25~27.94m ・シルト質砂である。
	-16.54	27.94		礫・シルト質砂			100					27 27.94~29.29m ・礫・シルト質砂である。
	-17.49	29.29		礫質砂			100					28 29.29~30.25m ・礫質砂である。 ・中~粗粒砂が主体である。
30	-18.17	30.25		有機質砂	灰白		100					30 30.25~31.04m ・有機質砂である。 ・細粒砂~中粒砂が主体である。
	-18.73	31.04		礫混り砂	灰		100					31 31.04~32.00m ・礫混り砂である。
	-19.41	32.00		砂	灰		100					32 32.00~33.95m ・砂である。
	-20.79	33.95		礫質砂	明褐		100					33 33.95~35.58mm ・礫質砂である。 ・細~粗粒砂が主体である。
	-21.94	35.58		砂礫	明褐 に ぶ い 黄 土 質 の 灰 オリ ブ		100					35.58~42.82m ・砂礫である。

記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
26	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
27	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
28	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・上位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、上位層と区別できる特徴として、中~粗粒砂主体であることを記載。
29	・区間毎の性状を個別に記載しているため、礫質土主体とのまとめ書きについては削除。
30	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・上位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、上位層と区別できる特徴として、細粒砂~中粒砂主体であることを記載。
31	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
32	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
33	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・上位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、上位層と区別できる特徴として、細~粗粒砂主体であることを記載。 ・33.95~35.58mmは33.95~35.58mの誤り。 <sup>※2</sup>

報告書作成用柱状図  
(H26年10月)

申請書用柱状図

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分											
40	-21.94	35.58	[Columnar diagram showing soil layers with various symbols for sand, gravel, and ash]	砂礫	明褐灰 褐灰 にぶい黄緑 灰オリーブ					33.95~34.16m: 礫が多い。 34.16~34.35m: 細粒砂主体。	0 50 100													
	34	35.58~46.84m: 砂礫主体 (Csg1層)																						
	35	35.58~42.82m: 砂礫 35.58~37.45m: 礫は径5~100mm (最大200mm)の亜角礫が主で基質は有機物・シルト混りの不均質な砂からなる。礫率50~70%。																						
	36	37.45~39.66m: 径2~30mm (最大50mm)の亜角~亜円礫が主。基質は細~粗粒砂からなり、全体的に酸化汚染を受ける。																						
	37	39.66~42.82m: 径2~30mm (最大180mm)の亜角~亜円礫が主。基質は細~粗粒砂からなり不均質。全体的に酸化鉄汚染を受ける。礫種は花崗斑岩が主。径100mmを超える礫は礫質が多い。 40.55~40.70m: 粗粒砂~礫混り粗粒砂。黒色の炭化物が混入。 41.42~41.52m: 有機物混入。																						
	38	42.82~46.84m: 礫質砂 細~粗粒砂からなる不均質な砂で、径5~40mm (最大150mm)の亜角礫が混る。礫率20~30%。最大約5%。細礫は石英粒子主体。 44.08~45.14m: 礫率数%で上下より礫量が減少した中粒砂が主の礫混り砂。 46.72~46.84m: 均質な細粒砂。																						
		-27.06								42.82				礫質砂	灰白									
		-29.90								46.84										黄灰				

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	記事												
40	-21.94	35.58	[Columnar diagram showing soil layers with various symbols for sand, gravel, and ash]	砂	明褐灰 褐灰 にぶい黄緑 灰オリーブ 灰白		100					33.95~35.58m ・礫質砂である。 ・細~粗粒砂が主体である。												
	35~37	35.58~42.82m ・砂礫である。																						
		-27.06										42.82	礫質砂	灰白		100					42.82~46.84m ・礫質砂である。			
		-29.90										46.84									黄灰			

記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
34	・区間毎の性状を個別に記載しているため、砂礫主体とのまとめ書きについては削除。
35~37	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
38	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。

報告書作成用柱状図  
(H26年10月)

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分
	49.90	46.84			灰									
	30.63	47.87		木片	黒褐						39	46.84~51.21m: 砂及び礫質砂(Ga12層)		
	31.54	49.16		礫質砂	灰白						40	46.84~47.87m: 木片 部分的にシルト・砂・礫が混る。		
	32.99	51.21		砂	灰						41	47.87~49.16m: 礫質砂 細~粗粒砂からなる不均質な砂で、全体に径2~10mmの角~垂角礫が10~20%混る。径2~5mmの石英が細礫として多く分布。		
	34.49	53.33		砂礫	灰白						42	49.16~51.21m: 砂 49.16~49.55m: 径2~5mmの石英粒が混る中~粗粒砂。 49.55~51.21m: 細~中粒砂からなり部分的に径2~5mmの細礫が混入。有機物が点在。		
				砂礫	黄褐						43	51.21~63.85m: 砂礫主体(Csg2層)		
				砂礫	灰						44	51.21~53.33m: 砂礫 礫は径2~30mm(最大径60mm)の垂角~垂円礫で、礫種は花崗斑岩の風化礫が主。基質は細粒砂~粗粒砂。礫率60~70%。 53.33~54.57m: 礫混り砂 砂は中~粗粒砂が主。礫は径5~10		

申請書用柱状図

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	記事
	49.90	46.84			灰		100					
	30.63	47.87		木片	黒褐		100					40
	31.54	49.16		礫質砂	灰		100					41
	32.99	51.21		砂	灰白		100					42
	34.49	53.33		砂礫	灰白		100					44
	35.37	54.57		礫混り砂	浅黄		100					
	35.83	55.22		シルト混り砂	黄褐		100					
				砂礫	明黄褐		100					
				砂礫	灰白		100					
				砂礫	黄褐		100					
	39.16	59.93					100					59.93~61.15m

記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
39	・区間毎の性状を個別に記載しているため、砂及び礫質砂主体とのまとめ書きについては削除。
40	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
41	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・下位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、下位層と区別できる特徴として、細~粗粒砂からなる不均質な砂主体であることを記載。
42	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
43	・区間毎の性状を個別に記載しているため、砂礫主体とのまとめ書きについては削除。
44	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・周囲に比べ含まれる礫が大きく、目立つことから、礫の特徴として、礫径、円磨度を記載。

報告書作成用柱状図  
(H26年10月)

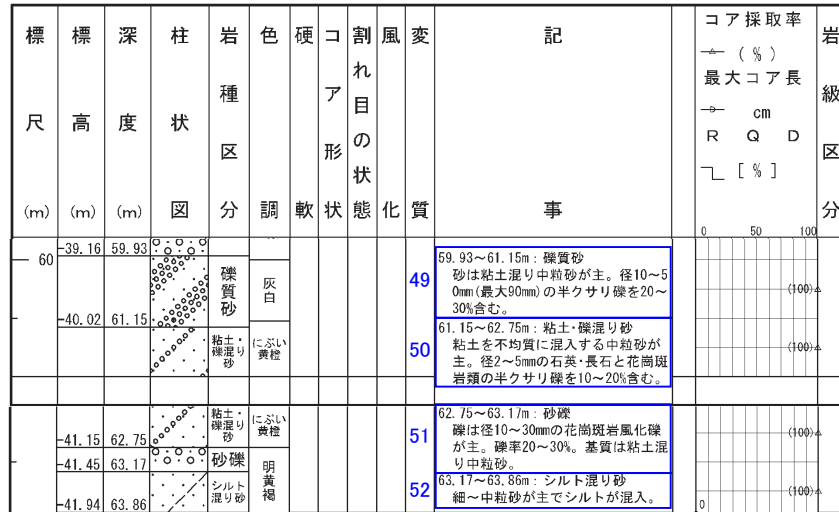
標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分
-34.49	53.33			礫混り砂	灰黄					53.33~54.57m: 礫混り砂 砂は中~粗粒砂が主。礫は径5~10mmの垂角礫が主。礫種は石英を主としてカリ長石、花崗閃岩が分布。不均質でやや締りが悪い。	100		
-35.37	54.57			シルト混り砂	灰白					54.57~55.22m: シルト混り砂 細~中粒砂が主で不均質にシルトが混る。40~45°の葉理が分布。	100		
-35.83	55.22			砂礫	にがい黄橙					55.22~59.93m: 砂礫 55.22~56.22m: 礫は径2~8mmの石英と径5~50mm(最大90mm)の垂角~垂円礫。礫率40~50%程度。基質はシルト混り中~粗粒砂。全体に不均質。	100		
-39.16	59.93			砂礫	黄褐					56.22~59.93m: 礫は径10~40mm(最大90mm)の花崗閃岩角~垂角礫。礫率30~40%程度。礫は風化で褐~黄褐色を帯びるが硬質礫が主。基質は中粒砂が主で細粒砂~細礫を混入し不均質。	100		

申請書用柱状図

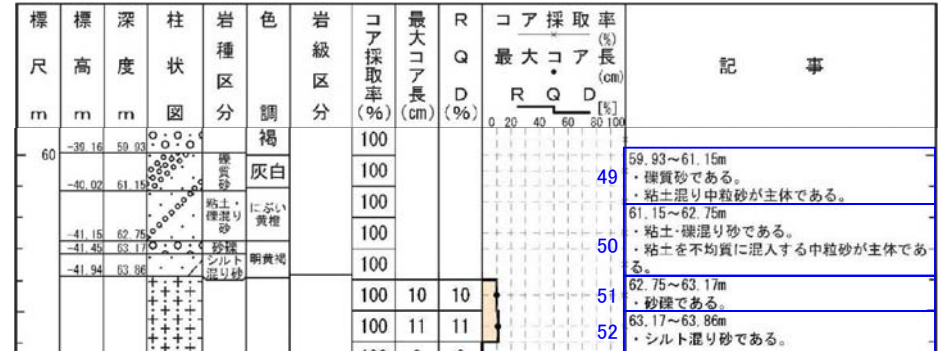
標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D (%)	記事
-34.49	53.33			礫混り砂	浅黄		100			・径2~30mm(最大径60mm)の垂角~垂円礫を含む。 53.33~54.57m ・礫混り砂である。 ・中~粗粒砂が主体である。
-35.37	54.57		シルト混り砂	灰黄		100		45	54.57~55.22m ・シルト混り砂である。	
-35.83	55.22		砂礫	灰白		100		46	55.22~59.93m ・砂礫である。	
-39.16	59.93		砂礫	にがい黄橙		100		47, 48	59.93~61.15m	

記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
45	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。</li> <li>・下位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、下位層と区別できる特徴として、中~粗粒砂主体であることを記載。</li> </ul>
46	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。</li> <li>・葉理については、シルトの不均質な分布を反映して不明瞭であることから削除。</li> </ul>
47, 48	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。</li> </ul>

報告書作成用柱状図  
(H26年10月)



申請書用柱状図

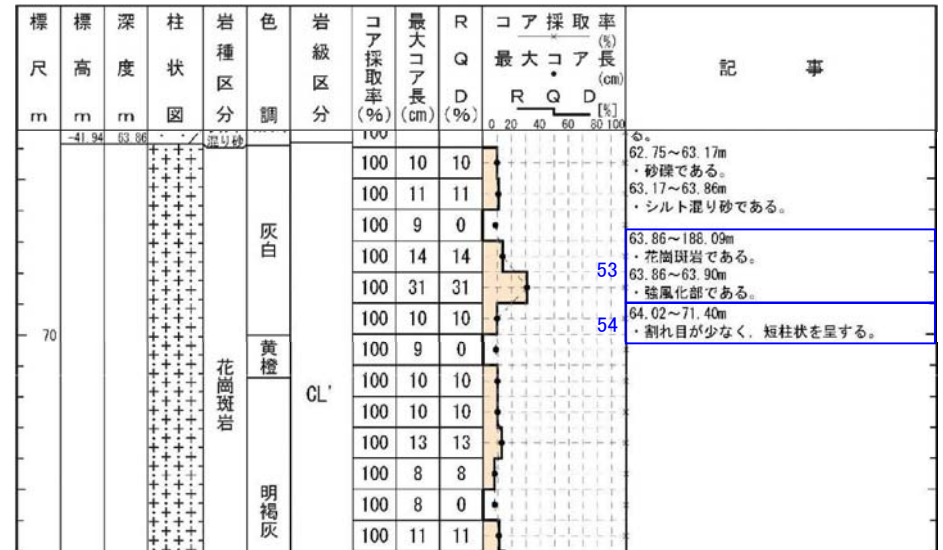
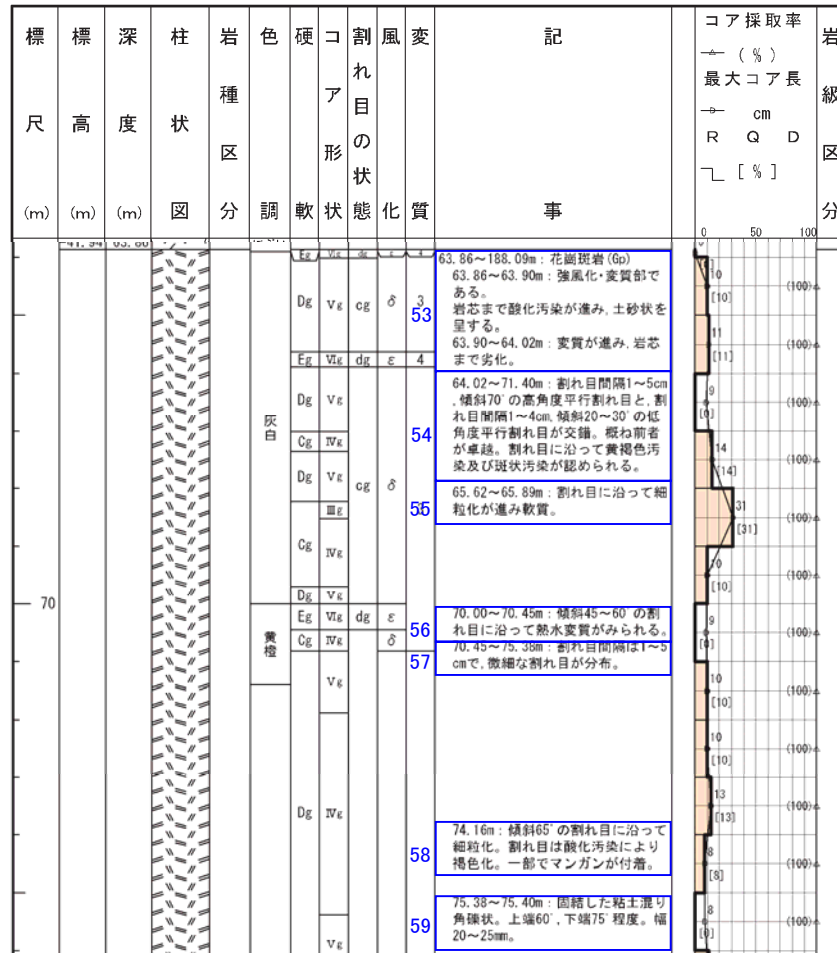


記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
49	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。</li> <li>・下位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、下位層と区別できる特徴として、粘土混り中粒砂主体であることを記載。</li> </ul>
50	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。</li> <li>・上位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、上位層と区別できる特徴として、粘土を不均質に混入する中粒砂主体であることを記載。</li> </ul>
51	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。</li> </ul>
52	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。</li> </ul>



報告書作成用柱状図  
(H26年10月)

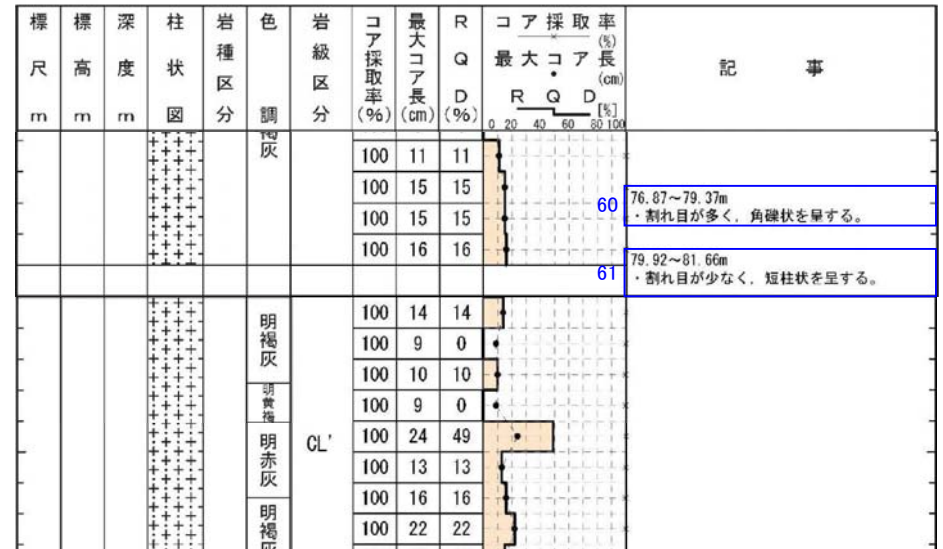
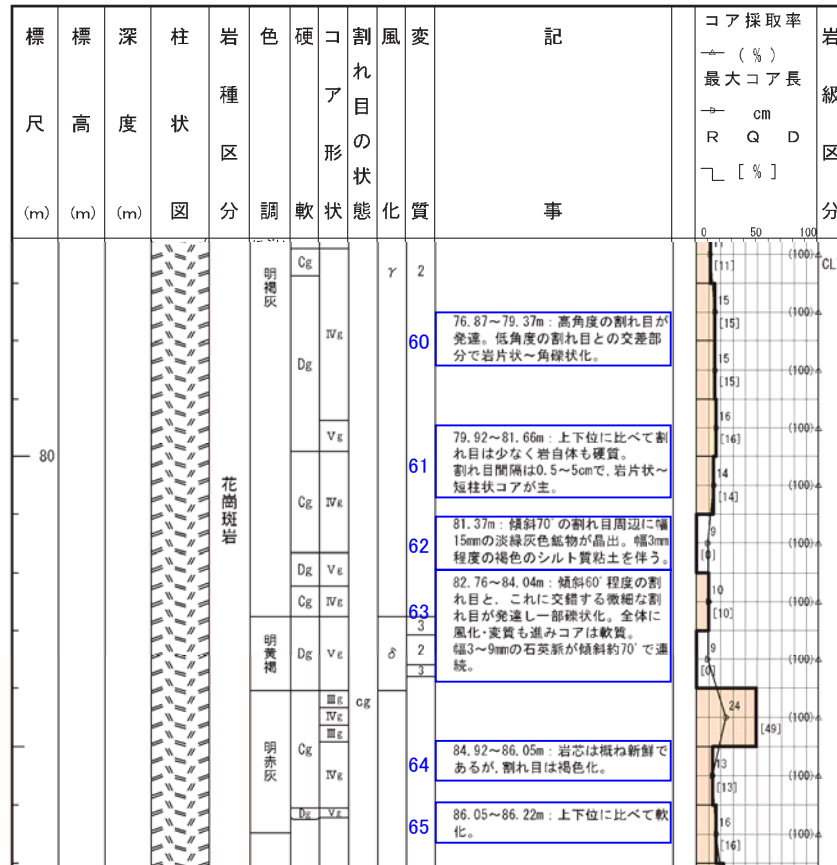
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
53	<ul style="list-style-type: none"> <li>・風化を伴う岩盤の劣化については、岩級区分で示しているため、詳細については削除(酸化汚染、土砂状)。</li> <li>・63.90～64.02mの変質の程度については、周囲と明瞭な差が認められないため削除。</li> </ul>
54	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき短柱状と記載。</li> <li>・割れ目沿いの汚染の記載については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
55	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目沿いに細粒化し軟質となるが、掘削時の機械割れと判断し削除。</li> </ul>
56	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目沿いに変質し劣化するが、前後の岩質に差はないこと、割れ目は連続性や直線性に乏しく、系統的な配列等も認められないことから削除。</li> </ul>
57	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。</li> </ul>
58	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細粒化しているが、掘削時の機械割れと判断し削除。</li> </ul>
59	<ul style="list-style-type: none"> <li>・粘土混じり角礫状を呈するが、挟在物の連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> </ul>

報告書作成用柱状図  
(H26年10月)

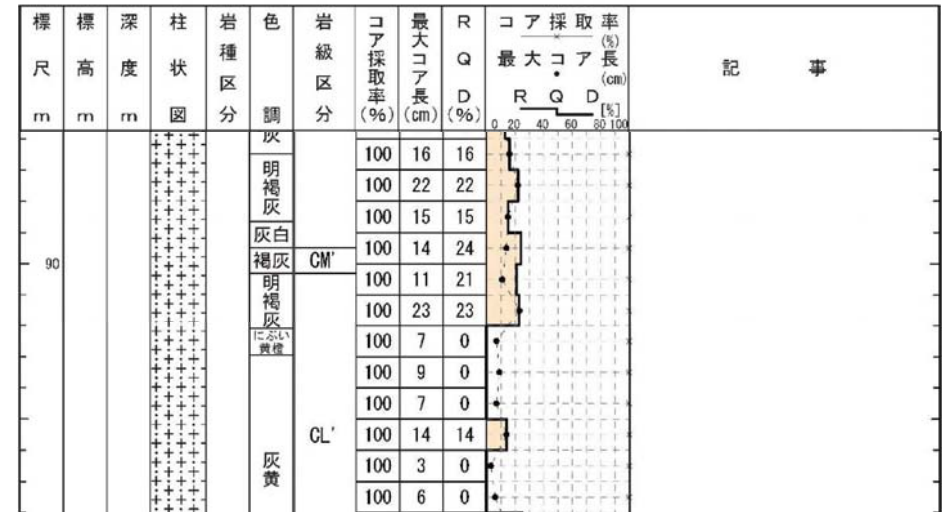
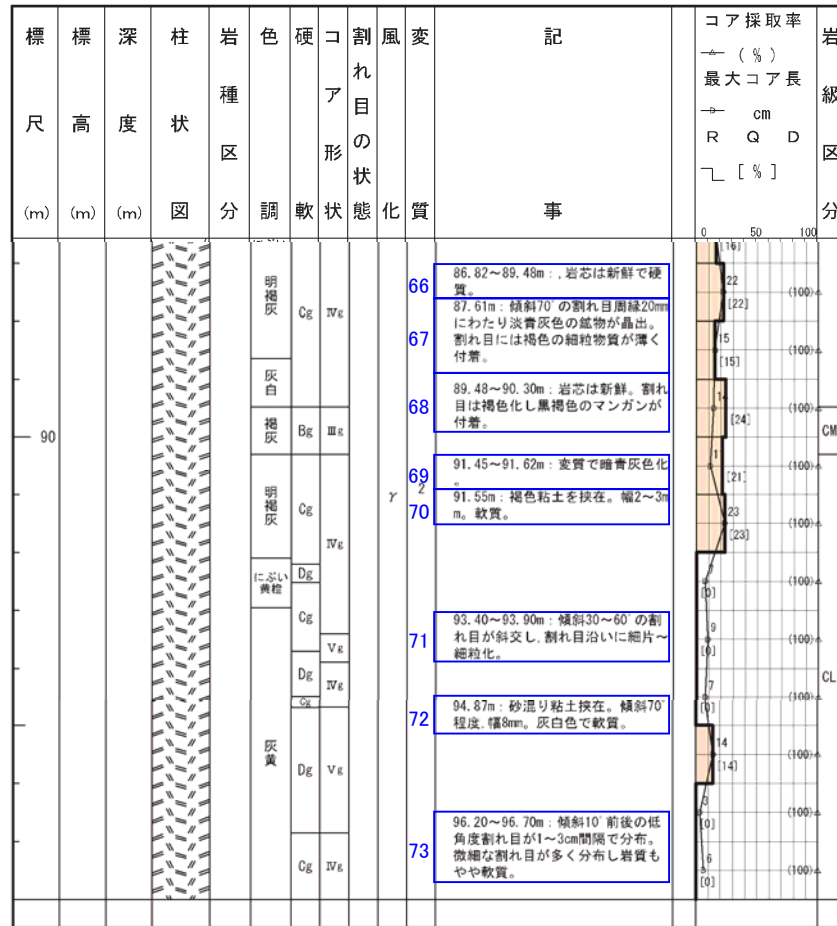
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
60	・“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
61	・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。 ・“コア形状”欄に基づき短柱状と記載。
62	・シルト質粘土を挟み込むが、幅狭く、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
63	・硬軟や割れ目の発達については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いに礫状化するが、掘削時の機械割れと判断し削除。 ・鉱物脈については補足的なものであるため削除。
64	・割れ目沿いの褐色化については、補足的なものであるため削除。
65	・硬軟の程度については、岩級区分で示しているため削除。

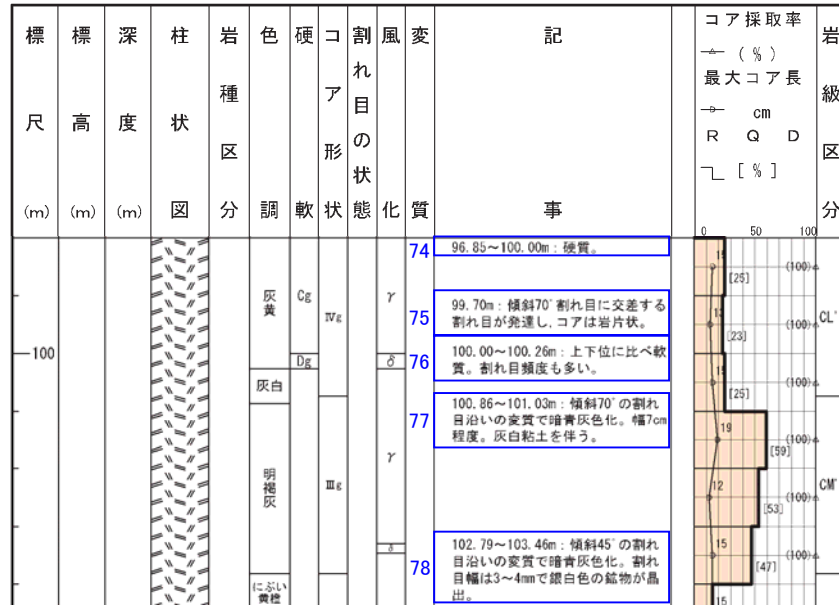
報告書作成用柱状図  
(H26年10月)

申請書用柱状図

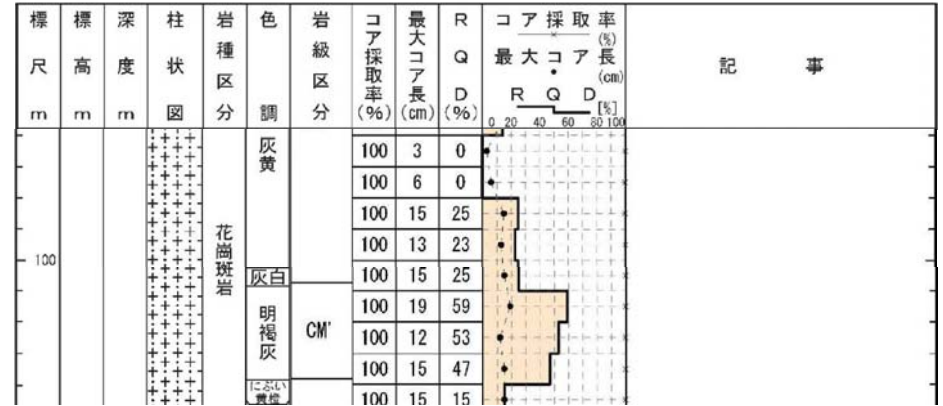


記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
66	・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。
67	・割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
68	・割れ目沿いの変色、マンガンについては、補足的なものであるため削除。
69	・変色については、補足的なものであるため削除。
70	・粘土を挟在するが、幅狭く、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
71	・割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
72	・粘土を挟在するが、直線性や連続性に乏しいことから削除。
73	・割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。

報告書作成用柱状図  
(H26年10月)

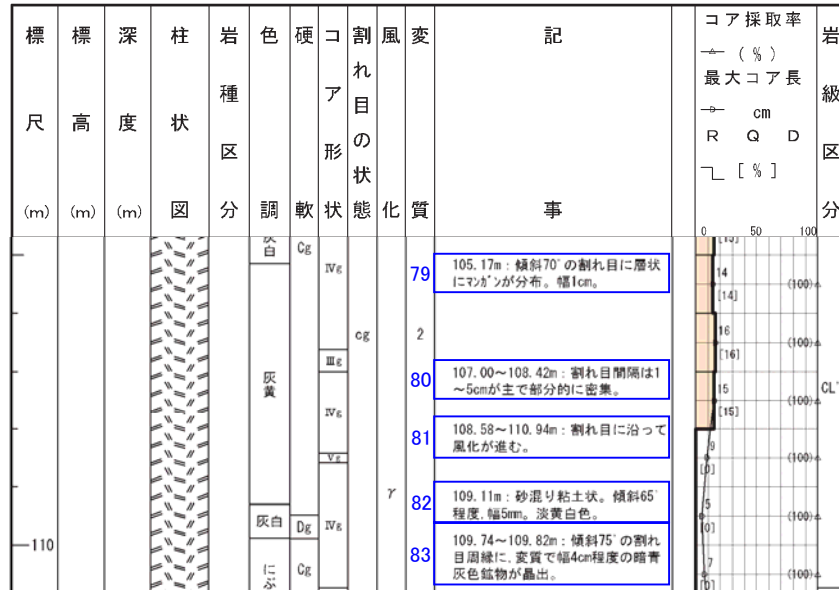


申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
74	・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。
75	・割れ目の発達の程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
76	・硬軟や割れ目の発達の程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
77	・粘土を挟在するが、連続性に乏しいことから削除。
78	・割れ目沿いの変色や鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。

報告書作成用柱状図  
(H26年10月)



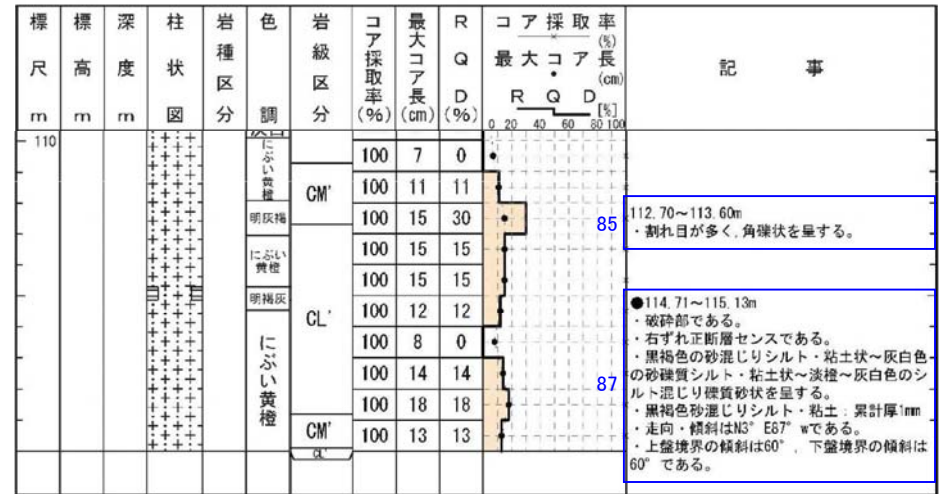
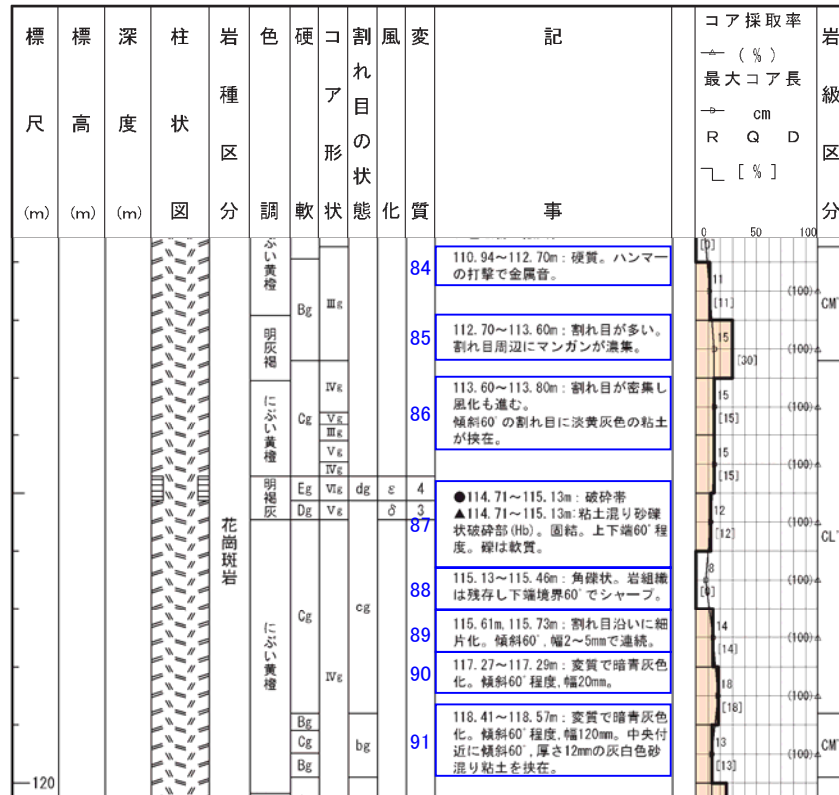
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
79	・割れ目沿いのマンガンについては、補足的なものであるため削除。
80	・割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
81	・風化を伴う岩盤の劣化については、岩級区分で示しているため削除。
82	・砂混り粘土状を呈するが、粘土の直線性や連続性に乏しいことから削除。
83	・割れ目沿いの変色や鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。

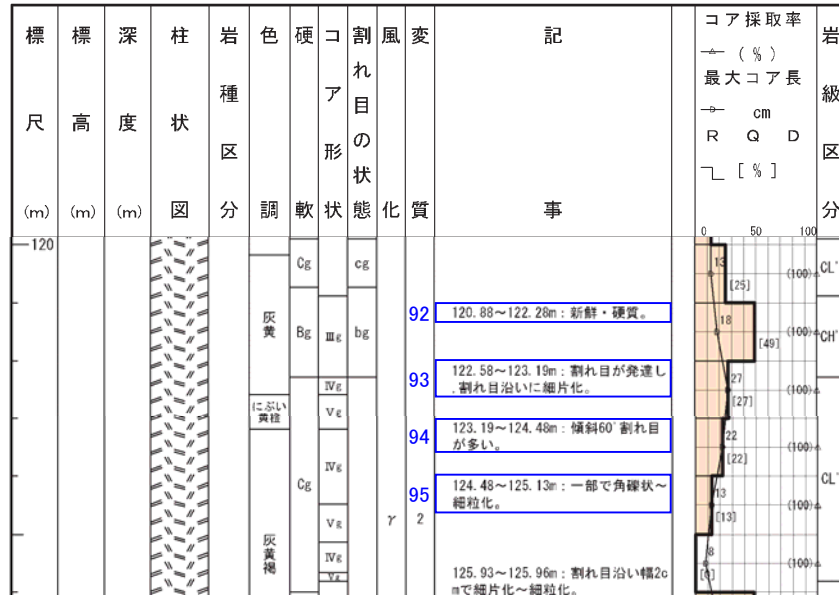
報告書作成用柱状図  
(H26年10月)

申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
84	・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。
85	・“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。 ・マンガンについては、補足的なものであるため削除。
86	・割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。 ・粘土を挟在するが、直線性や連続性に乏しいことから削除。
87	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・色調, 粒度, 累計幅について、申請前までに別途行っていた。地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破碎部の再観察の結果に基づき記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・砂礫状部の礫の硬軟の記載は補足的なものであるため、礫は軟質との記載については削除。
88	・割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
89	・割れ目沿いに細片化しているが、挟在物の連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
90	・割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。
91	・粘土を挟在するが、直線性や連続性に乏しいことから削除。

報告書作成用柱状図  
(H26年10月)



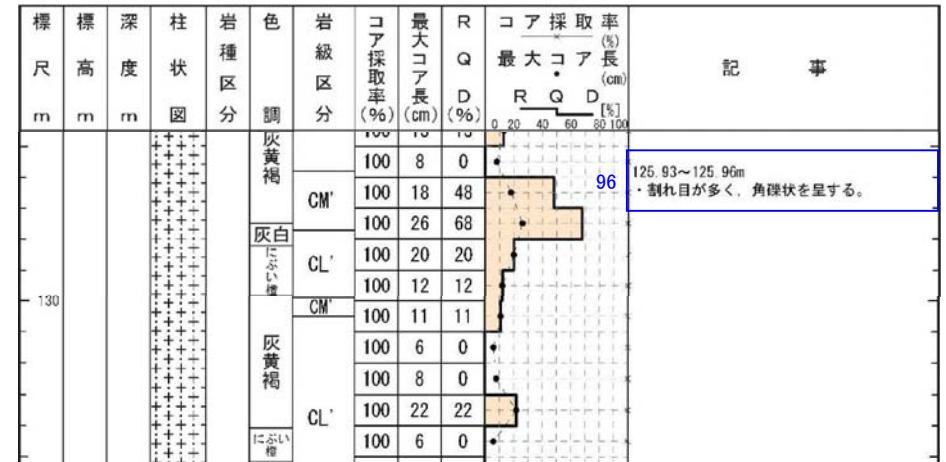
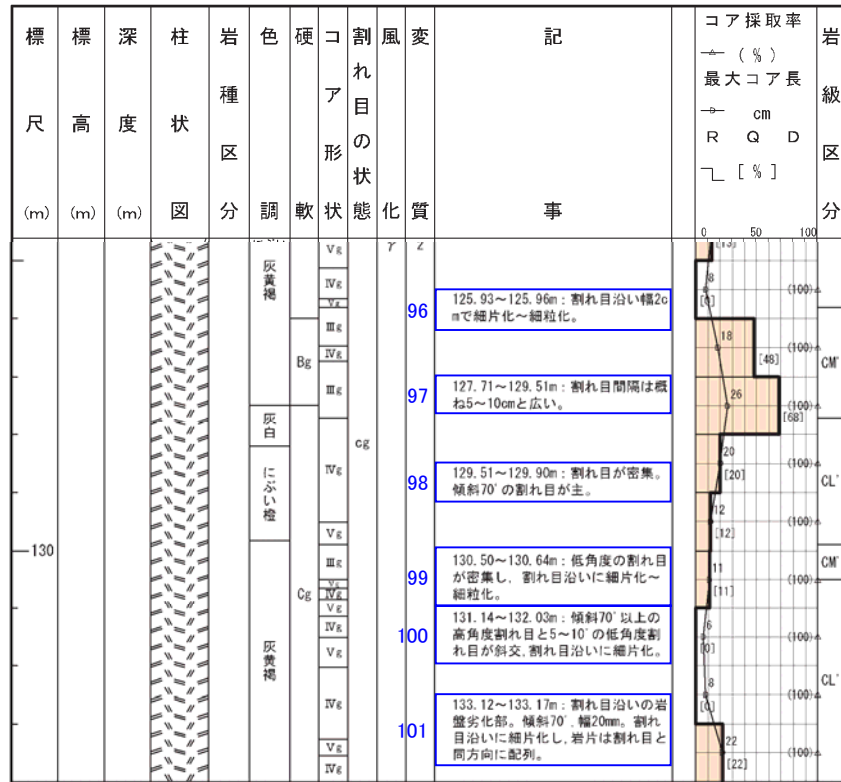
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
92	・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。
93	・割れ目の発達の数値については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
94	・割れ目の発達の数値については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
95	・割れ目の発達の数値については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。

報告書作成用柱状図  
(H26年10月)

申請書用柱状図

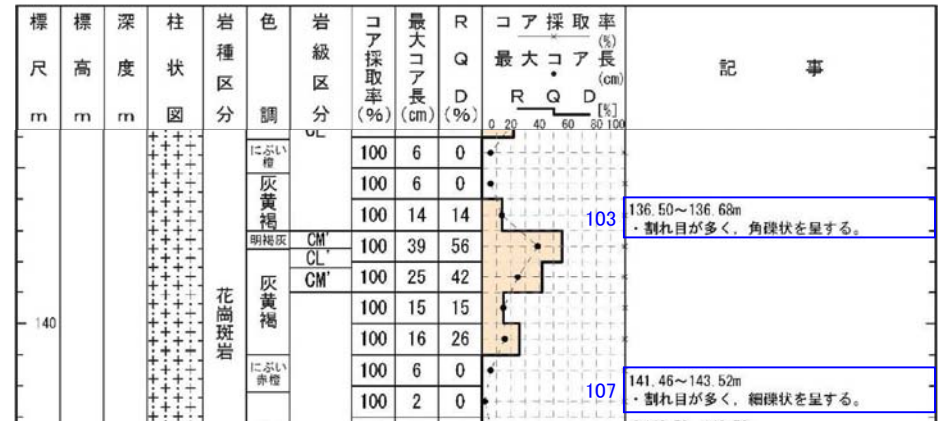
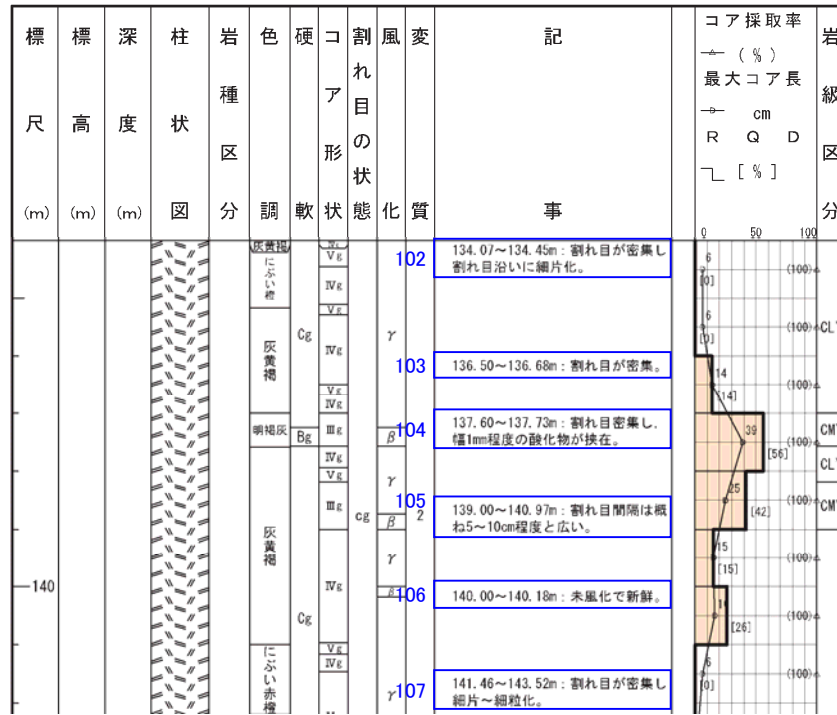


記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
96	<ul style="list-style-type: none"> <li>割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。</li> <li>細粒化については、掘削時の機械割れと判断し削除。</li> </ul>
97~101	<ul style="list-style-type: none"> <li>割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。</li> <li>割れ目沿いの細片化、細粒化については、当該区間の周囲と明瞭な差が認められないため削除。</li> </ul>



報告書作成用柱状図  
(H26年10月)

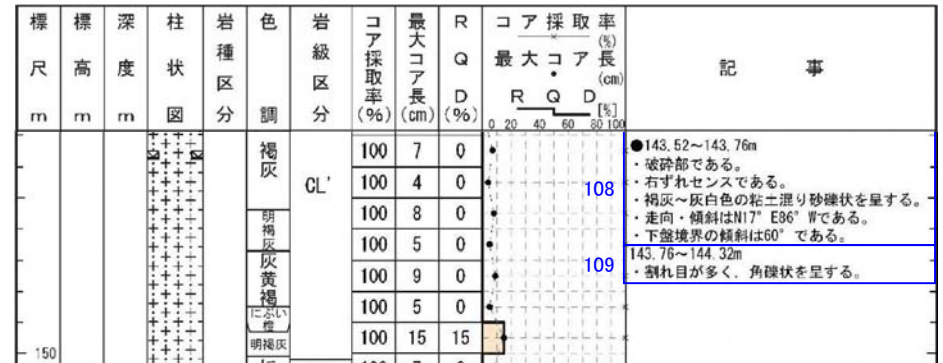
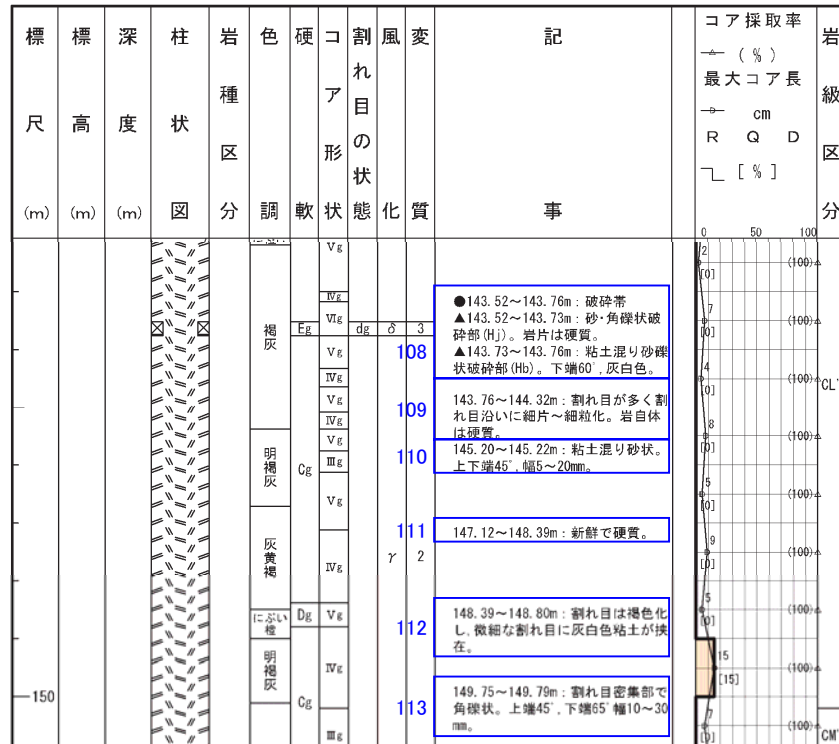
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
102	・割れ目の発達の数については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いの細片化、細粒化については、当該区間の周囲と明瞭な差が認められないため削除。
103	・割れ目の発達の数については、“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
104	・割れ目の発達の数については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・酸化物の挟在については、補足的なものであるため削除。
105	・割れ目の発達の数については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
106	・風化を伴う岩盤の劣化の数については、岩級区分で示しているため削除。
107	・割れ目の発達の数については、“コア形状”欄に基づき細礫状と記載。

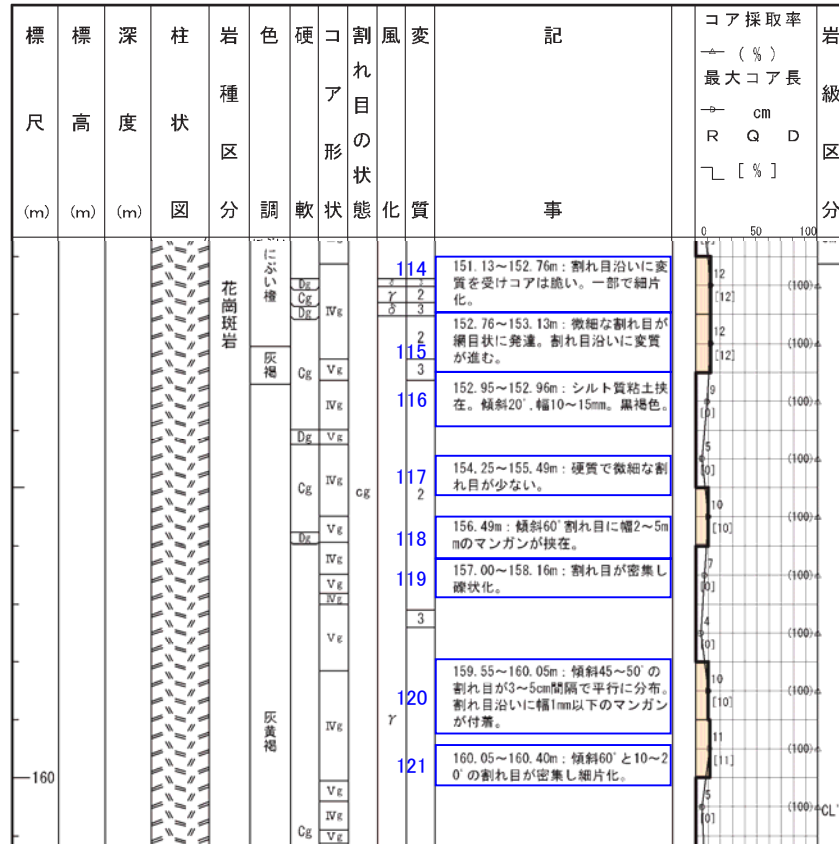
報告書作成用柱状図  
(H26年10月)

申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
108	<ul style="list-style-type: none"> <li>薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。</li> <li>表現の見直し(砂・角礫状及び粘土混じり砂礫状→粘土混じり砂礫状)</li> <li>“色調”欄に基づき褐灰と記載。</li> <li>ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。</li> <li>砂・角礫状部の岩片の硬軟は補足的なものであるため、岩片は硬質との記載については削除。</li> </ul>
109	<ul style="list-style-type: none"> <li>割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。</li> </ul>
110	<ul style="list-style-type: none"> <li>粘土混じり砂状を呈するが、連続性や直線性に乏しいことから削除。</li> </ul>
111	<ul style="list-style-type: none"> <li>硬軟については、岩級区分で示しているため削除。</li> </ul>
112	<ul style="list-style-type: none"> <li>割れ目に粘土を挟在するが、連続性に乏しいことから削除。</li> </ul>
113	<ul style="list-style-type: none"> <li>角礫状を呈するが、連続性に乏しいことから削除。</li> </ul>

報告書作成用柱状図  
(H26年10月)

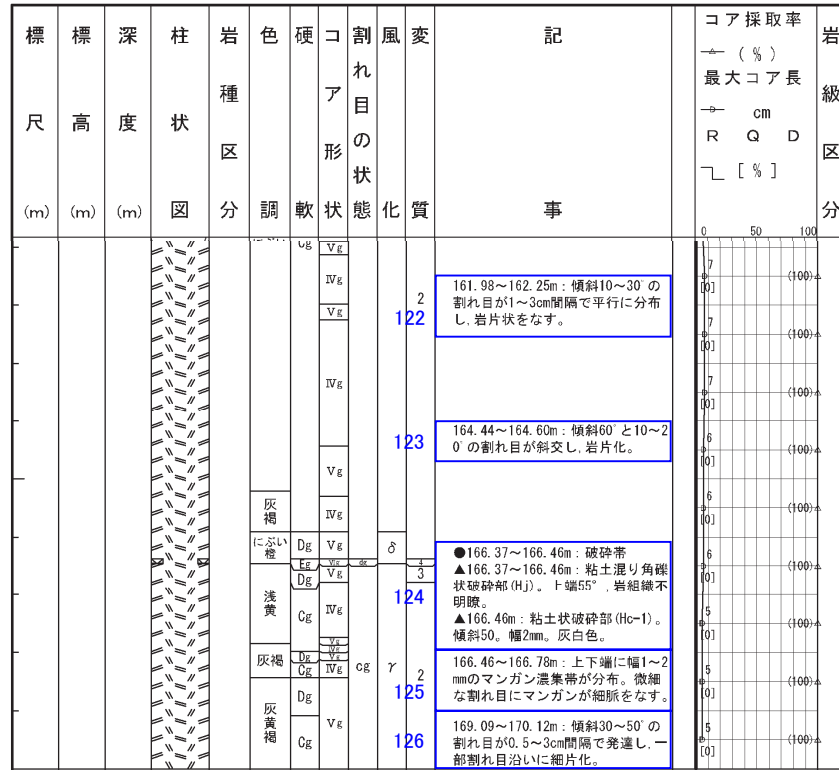


申請書用柱状図

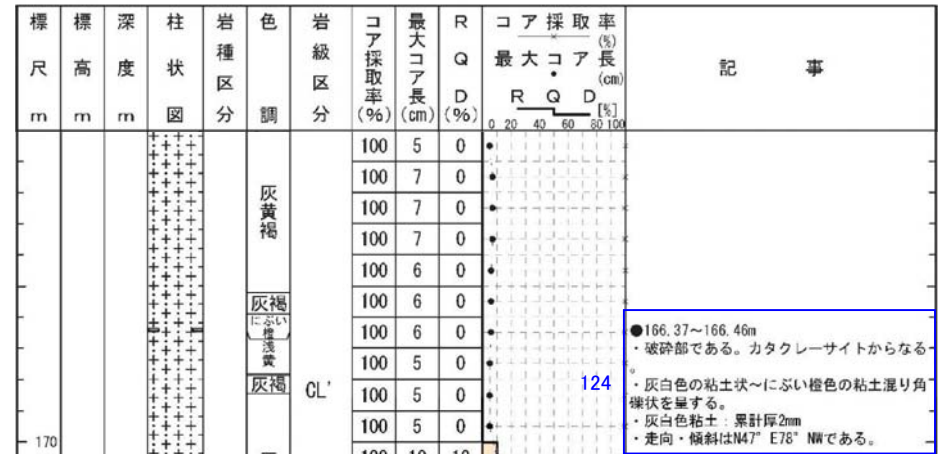


記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
114	・脆弱化の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
115	・割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・変質の程度については、周囲と明瞭な差が認められないため削除。
116	・シルト質粘土を挟在するが、掘削時の機械割れと判断して削除。
117	・硬軟や割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
118	・マンガンの挟在については、補足的なものであるため削除。
119	・割れ目の発達については、“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
120, 121	・割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いのマンガンについては、補足的なものであるため削除。

報告書作成用柱状図  
(H26年10月)

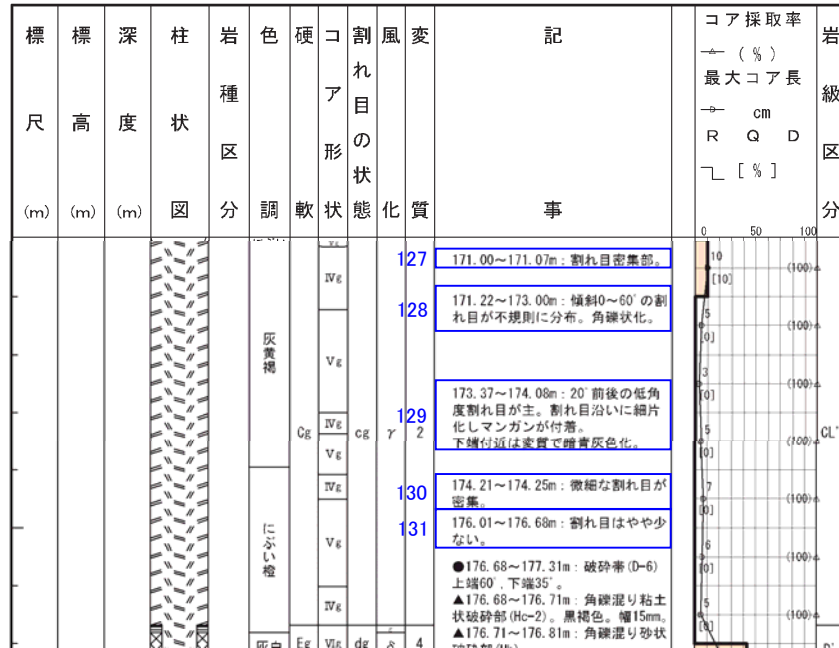


申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
122, 123	・割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
124	・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。 ・“色調”欄に基づき、にぶい橙色と記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため削除。
125	・マンガン濃集については、補足的なものであるため削除。
126	・割れ目沿いに細片化しているが、周囲と明瞭な差が認められないため削除。

報告書作成用柱状図  
(H26年10月)



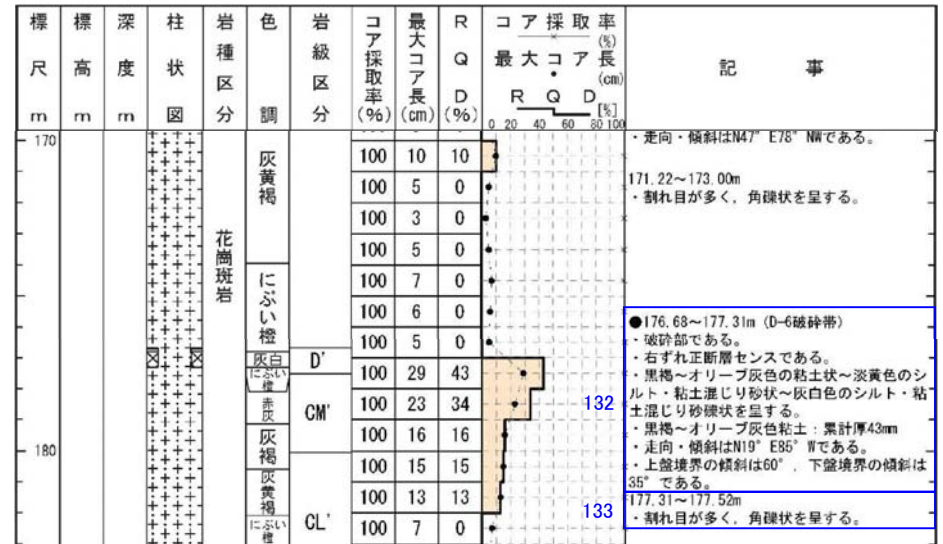
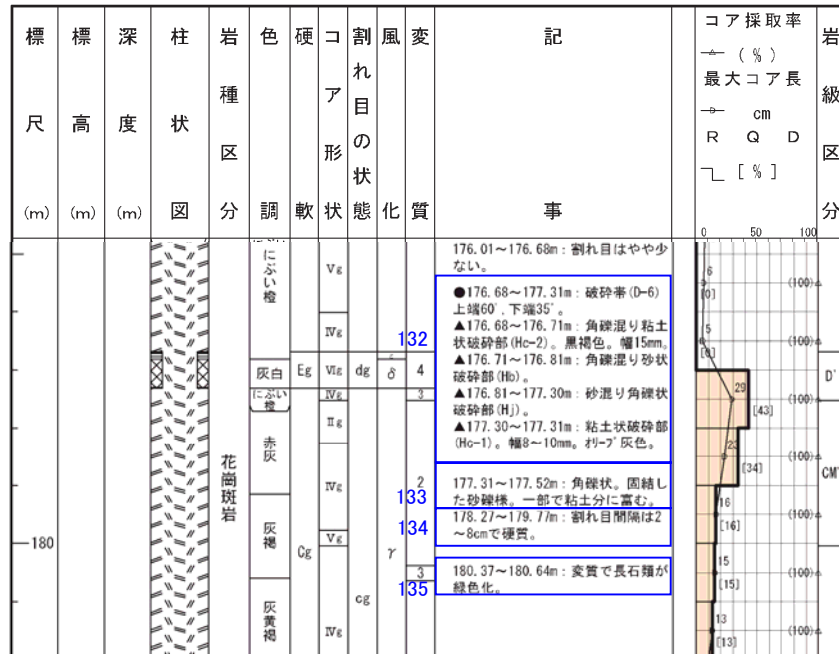
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
127	・割れ目が密集しているが、掘削時の機械割れと判断し削除。
128	・割れ目が密集しているが、掘削時の機械割れと判断し削除。
129～131	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いの変色、マンガン付着については、補足的なものであるため削除。

報告書作成用柱状図  
(H26年10月)

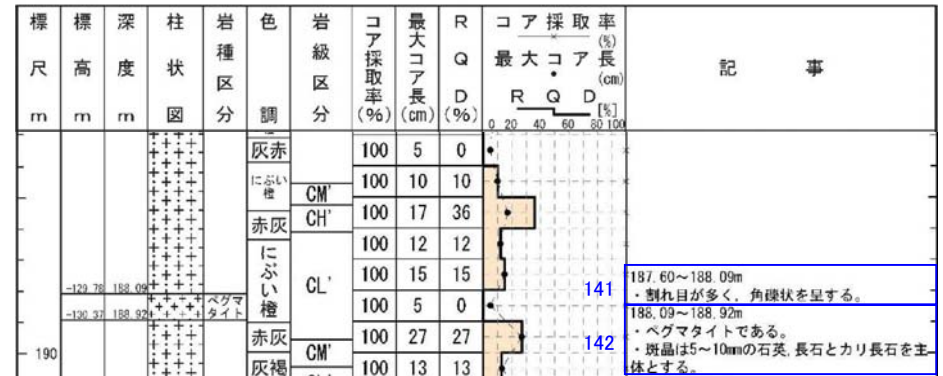
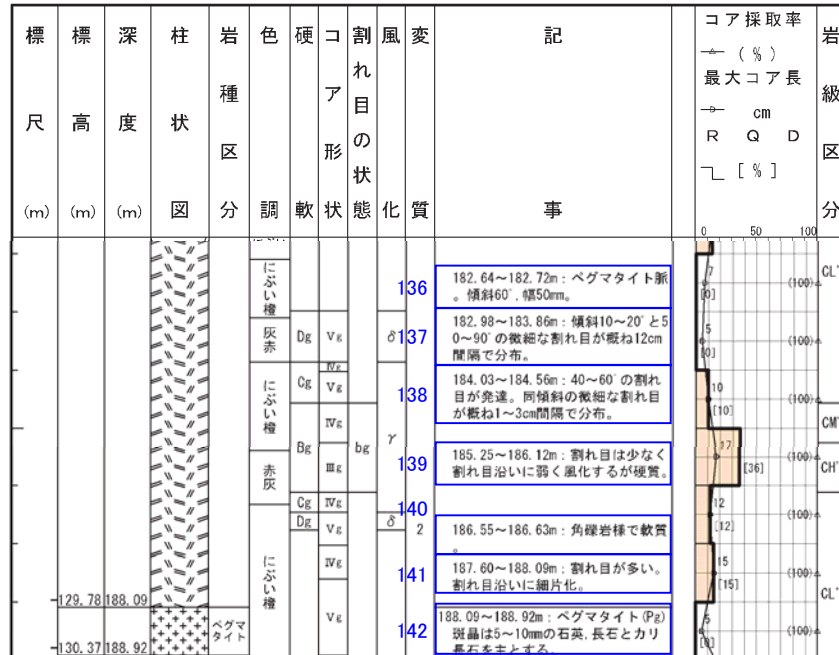
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
132	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。</li> <li>・色調、粒度、累計幅について、申請前までに別途行っていた、地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき記載。</li> <li>・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。</li> </ul>
133	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一部で粘土を含むが、粘土の配列が系統的でなく連続性や直線性に乏しいことから削除。</li> </ul>
134	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。</li> </ul>
135	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長石類の緑色化については、変質に関する補足的なものであるため削除。</li> </ul>

報告書作成用柱状図  
(H26年10月)

申請書用柱状図

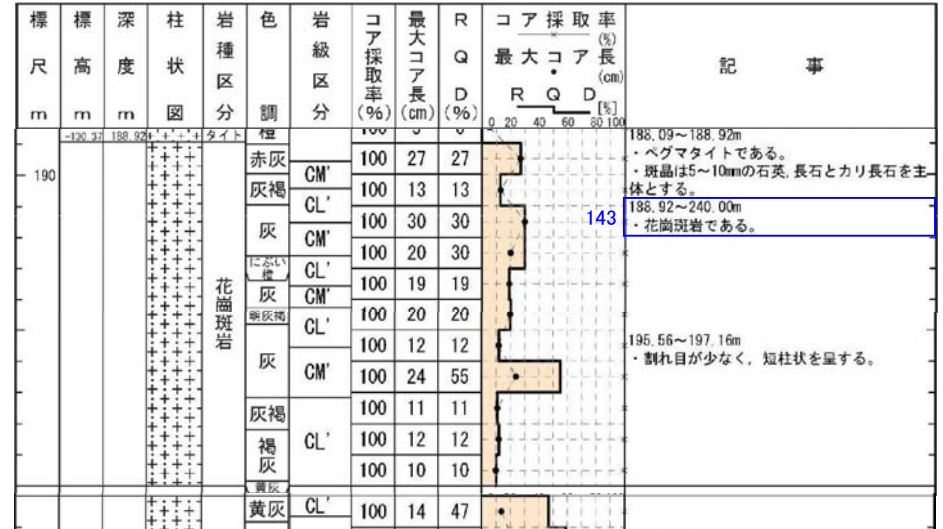


記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
136	・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
137	・割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
138	・割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
139	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
140	・マンガン汚染により、角礫岩様に見えるものであるため削除。 ・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。
141	・割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
142	・変更なし

報告書作成用柱状図  
(H26年10月)



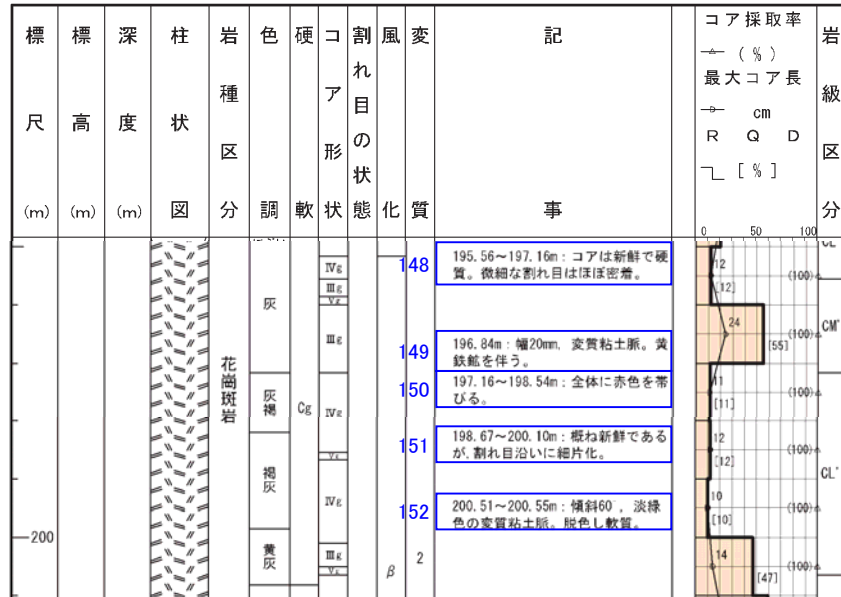
申請書用柱状図



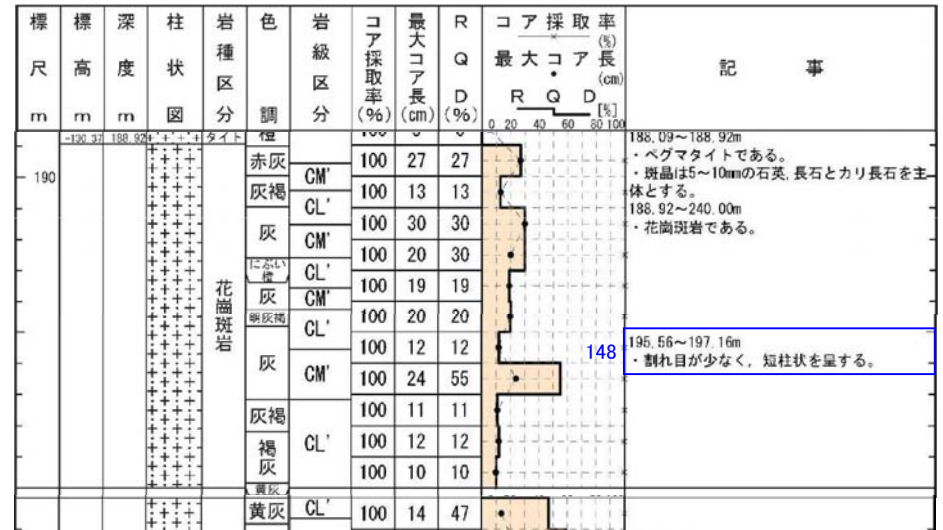
記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
143	・境界の傾斜の記載については、補足的なものであるため削除。 ・岩盤状況については、特徴的な区間毎に別途記載することとしているため、境界の岩盤状況については削除。
144	・割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
145	・細粒物質を伴い軟質化するが、連続性や直線性に乏しいことから削除。
146	・割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
147	・粘土を挟在するが、幅狭く、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。



報告書作成用柱状図  
(H26年10月)



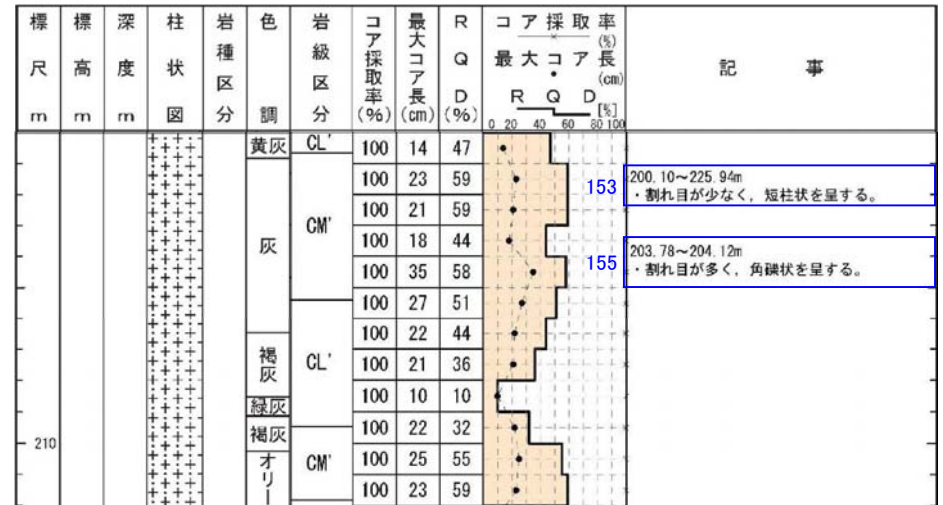
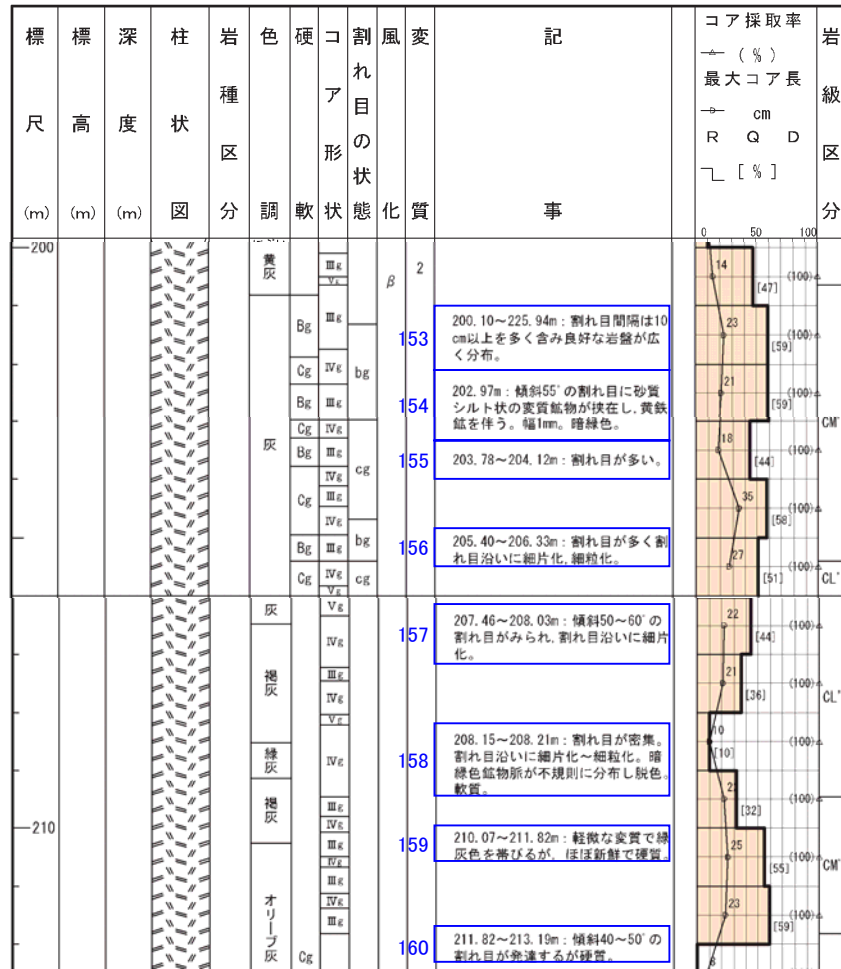
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
148	・割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき短柱状と記載。 ・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。
149	・粘土を挟在するが、幅狭く、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・鉱物の晶出の記載については、補足的なものであるため削除。
150	・色調については、補足的なものであるため削除。
151	・割れ目沿いに細片化しているが、掘削時の機械割れと判断して削除。
152	・粘土を挟在するが、連続性に乏しいことから削除。

報告書作成用柱状図  
(H26年10月)

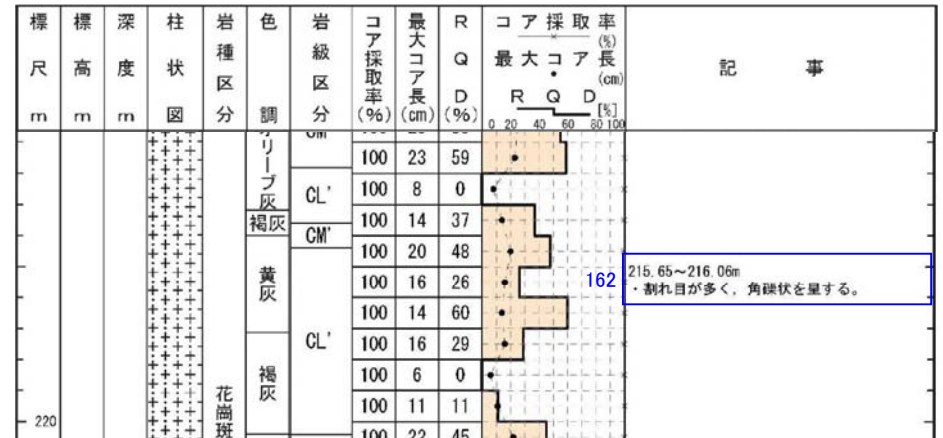
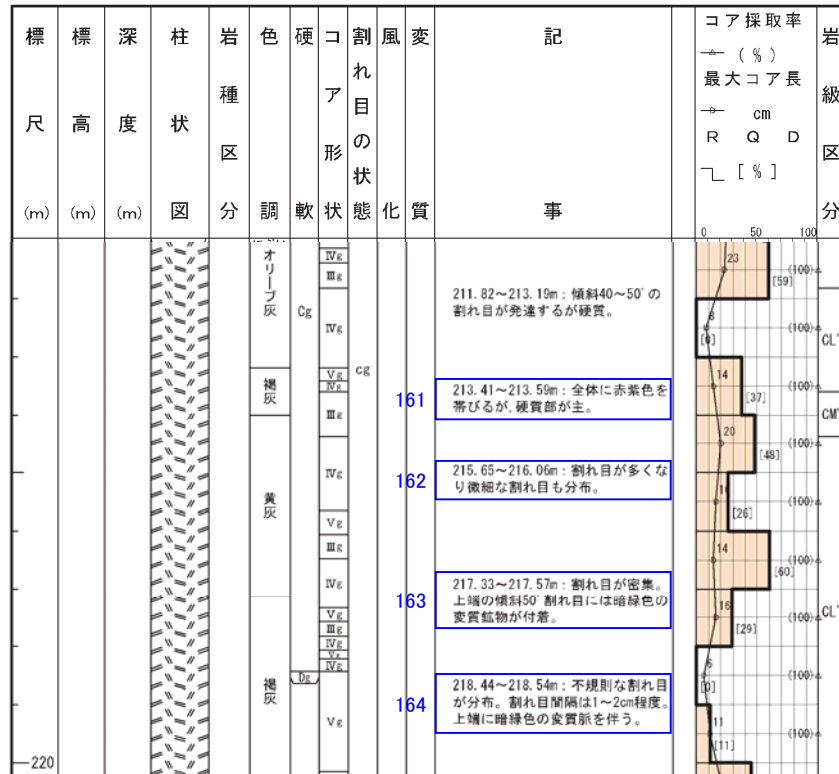
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
153	・割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき短柱状と記載。
154	・割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
155	・割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
156~160	・比較的硬質な区間であり、一部割れ目沿いに細片化するが、挟在物の連続性に乏しく周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・色調については、補足的なものであるため削除。 ・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。

報告書作成用柱状図  
(H26年10月)

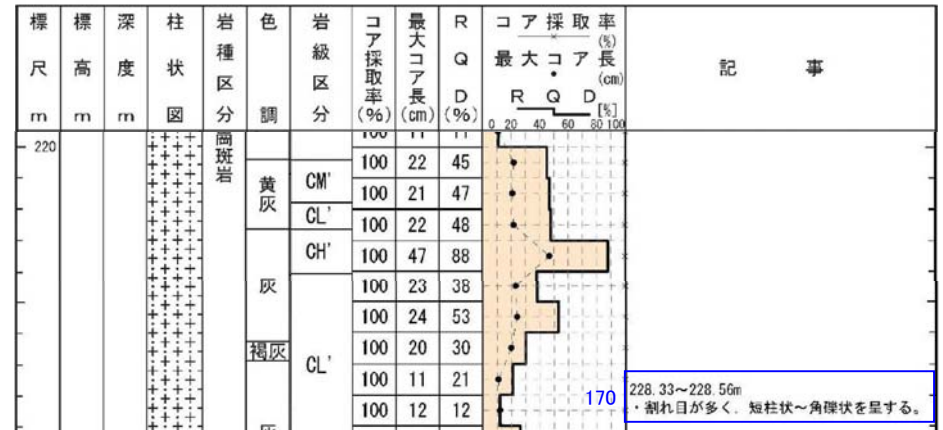
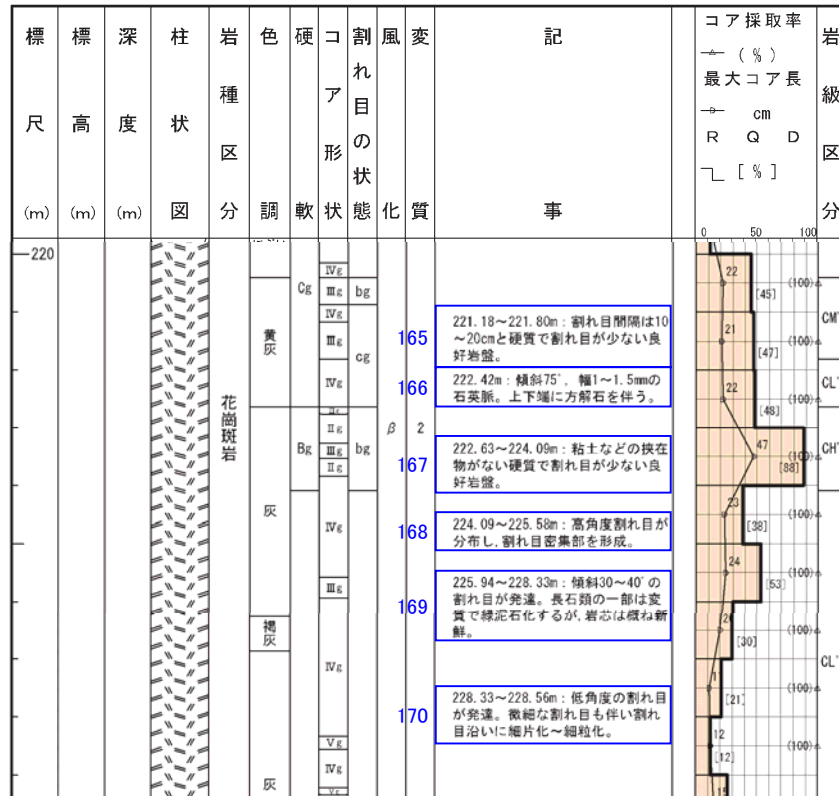
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
161	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比較的硬質な区間であり、一部割れ目沿いに細片化するが、挟在物の連続性に乏しく周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> <li>・色調については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。</li> </ul>
162	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。</li> </ul>
163, 164	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。</li> <li>・割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・一部割れ目沿いで、変質脈の挟在が見られるが、いずれも周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> </ul>

報告書作成用柱状図  
(H26年10月)

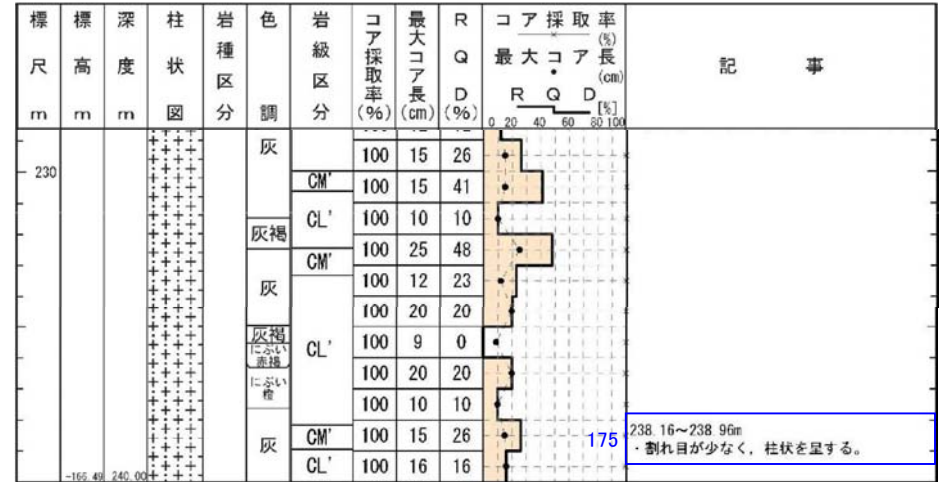
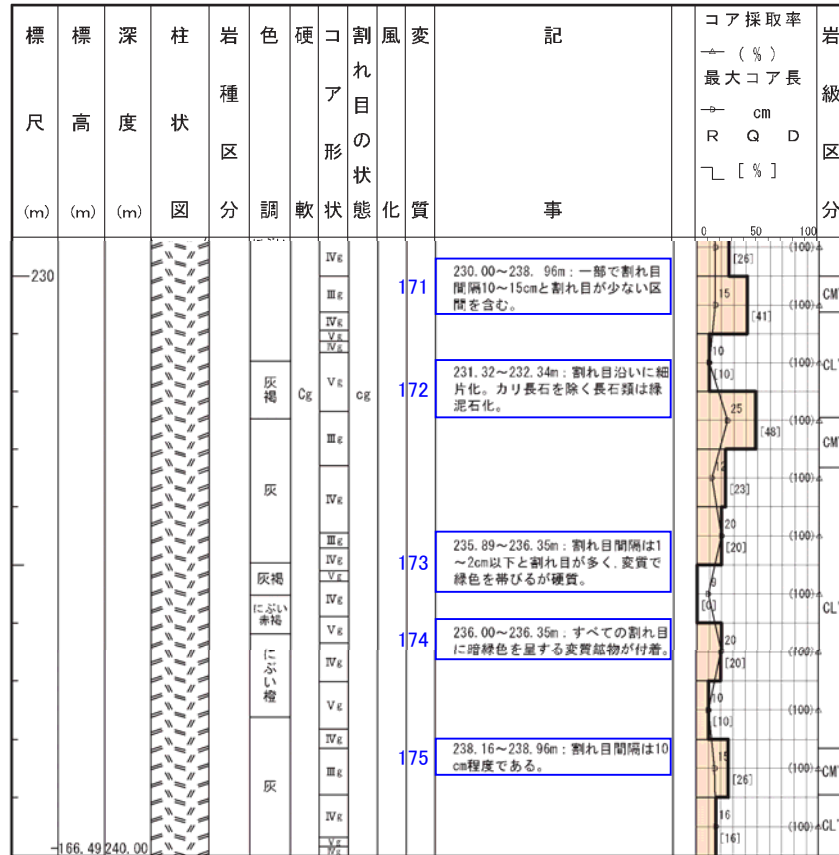
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
165~169	<ul style="list-style-type: none"> <li>割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。</li> <li>割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。</li> <li>鉱物脈については、補足的なものであるため削除。</li> <li>一部割れ目沿いで、変質脈の挟入が見られるが、いずれも周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> <li>硬軟については、岩級区分で示しているため削除。</li> <li>長石の変質については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
170	<ul style="list-style-type: none"> <li>割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき短柱状~角礫状と記載。</li> </ul>

報告書作成用柱状図  
(H26年10月)

申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
171	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
172	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・長石の緑泥石化については、変質に関する補足的なものであるため削除。
173	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
174	・割れ目沿いの鉱物晶出については、補足的なものであるため削除。
175	・割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき柱状と記載。

余白

**H24-B11-1**

余白



報告書作成用柱状図  
(H26年9月)

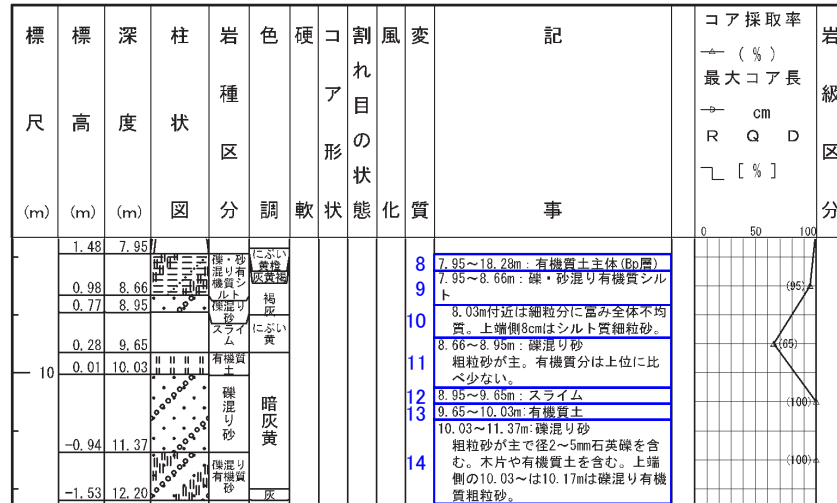
標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記	コア採取率 → ( % ) 最大コア長 → cm R Q D └ [ % ]	岩級区分
					灰黄褐					0.00~7.95m: 埋土 (bk層)	0	
					灰黄橙					0.00~1.50m: 細礫を含む不均質な砂からなる。	50	
					にぶい黄					1.50~3.98m: 礫・シルト混り砂 細~粗粒砂からなる。全体に礫およびシルトが混る。部分的に礫の混入率が20~30%となる。礫は径5~40mm、最大径110mmの花崗斑岩の角礫を主体とする。	100	
					灰黄					3.98~4.43m: 礫密集部。	100	
					明黄褐					4.43~5.51m: 礫混り砂 上下位に比べて礫径・礫率ともに小さい。	100	
					灰黄					5.51~7.85m: 礫質砂 上位に比べ、礫径・礫率ともに大きくなる。礫は礫質花崗斑岩。	100	
					灰黄					7.85~7.95m: 礫混り砂 粗粒砂主体。風化で褐色化する。	100	
	1.48	7.95		埋土								

申請書用柱状図

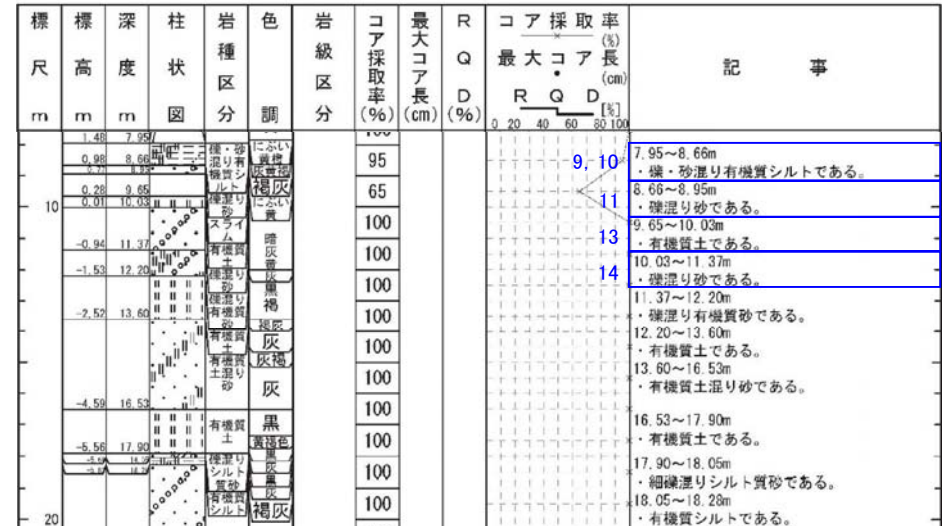
標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [ % ]	記	事
					灰黄褐		100					
					にぶい黄		100					
					灰黄		100					
					明黄褐		100					
					灰黄		100					
					灰黄		100					
					灰黄		100					
					埋土					1~7	0.00~7.95m ・埋土である。	

記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
1~7	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。

報告書作成用柱状図  
(H26年9月)



申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
8	・区間毎の性状を個別に記載しているため、有機質土主体とのまとめ書きについては削除。
9, 10	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
11	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
12	・スライム区間については、“岩種区分”欄に記載しているため削除。
13	・変更なし
14	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。

報告書作成用柱状図  
(H26年9月)

標尺	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記 事	コア採取率 (%)	岩級区分
	-0.94	11.37		有機質土	黒褐色					粗粒砂が主で径2~5mm石英礫を含む。木片や有機質土を含む。上端側の10.03~は10.17mは礫混り有機質粗粒砂	100	
	-1.53	12.20										
	-2.52	13.60		有機質土混り砂	灰褐色					11.37~12.20m: 礫混り有機質砂 11.64m以深は細粒砂で上下端境界は水平、11.64m以深は粗粒砂が主で幅1~4cmの有機物を帯状に含む。 12.20~13.60m: 有機質土 粗粒砂や細礫を含み不均質。 12.65~12.85mに植物繊維を含む。 13.60~16.53m: 有機物混り砂 砂は細~粗粒砂で不均質。 炭化物や未分解木片などを含む。 また、処々に20mm以下の礫を含む。 14.51~15.00m: 未分解木片の塊り 16.48m、16.51m: 炭化物が一定方向に配列。	100	
	-4.59	16.53										
	-5.56	17.90		有機質土	黒					16.53~17.90m: 有機質土 分解の強弱で精状模様を呈する。17.35~17.68mに極細粒砂を挟む。	100	
	-5.66	18.05										
	-5.83	18.28		有機質土	黒					17.90~18.05m: 礫混りシルト質砂 18.05~18.28m: 有機質シルト	100	
	-5.83	18.28										
										18.28~23.15m: 礫混り砂 (Bs層)	100	

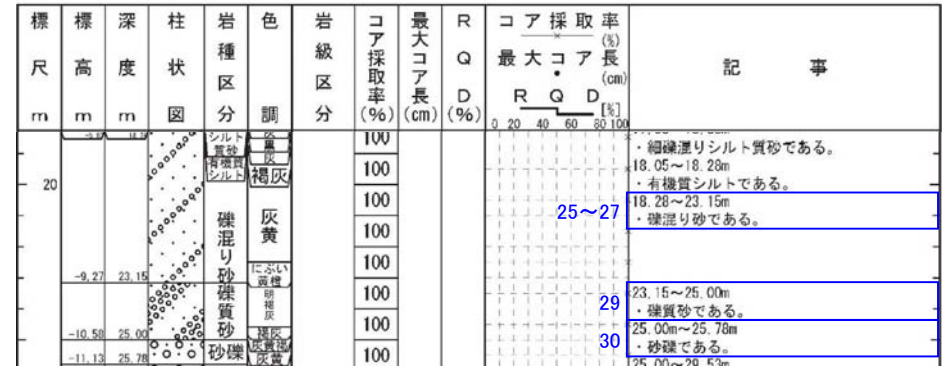
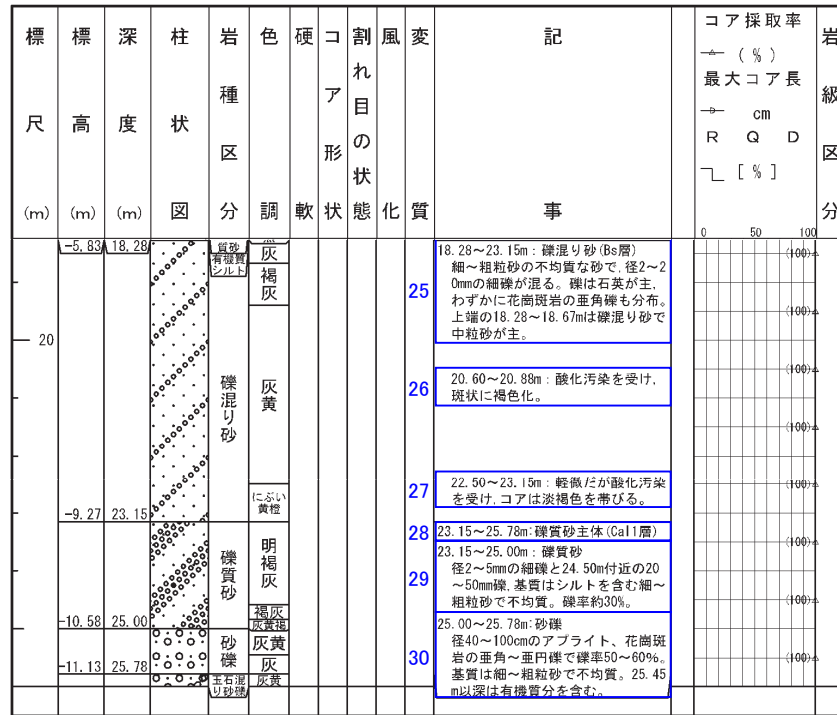
申請書用柱状図

標尺	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記 事
	1.48	7.99		有機質土	黒褐色		95			7.95~8.66m	8.66~8.95m	8.66~8.95m: 礫・砂混り有機質シルトである。 礫混り砂である。
	0.98	8.66										
	0.28	9.65		有機質土	黒褐色		100			9.65~10.03m	10.03~11.37m	9.65~10.03m: 有機質土である。 10.03~11.37m: 礫混り砂である。
	-0.94	11.37										
	-1.53	12.20		有機質土	灰褐色		100			11.37~12.20m	12.20~13.60m	11.37~12.20m: 礫混り有機質砂である。 12.20~13.60m: 有機質土である。
	-2.52	13.60										
	-4.59	16.53		有機質土	黒		100			13.60~16.53m	16.53~17.90m	13.60~16.53m: 有機質土混り砂である。 16.53~17.90m: 有機質土である。
	-5.56	17.90										
	-5.66	18.05		有機質土	黒		100			17.90~18.05m	18.05~18.28m	17.90~18.05m: 細礫混りシルト質砂である。 18.05~18.28m: 有機質シルトである。
	-5.83	18.28										
							100					

記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
15, 16	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
17, 18	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
19~21	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
22	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
23	・表現の見直し(礫混り→細礫混り)。
24	・変更なし

報告書作成用柱状図  
(H26年9月)

申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
25~27	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
28	・区間毎の性状を個別に記載しているため、礫質砂主体とのまとめ書きについては削除。
29	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
30	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。

報告書作成用柱状図  
(H26年9月)

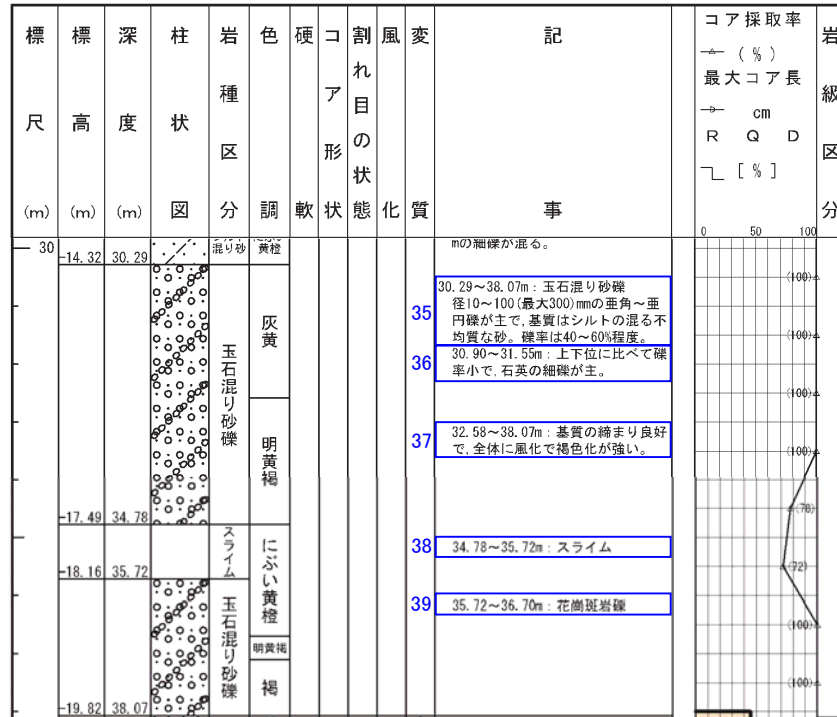
標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → ( % ) 最大コア長 R Q D L [ % ]	岩級区分
										25.78~38.07m: 玉石混り砂礫主体 (Gs層)		
				玉石混り砂礫	灰黄					25.78~29.53m: 玉石混り砂礫 径10~100cm程度のアブライト、花崗斑岩の亜角~亜円礫を5~60%含む。基質は径2~5mmの細礫を含む不均質な砂。		
										26.94~28.00m: 上下位に比べて礫率が低く、礫は径10~20mm、最大径40mmの亜角~亜円礫が主。基質は細~粗粒砂。		
										29.53~30.29m: シルト混り砂 細~中粒砂が主。部分的に径2~5mの細礫が混る。		
	-13.78	29.53		シルト混り砂	にぶい黄橙							
	-14.32	30.29										

申請書用柱状図

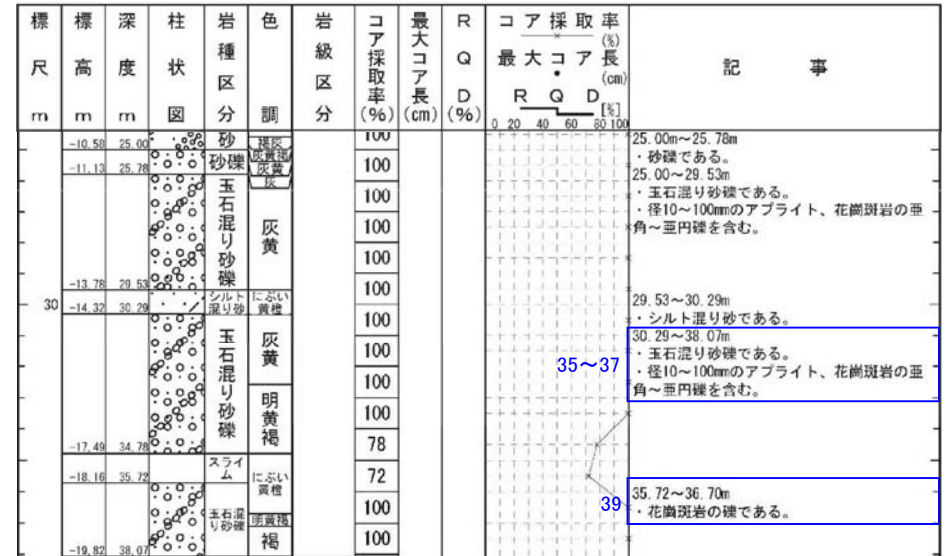
標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	記事
							100					25.00m~25.78m ・砂礫である。
				砂礫	灰黄		100					25.00~29.53m ・玉石混り砂礫である。 ・径10~100mmのアブライト、花崗斑岩の亜角~亜円礫を含む。
				玉石混り砂礫	灰黄		100					
				玉石混り砂礫	灰黄		100					
				シルト混り砂	にぶい黄橙		100					29.53~30.29m ・シルト混り砂である。
				玉石混り砂礫	明黄褐		100					30.29~38.07m ・玉石混り砂礫である。 ・径10~100mmのアブライト、花崗斑岩の亜角~亜円礫を含む。
				スライム	にぶい黄橙		78					
				玉石混り砂礫	明黄褐		100					
							72					
							100					35.72~36.70m ・花崗斑岩の礫である。

記事	報告書作成用柱状図 (H26年9月) ⇒ 申請書用柱状図
31	・区間毎の性状を個別に記載しているため、玉石混り砂礫主体とのまとめ書きについては削除。
32, 33	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・周囲に比べ含まれる礫が大きく、目立つことから、礫の特徴として、礫径、礫種、円磨度を記載。 ・上端深度25.78m→25.00m <sup>*1</sup> ・径の単位cm→mm <sup>*3</sup>
34	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。

報告書作成用柱状図  
(H26年9月)



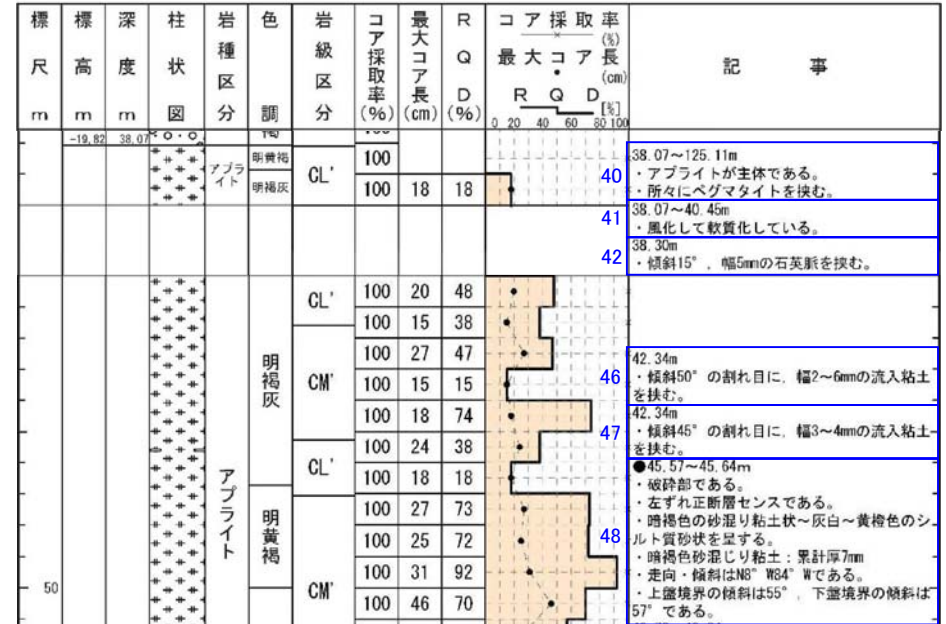
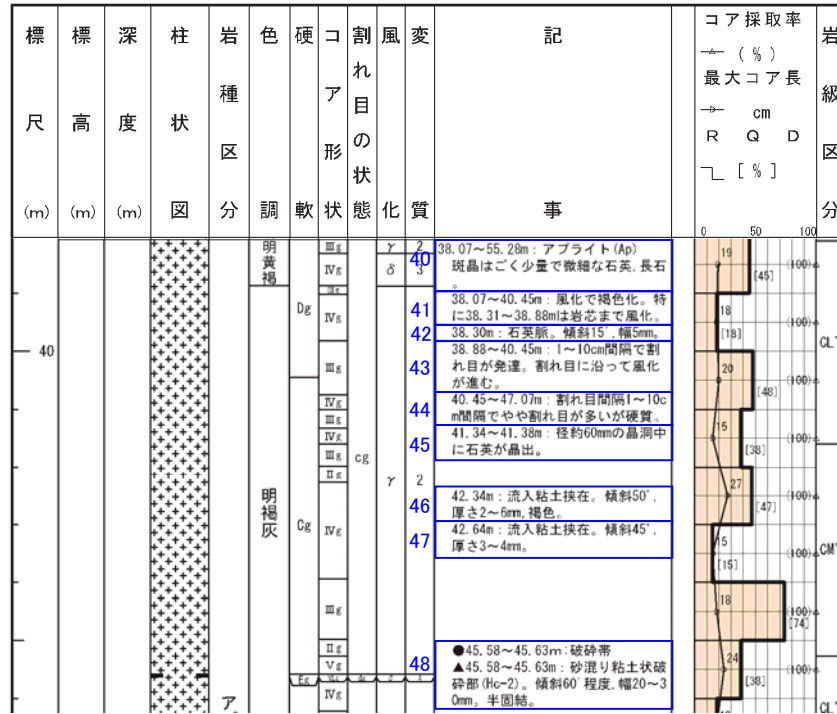
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
35~37	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。</li> <li>・周囲に比べ含まれる礫が大きく、目立つことから、礫の特徴として、礫径、礫種、円磨度を記載。</li> </ul>
38	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スライム区間については、“岩種区分”欄に記載しているため削除。</li> </ul>
39	<ul style="list-style-type: none"> <li>・変更なし</li> </ul>

報告書作成用柱状図  
(H26年9月)

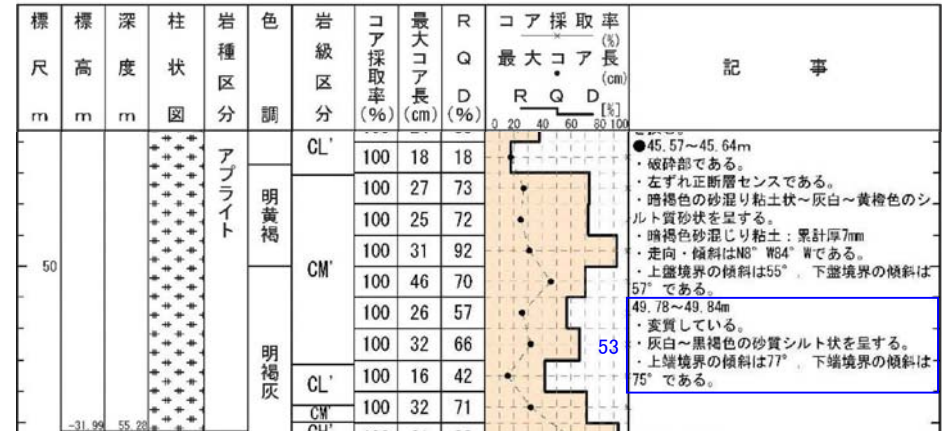
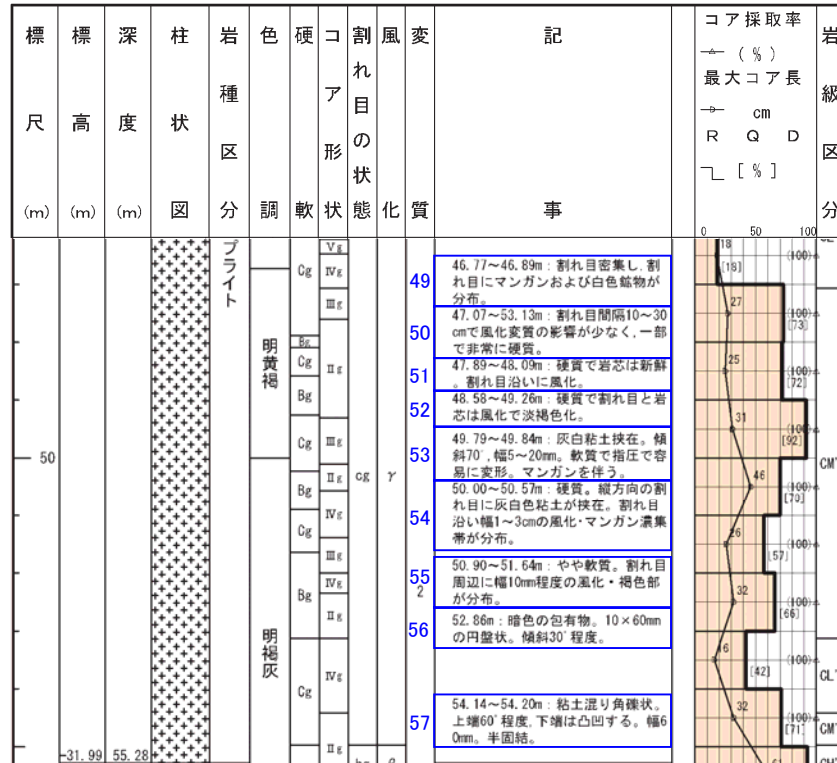
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
40	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般的な岩相であり、斑晶の種類については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。</li> <li>記事No.58,60,61,63に基づき、ペグマタイトの挟在を追記。</li> </ul>
41	<ul style="list-style-type: none"> <li>“硬軟”欄に基づき、軟質化していると記載。</li> <li>色調については補足的なものであるため削除。</li> <li>風化の程度については、岩級区分で示しているため、岩芯まで風化との記載は削除。</li> </ul>
42	<ul style="list-style-type: none"> <li>変更なし</li> </ul>
43	<ul style="list-style-type: none"> <li>割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。</li> <li>割れ目沿いの風化の程度については、当該区間の周囲と明瞭な差が認められないため削除。</li> </ul>
44	<ul style="list-style-type: none"> <li>硬軟や割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。</li> </ul>
45	<ul style="list-style-type: none"> <li>割れ目沿いの鉱物晶出については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
46	<ul style="list-style-type: none"> <li>変更なし</li> </ul>
47	<ul style="list-style-type: none"> <li>深度42.64m→42.34m<sup>※2</sup></li> </ul>
48	<ul style="list-style-type: none"> <li>色調, 粒度, 粘土の累計幅, 境界の傾斜について、申請前までに別途行っていた、地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき記載。</li> <li>深度45.58～45.63m→45.57～45.64m<sup>※2</sup></li> <li>薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。</li> <li>ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。</li> <li>硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> </ul>

報告書作成用柱状図  
(H26年9月)

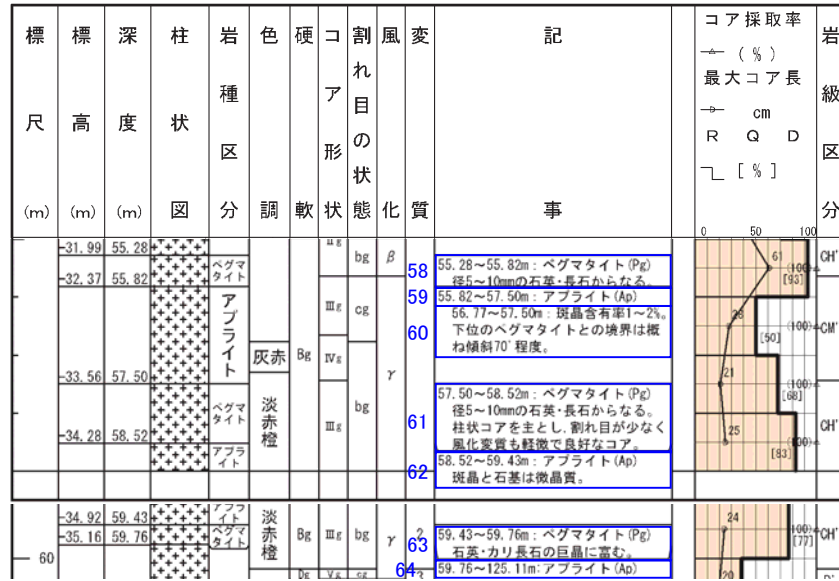
申請書用柱状図



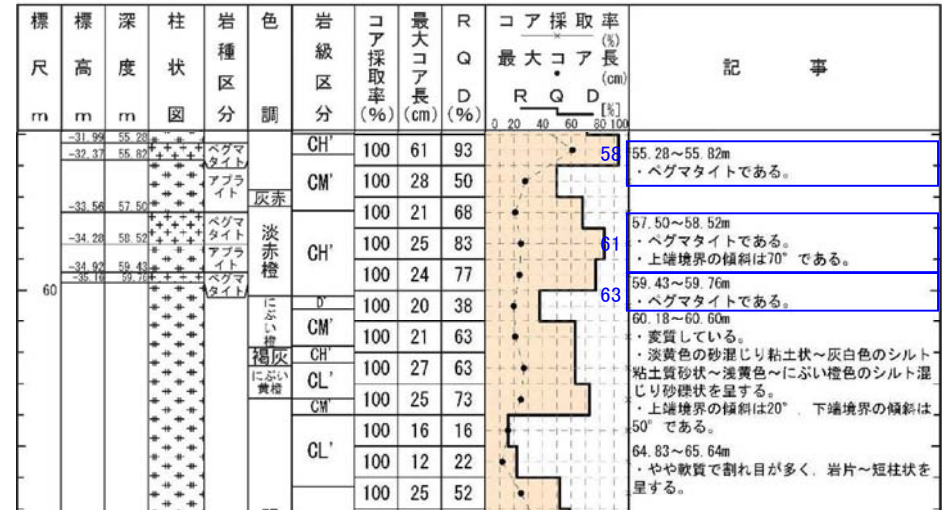
記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
49	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。</li> <li>・割れ目沿いのマンガン、鉱物晶出については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
50	<ul style="list-style-type: none"> <li>・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。</li> </ul>
51	<ul style="list-style-type: none"> <li>・硬軟の程度については、岩級区分で示しているため削除。</li> <li>・割れ目沿いの風化については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
52	<ul style="list-style-type: none"> <li>・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。</li> <li>・色調については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
53	<ul style="list-style-type: none"> <li>・深度、変質、粒度、境界の傾斜については、申請書前までに別途行っていた、地盤安定解析用の物性値設定を目的とした再観察の結果に基づき記載。</li> </ul>
54	<ul style="list-style-type: none"> <li>・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。</li> <li>・粘土を挟在するが、直線性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> <li>・割れ目沿いの風化、マンガンについては、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
55	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目沿いの風化、変色については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・硬軟の程度については、岩級区分で示しているため削除。</li> </ul>
56	<ul style="list-style-type: none"> <li>・包有物については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
57	<ul style="list-style-type: none"> <li>・粘土混じり角礫状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。</li> </ul>



報告書作成用柱状図  
(H26年9月)

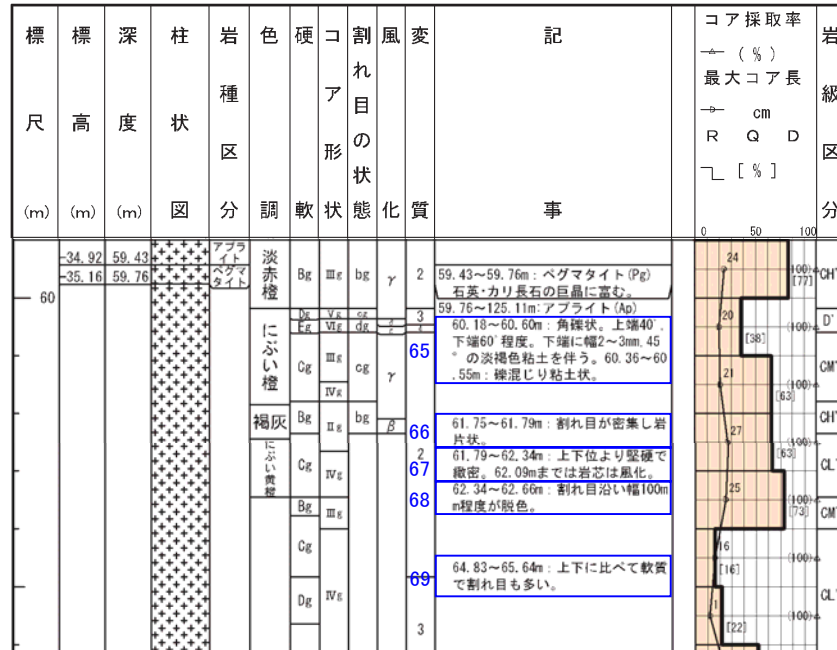


申請書用柱状図

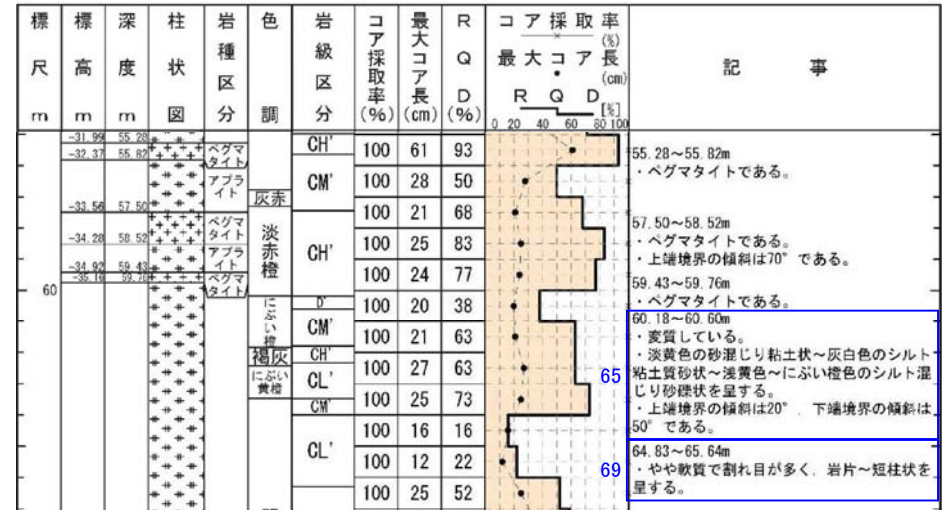


記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
58	・ベグマタイトの一般的な特徴を有しており、斑晶の種類、粒径については削除。
59, 60	・上位のベグマタイトを挟在物として記事No.40と統合しているため削除。
61	・ベグマタイトの一般的な特徴を有しており、斑晶の種類、粒径については削除。 ・記事No.60Iに基づき境界傾斜を記載。
62	・ベグマタイトを挟在物としてNo.40と統合しているため削除。
63	・ベグマタイトの一般的な特徴を有しており、斑晶の種類、粒径については削除。
64	・ベグマタイトを挟在物としてNo.40と統合しているため削除。

報告書作成用柱状図  
(H26年9月)



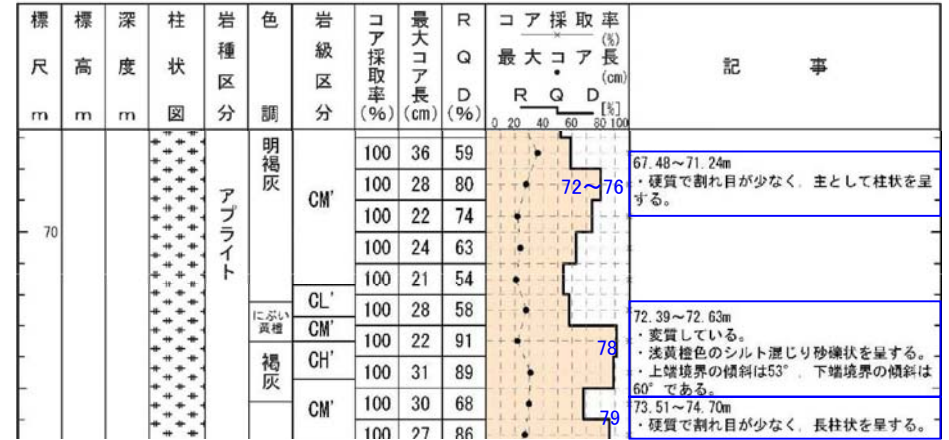
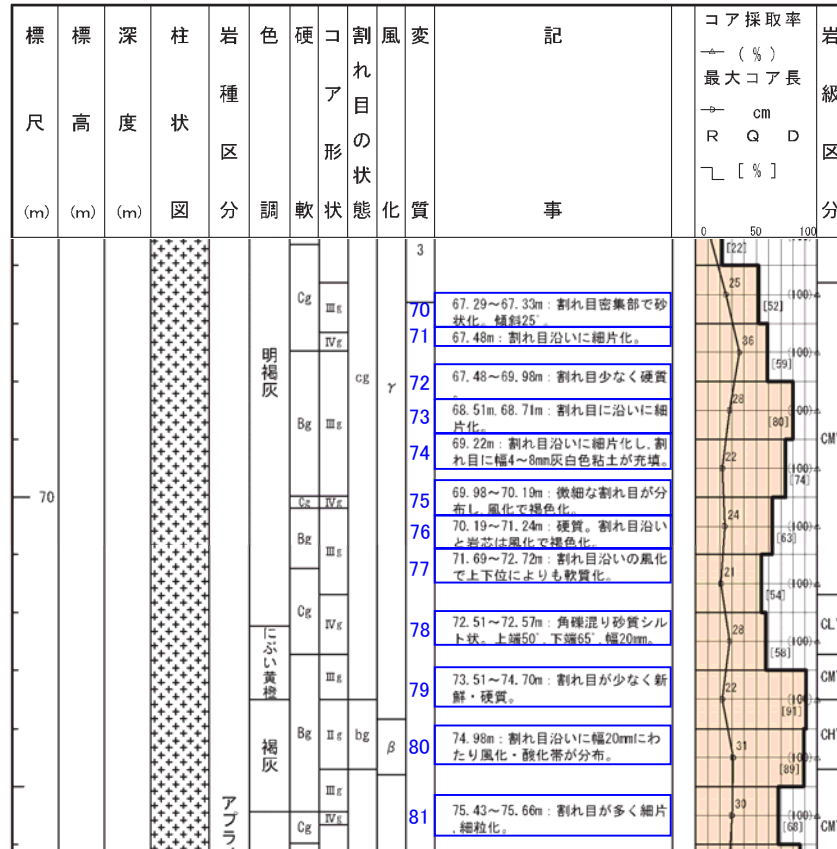
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
65	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“変質”欄に基づき、変質していると記載。</li> <li>・色調、粒度については、申請書前までに別途行っていた、地盤安定解析用の物性値設定を目的とした再観察の結果に基づき記載。</li> <li>・上端境界の傾斜40° → 20° ※1</li> <li>・下端境界の傾斜45° → 50° ※2</li> </ul>
66	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。</li> </ul>
67	<ul style="list-style-type: none"> <li>・硬軟の程度については、岩級区分で示しているため削除。</li> <li>・風化の程度については、当該区間の周囲と明瞭な差が認められないため削除。</li> </ul>
68	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目沿いの脱色については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
69	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき岩片~短柱状と追記。</li> <li>・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。</li> </ul>

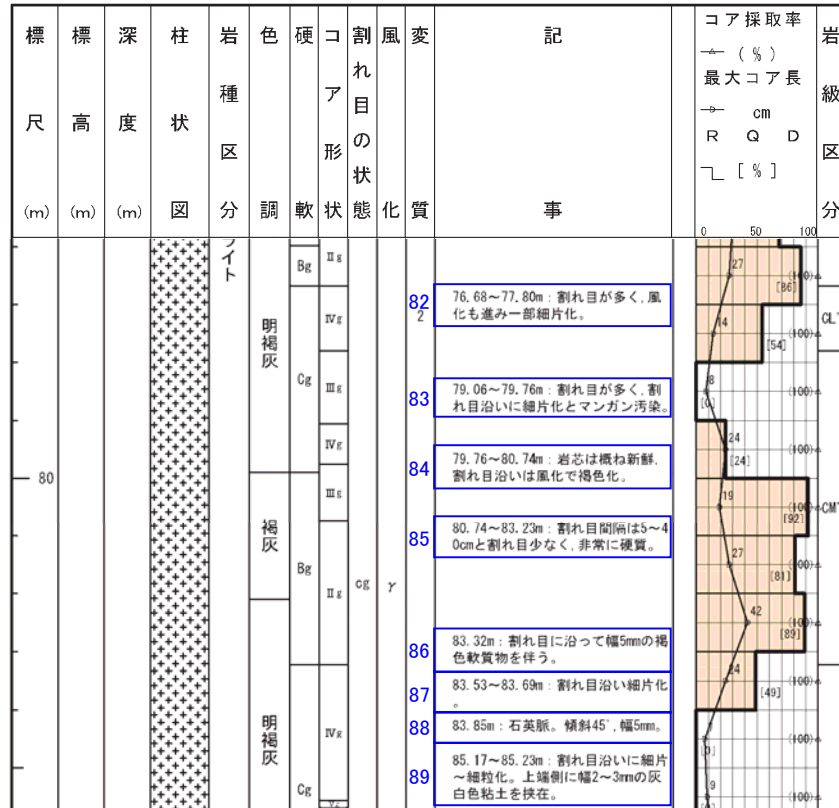
報告書作成用柱状図  
(H26年9月)

申請書用柱状図

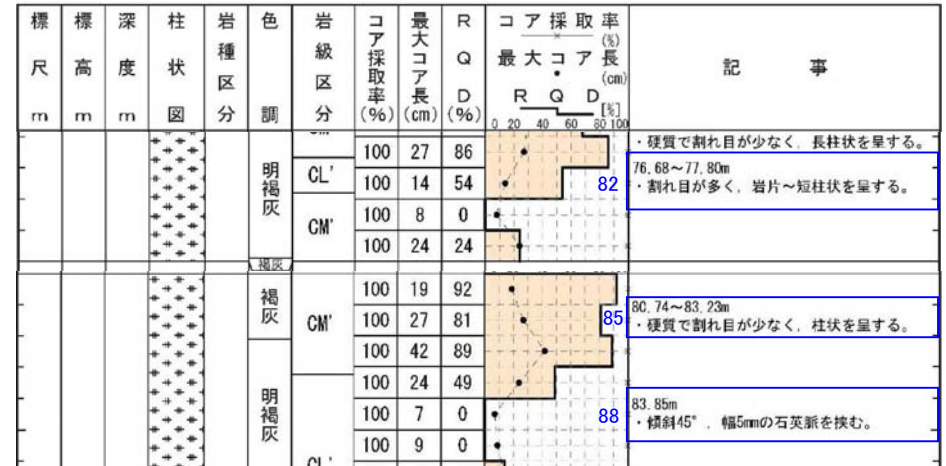


記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
70	・割れ目が発達し砂状化するが、直線性や連続性に乏しいことから削除。
71	・割れ目沿いで細片化するが、掘削時の機械割れと判断し削除。
72～76	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“硬軟”欄に基づき硬質と記載。</li> <li>・“コア形状”欄に基づき柱状と記載。</li> <li>・一部割れ目沿いで細片化し粘土を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> <li>・割れ目沿いの風化については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
77	<ul style="list-style-type: none"> <li>・硬軟の程度については、岩級区分で示しているため削除。</li> <li>・割れ目沿いの風化については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
78	<ul style="list-style-type: none"> <li>・変質、色調、粒度、境界の傾斜については、申請書前までに別途行っていた、地盤安定解析用の物性値設定を目的とした再観察の結果に基づき記載。</li> <li>・深度72.51～72.57m→72.39～72.63m※1、※4</li> </ul>
79	・“コア形状”欄に基づき長柱状と記載。
80	・割れ目沿いの風化、酸化については、補足的なものであるため削除。
81	・割れ目沿いで細粒、細片化するが、掘削時の機械割れと判断し削除。

報告書作成用柱状図  
(H26年9月)

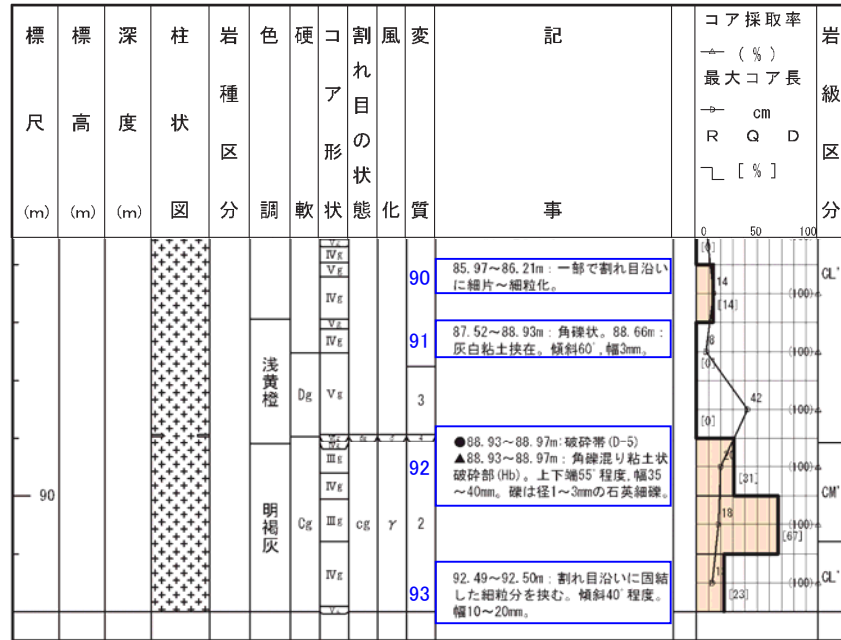


申請書用柱状図

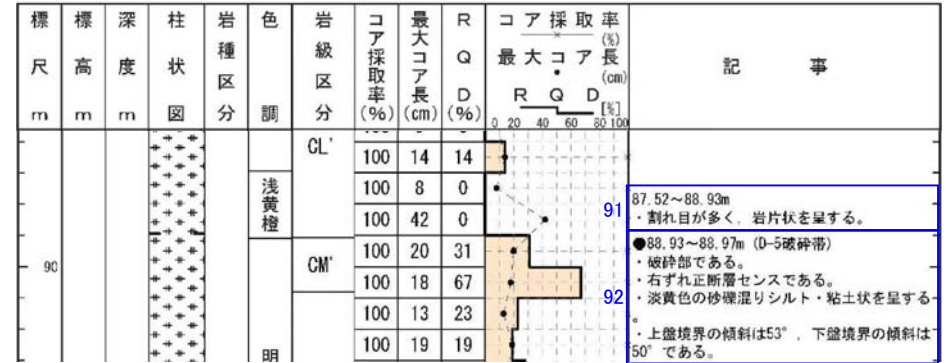


記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
82	・割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき岩片～短柱状と記載。 ・風化程度については、当該区間の周囲と明瞭な差が認められないため削除。
83	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いで細片化するが、挟在物の連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目沿いのマンガン汚染については、補足的なものであるため削除。
84	・風化程度については、当該区間の周囲と明瞭な差が認められないため削除。
85	・割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき柱状と記載。
86	・割れ目沿いで軟質物を伴うが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
87	・割れ目沿いで細片化するが、掘削時の機械割れと判断し削除。
88	・変更なし
89	・割れ目沿いで細片化し粘土を挟在するが、粘土は直線性や連続性に乏しいことから削除。

報告書作成用柱状図  
(H26年9月)



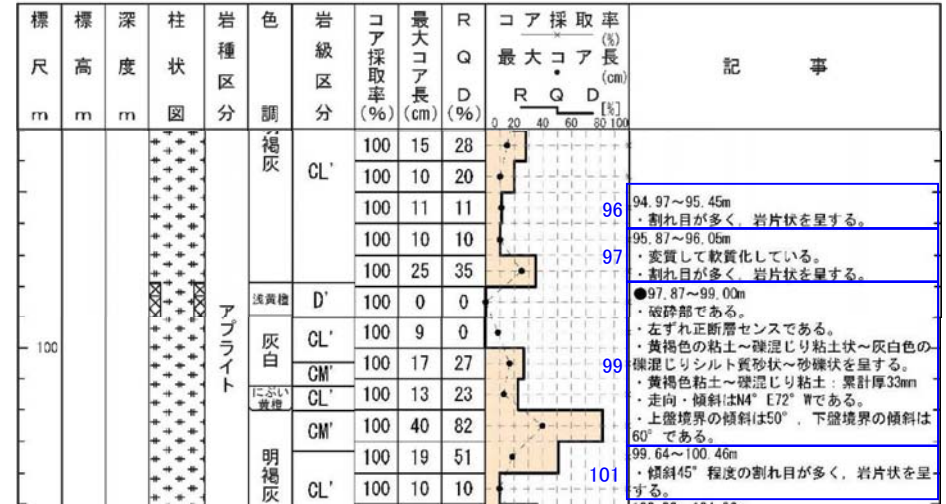
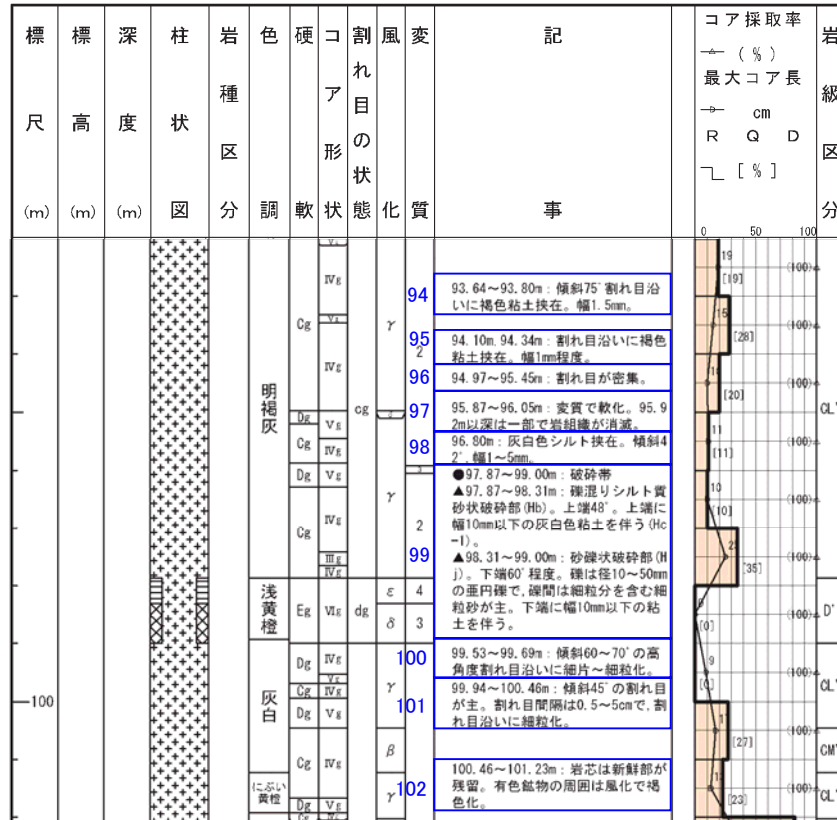
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
90	・割れ目沿いで細片~細粒化するが、挟在物の連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
91	・“コア形状”欄に基づき岩片状と記載。 ・粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
92	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・色調、粒度、境界の傾斜については、申請書前までに別途行っていた、地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破碎部の再観察の結果に基づき記載。
93	・割れ目沿いで細粒分を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

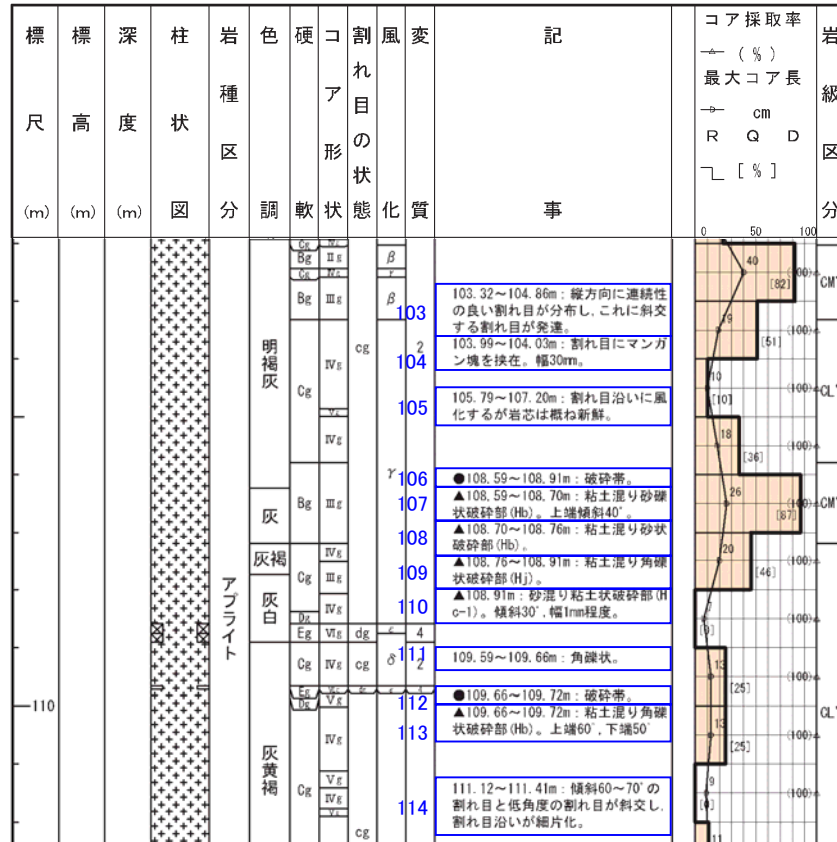
報告書作成用柱状図  
(H26年9月)

申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
94	・一部に粘土を挟在するが、直線性や連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
95	・粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
96	・“コア形状”欄に基づき岩片状と記載。
97	・“コア形状”欄に基づき岩片状と記載。 ・原岩組織の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。
98	・シルトを挟在するが、幅狭く、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
99	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・色調、粒度、粘土の累計幅、境界の傾斜については、申請書前までに別途行っていた、地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破碎部の再観察の結果に基づき記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。
100	・割れ目沿いで細粒～細片化するが、挟在物の連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
101	・割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき岩片状と記載。 ・割れ目沿いの細粒化の記載については、挟在物の連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・上端深度99.94m→99.64m <sup>※2</sup>
102	・風化については、岩級区分に含めて表示しているため削除。

報告書作成用柱状図  
(H26年9月)



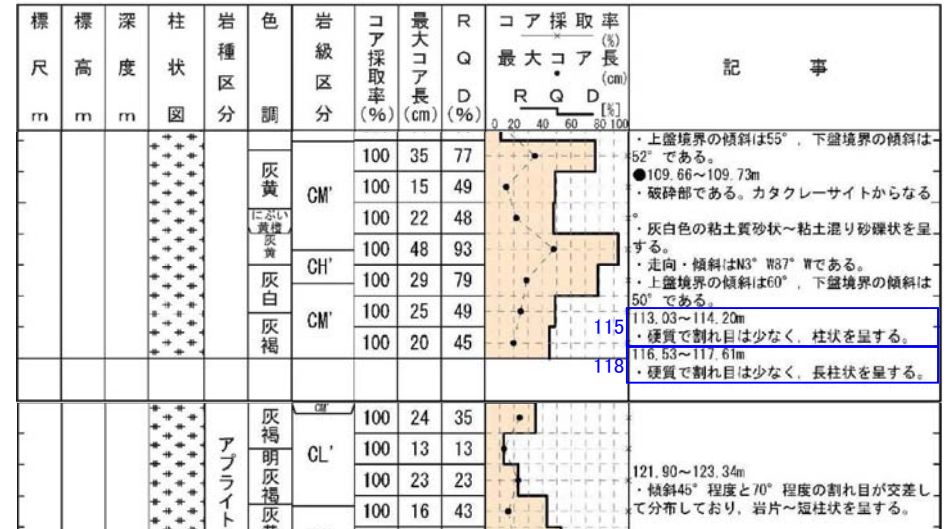
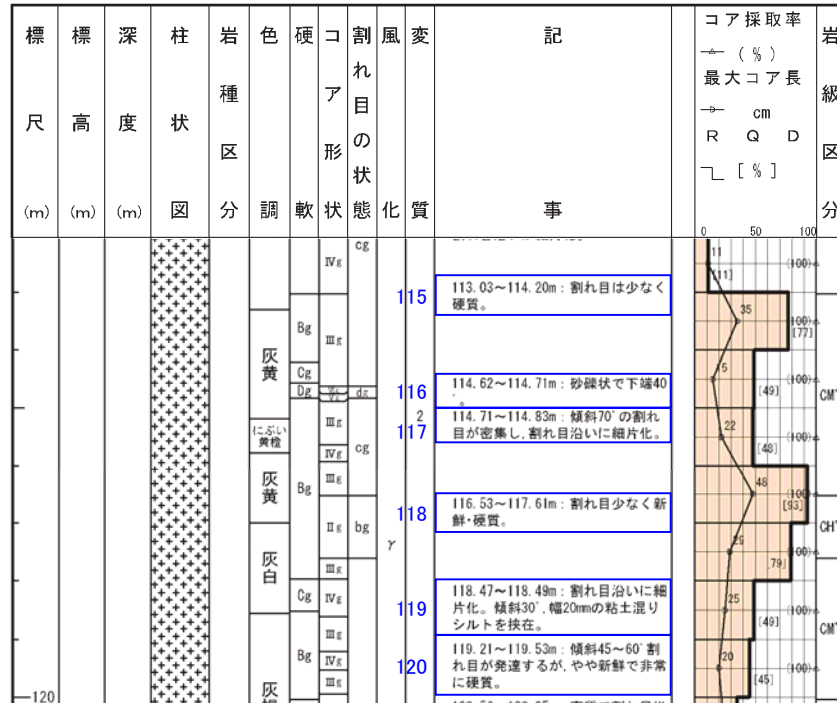
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
103	・変更なし
104	・割れ目沿いのマンガン塊の挟在については、補足的なものであるため削除。
105	・風化については、岩級区分に含めて表示しているため削除。
106~110	・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。 ・色調、粒度、境界の傾斜については、申請書前までに別途行っていた、地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。
111	・角礫状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。
112, 113	・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。 ・色調、粒度、境界の傾斜、深度については、申請書前までに別途行っていた、地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。
114	・割れ目沿いで細片化するが、掘削時の機械割れと判断し削除。

報告書作成用柱状図  
(H26年9月)

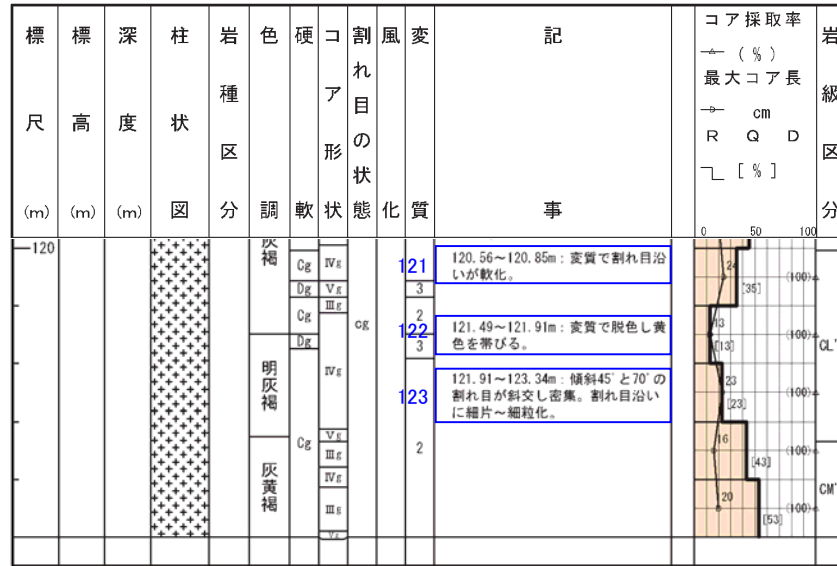
申請書用柱状図



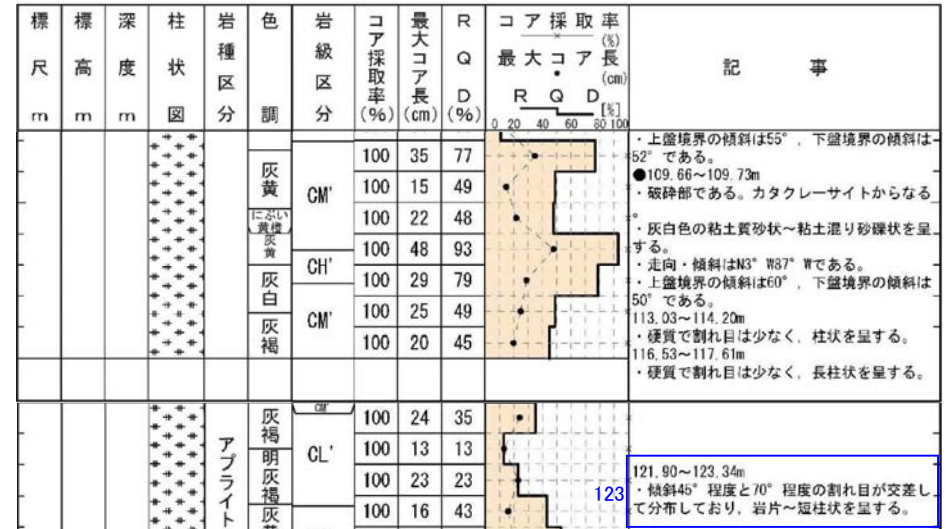
記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
115	・“コア形状”欄に基づき柱状と記載。
116, 117	・割れ目が密集し、一部で砂礫状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められず、砂礫状部の礫に定向配列も認められないことから削除。
118	・“コア形状”欄に基づき長柱状と記載。
119	・割れ目沿いで細片化した粘土混りシルトを挟在するが、開口部にスライムが充てんしたものと判断し削除。
120	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。



報告書作成用柱状図  
(H26年9月)

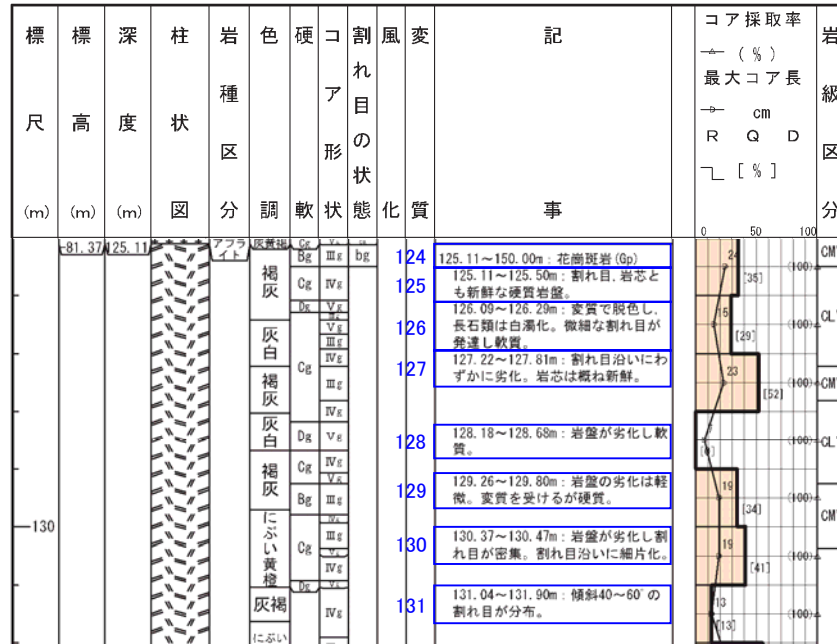


申請書用柱状図

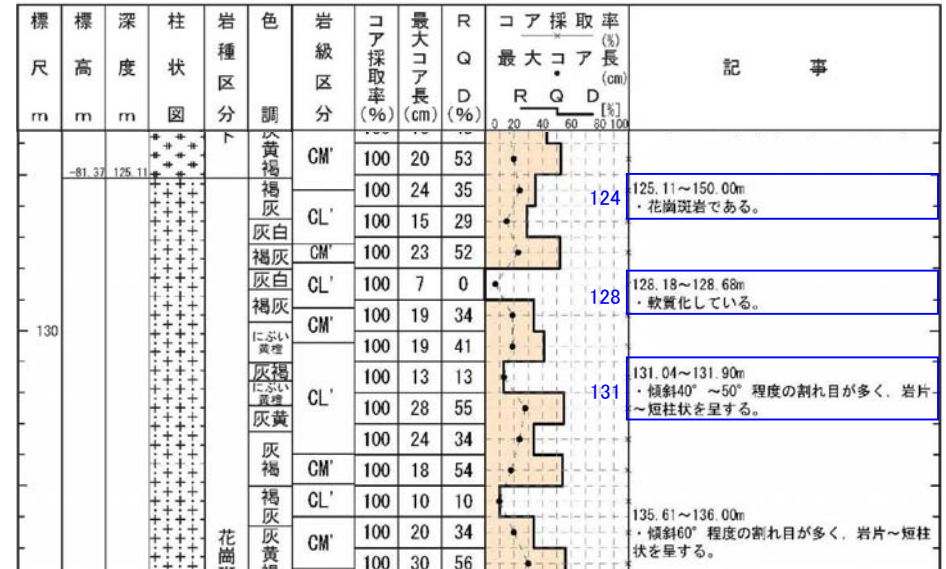


記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
121	・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。
122	・色調については、補足的なものであるため削除。
123	・割れ目沿いに細片~細粒化しているが、掘削時の機械割れと判断し削除。 ・“コア形状”欄に基づき岩片~短柱状と記載。 ・上端深度121.91m→121.90m※1

報告書作成用柱状図  
(H26年9月)

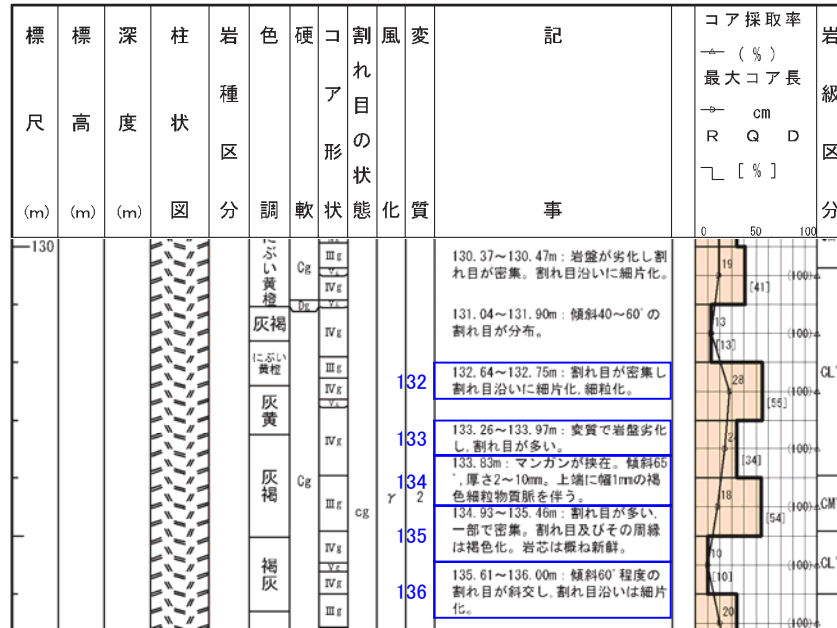


申請書用柱状図

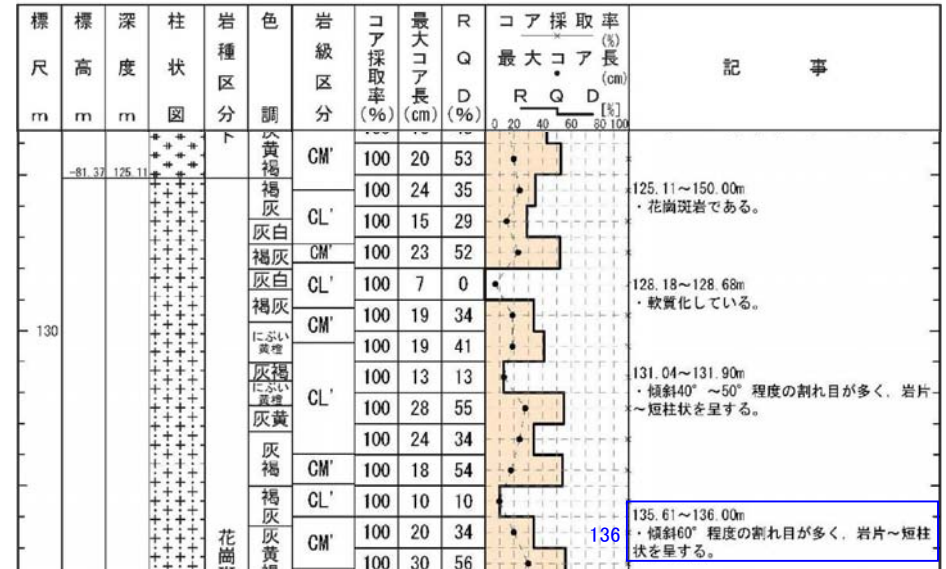


記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
124	・変更なし
125	・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。
126	・硬軟や割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・脱色、長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的な特徴の記載であるため削除。
127	・割れ目沿いに劣化するが、当該区間の周囲と明確な差異がないことから削除。
128	・軟質化を伴う岩盤の劣化については、岩級区分で示しているため削除。
129	・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。
130	・割れ目沿いで細片化するが掘削時の機械割れと判断し削除。
131	・“コア形状”欄に基づき岩片~短柱状と記載。 ・傾斜60° → 50° ※2

報告書作成用柱状図  
(H26年9月)



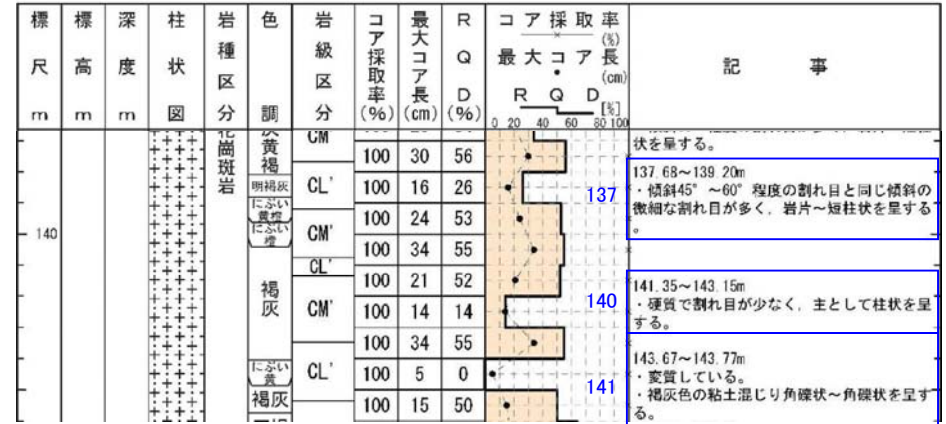
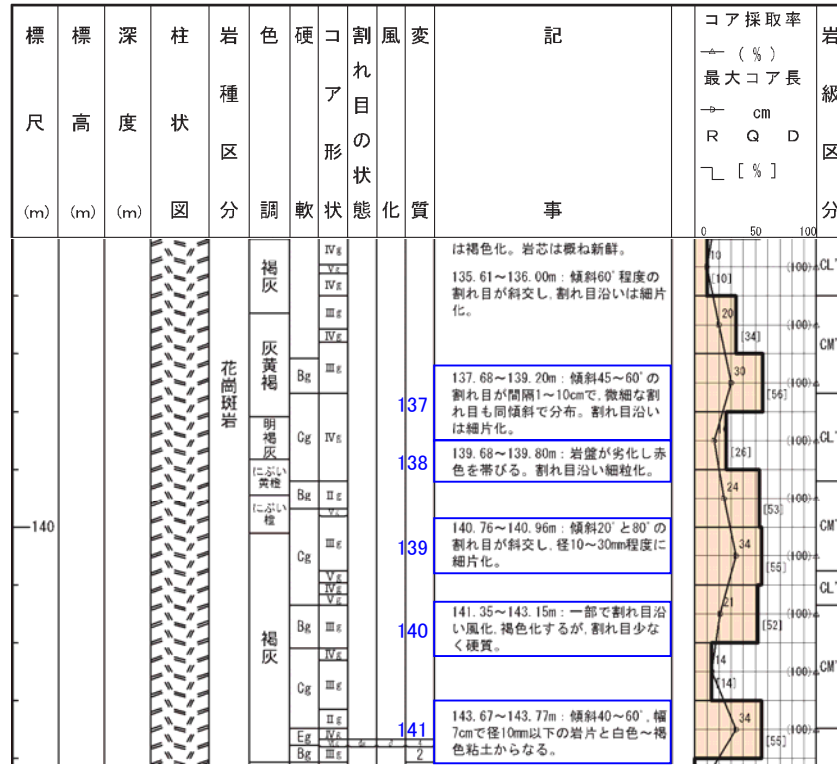
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
132	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。</li> <li>・割れ目沿いで細粒～細片化するが、掘削時の機械割れと判断し削除。</li> </ul>
133	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目の発達を伴う岩盤の劣化については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。</li> <li>・変質の程度については、当該区間の周囲と明瞭な差が認められないため削除。</li> </ul>
134	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マンガンの挟在については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・一部に細粒物質脈が挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> </ul>
135	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。</li> <li>・割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
136	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“コア形状”欄に基づき岩片～短柱状と記載。</li> <li>・割れ目沿いの細片化の記載については、挟在物の連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> </ul>

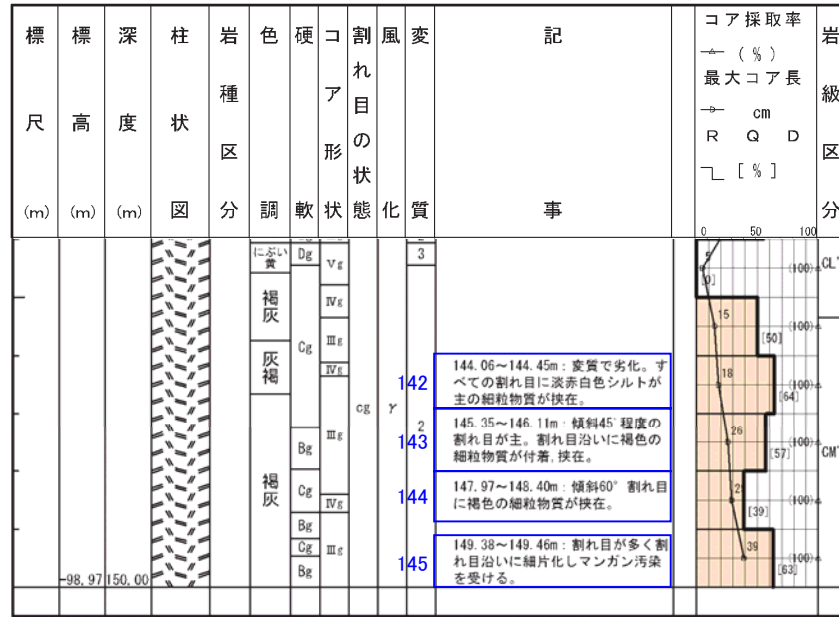
報告書作成用柱状図  
(H26年9月)

申請書用柱状図

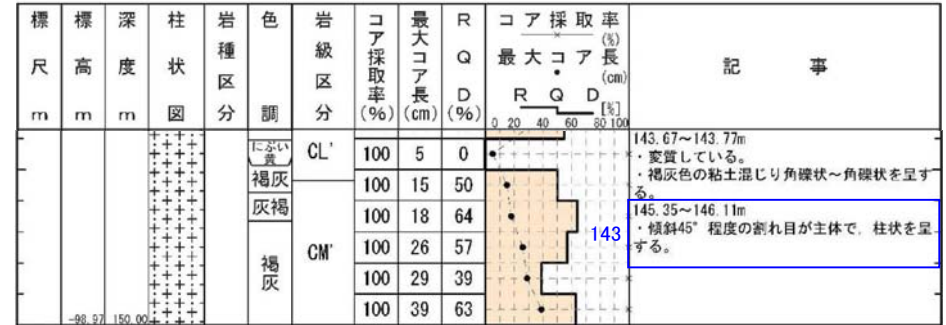


記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
137	<ul style="list-style-type: none"> <li>“コア形状”欄に基づき岩片～短柱状と記載。</li> <li>・割れ目沿いの細片化の記載については、挟在物の連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> </ul>
138	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目沿いで細粒化するが、挟在物の連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> </ul>
139	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。</li> <li>・割れ目沿いで細片化するが、掘削時の機械割れと判断し削除。</li> </ul>
140	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき柱状と記載。</li> <li>・割れ目沿いの風化、変色については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
141	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“変質”欄に基づき、変質していると記載。</li> <li>・“色調”欄に基づき、褐灰色と記載。</li> <li>・表現の見直し(径10mm以下の岩片と白色～褐色粘土からなる→粘土混じり角礫状～角礫状)。</li> <li>・見かけの傾斜については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・礫状を呈する区間の幅を記載しないこととしているため、幅7cmとの記載については削除。</li> <li>・粘土を挟在するが、いずれも連続性や直線性に乏しいことから、粘土混じり角礫状に含めて示すこととして削除。</li> </ul>

報告書作成用柱状図  
(H26年9月)



申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
142	<ul style="list-style-type: none"> <li>・劣化の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。</li> <li>・一部に細粒物質を挟在するが、系統的でなく連続性や直線性に乏しいことから削除。</li> </ul>
143	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき柱状と記載。</li> <li>・細粒物質を挟在するが、幅狭く、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> </ul>
144	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目沿いに褐色の細粒物質を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> </ul>
145	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目の発達程度は、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。</li> <li>・割れ目沿いで細片化するが、挟在物の連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> <li>・割れ目沿いのマンガン汚染については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>

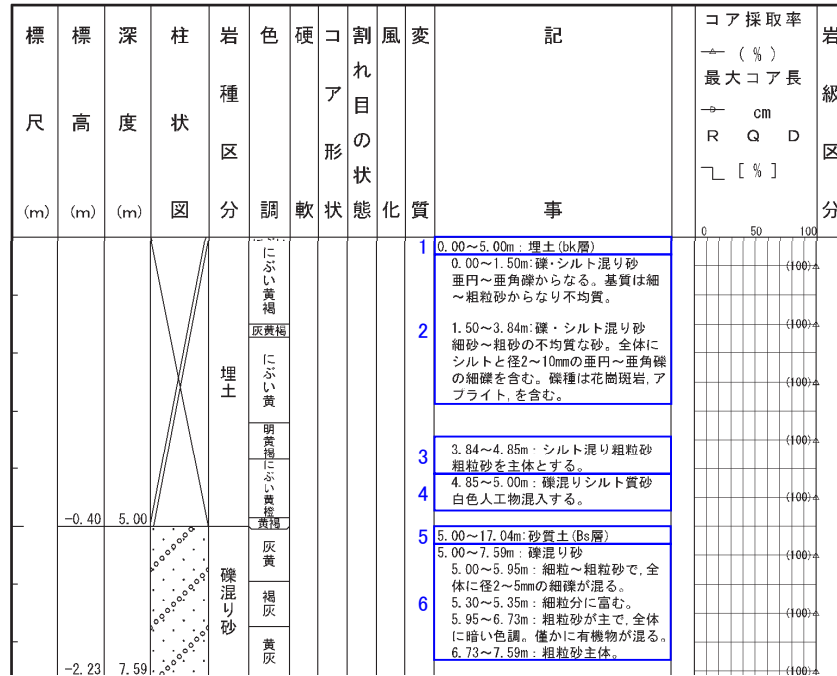
余白

**H24-B11-2**

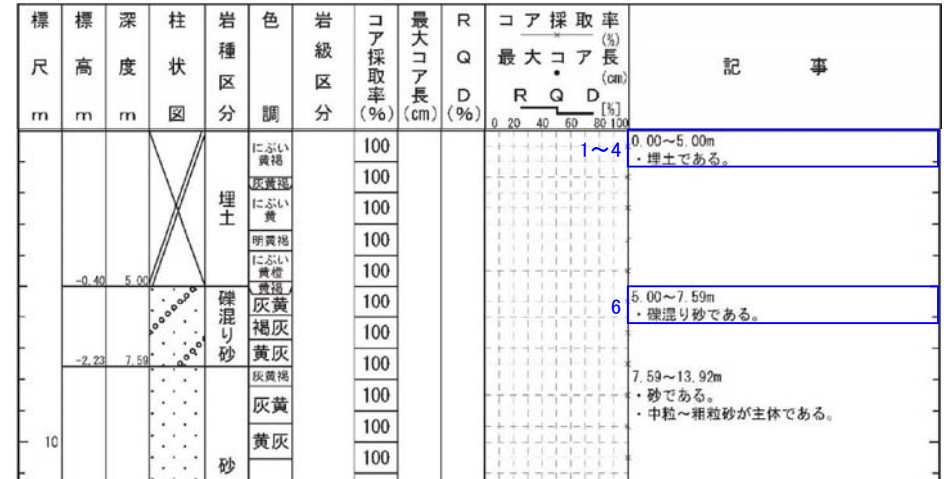
余白



## 報告書作成用柱状図 (H26年12月)



## 申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年12月)⇒申請書用柱状図
1~4	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
5	・区間毎の性状を個別に記載しているため、砂質土とのまとめ書きについては削除。
6	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。

報告書作成用柱状図  
(H26年12月)

申請書用柱状図

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分	
(m)	(m)	(m)								事	R Q D L [%]			
	-2.23	7.59		灰黄褐						7.59~13.92m: 砂 7.59~8.63m: 粗粒砂主体。 8.36~9.40m: 中粒砂主体。	100		7	
				灰黄								100		
				黄灰							9.40~10.54m: 上位側は細粒砂で、中央~下部側は中~粗粒砂が主。全体的には上方細粒化。	100		8
				灰								100		
				にぶい黄橙								100		
	-6.70	13.92		礫混り砂						11.83~13.92m: 粗粒砂主体 全体にシルト~細礫の混る不均質な砂。有機物が見かけ90°分布。	100		9	
	-7.42	14.94		灰							13.92~14.94m: 礫混り砂 細礫の混る粗粒砂が主で、シルトをわずかに混入。また有機物を含む。 14.32~14.40m: 径4~5mmの細礫を多く混入。	100		10
	-8.91	17.04		灰黄							14.94~17.04m: 砂 粗粒砂が主。全体に細粒砂と細礫を含む。	100		11

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D L (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記	事	
(m)	(m)	(m)								R Q D L [%]				
	-2.23	7.59		砂	黄灰		100					7.59~13.92m	7~9	
				砂	灰黄		100						・砂である。 ・中粒~粗粒砂が主体である。	
				砂	黄灰		100							
				砂	灰		100							
				砂	にぶい黄橙		100							
	-6.70	13.92		砂	礫混り砂		100					13.92~14.94m	10	
	-7.42	14.94		砂	灰		100						・礫混り砂である。 ・細礫の混る粗粒砂が主体である。	
	-8.91	17.04		砂	灰黄		100						14.94~17.04m	11

記事	報告書作成用柱状図(H26年12月)⇒申請書用柱状図
7~9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。</li> <li>・下位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、下位層と区別できる特徴として、中粒~粗粒砂主体であることを記載。</li> </ul>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。</li> <li>・上位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、上位層と区別できる特徴として、細礫の混る粗粒砂が主体であることを記載。</li> </ul>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。</li> <li>・上位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、上位層と区別できる特徴として、粗粒砂が主体であることを記載。</li> </ul>

報告書作成用柱状図  
(H26年12月)

申請書用柱状図

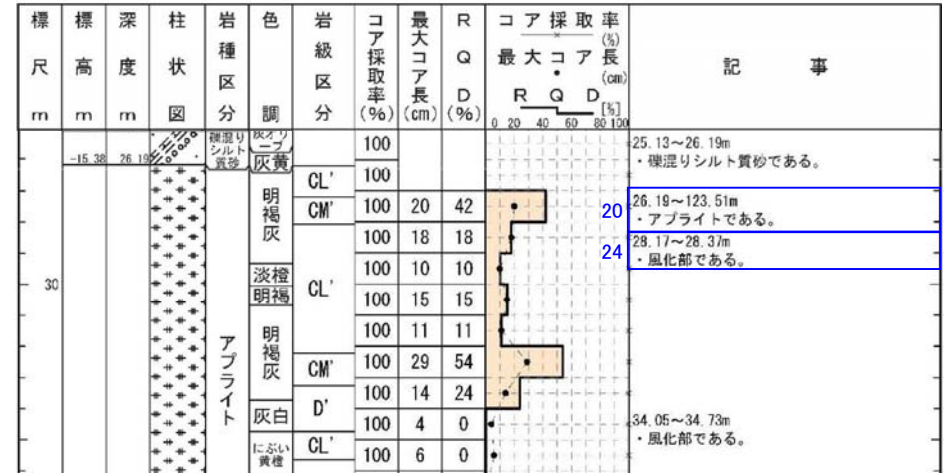
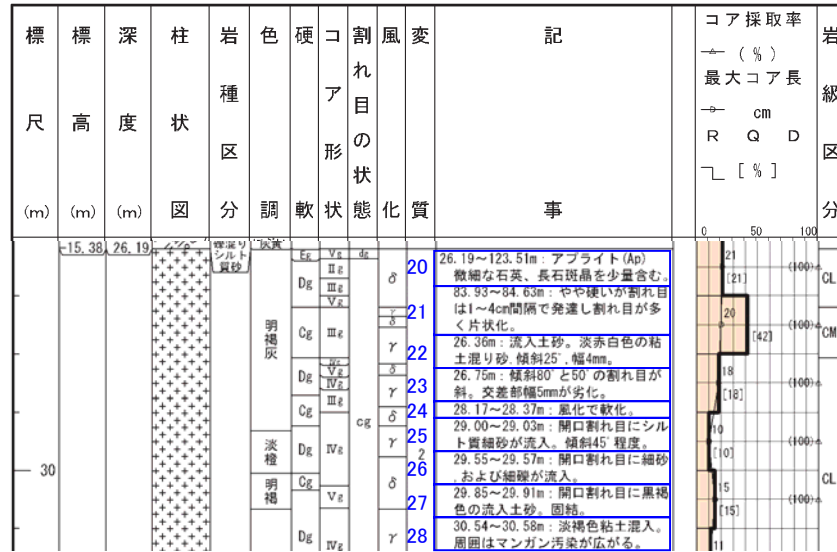
標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分
(m)	(m)	(m)								事	R Q D	[ % ]	
	-8.91	17.04			灰								
				礫混り砂						12 17.04~22.69m: 砂質土 (8sm層) 17.04~18.73m: 礫混り砂 径2~4mmの石英細礫を含む細~中粒砂。上位と比べて礫率低く約10%。少量の有機物含む。			
	-10.10	18.73											
	-10.33	19.05		砂質砂						13 18.73~19.05m: 礫質砂 細~中粒砂が主で、径2~5mmの細礫10~20%、径1~3mmの炭質物を混入。			
				有機質土混り砂	黄灰					14 19.05~22.69m: 有機物混り砂 細~中粒砂が主で、粗粒砂~細礫をわずかに混入。径2~10mm、最大50mmの炭化物が散在。			
										15 22.20~22.65m: 中~細粒砂主体。 2mm以下の片状もしくは繊維状の有機物が散在。			
	-12.90	22.69								16 22.69~26.19m: 砂質土主体 (Ca1層) 22.69~25.13m: シルト・礫混り砂、砂礫互層 シルト・礫混り砂は中粒砂が主で、径10~40mmの亜角~垂円礫を含む。単層厚は20~70cm。 砂礫は径10~50mmの亜角~垂円礫を40~60%含み、基質はシルト混り中粒砂。単層厚は20~40cm。地層境界に有機質砂が挟在。			
				シルト・礫混り砂、砂礫互層	褐灰					17 25.13~26.19m: 礫混りシルト質砂 径2~5mmの石英、及び5~40mmの亜角~垂円礫を数~15%含む。			
	-14.63	25.13								18 26.19~26.69m: 礫混りシルト質砂 径2~5mmの石英、及び5~40mmの亜角~垂円礫を数~15%含む。			
				シルト・礫混り砂、砂礫互層	灰オリーブ					19			
				礫混りシルト質砂	灰黄								

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D (%)	記事
(m)	(m)	(m)								
	-8.91	17.04			灰		100			
				礫混り砂			100			13
	-10.10	18.73					100			
				有機質土混り砂	黄灰		100			14
							100			15, 16
	-12.90	22.69					100			
				シルト・礫混り砂、砂礫互層	褐灰		100			18
	-14.63	25.13			灰オリーブ		100			
				礫混りシルト質砂	灰黄		100			19
	-15.38	26.19					100			

記事	報告書作成用柱状図 (H26年12月) ⇒ 申請書用柱状図
12	・区間毎の性状を個別に記載しているため、砂質土とのまとめ書きについては削除。
13	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・下位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、下位層と区別できる特徴として、粗粒砂主体であること及び、有機物を少量含むことを記載。 ・粒度については、粗粒砂が主体であると見直し。
14	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
15, 16	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
17	・区間毎の性状を個別に記載しているため、砂質土主体とのまとめ書きについては削除。
18	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・上位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、上位層と区別できる特徴として、中粒砂が主体であることを記載。 ・周囲に比べ含まれる礫が大きく、目立つことから、礫の特徴として、礫径、円磨度、礫率を記載。
19	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。

報告書作成用柱状図  
(H26年12月)

申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年12月)⇒申請書用柱状図
20	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。
21	・報告書作成用柱状図において83.93-84.63mの記事を誤って20m区間に記載したものの。 ・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
22	・流入土砂については、細粒分が割れ目を充填したものであり、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
23	・劣化の程度については、岩級区分に含めて示しているため削除。
24	・軟化の程度については、岩級区分に含めて示しているため削除。
25	・シルト質細砂の流入については、細粒分が割れ目を充填したものであり、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
26	・細砂及び細礫の流入については、細粒分が割れ目を充填したものであり、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
27	・土砂の流入については、細粒分が割れ目を充填したものであり、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
28	・粘土の混入については、細粒分が割れ目を充填したものであり、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・マンガン汚染については、補足的なものであるため削除。